



2024年度 統合報告書

参考和訳

目次

3 本報告書について

4 CEOメッセージ

ルネサスについて

7 ルネサスについて

8 グローバルネットワーク

9 ルネサスの価値創造ストーリー

2024年度の事業トピックス

11 2024年度事業業績

13 2024年度スポットライト:製品および開発ツール

15 CFOメッセージ

16 2024年度業績ハイライト

17 社外表彰

サステナビリティへの取り組み

21 リーダーの視点:ルネサスのサステナビリティ推進

23 サステナビリティ戦略とコミットメント

27 ESG目標

30 ステークホルダーマネジメント

31 2024年度ESGハイライト

32 2024年度の格付け、評価、指標

33 サステナブルな技術とイノベーション

環境 (Environment)

36 リーダーの視点:環境保全と持続的成長

38 環境保全への取り組み

41 気候変動への取り組み

46 水資源を守る

50 化学物質への対応

53 廃棄物に対する取り組み

56 エコプロダクト活動

59 ルネサス グリーンデバイス

63 生物多様性保全活動

社会 (Social)

71 リーダーの視点:優れた人材基盤の強化とサステナビリティの推進

74 ルネサス・カルチャー

76 ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

81 人材育成

85 安全衛生

ガバナンス (Governance)

92 リーダーの視点:ルネサスにおけるサステナビリティのガバナンス強化

94 ガバナンス体制

96 各取締役のスキルと多様性

98 コンプライアンス・企業倫理

101 リスクマネジメント

104 情報セキュリティマネジメント

106 タックス・ポリシー

ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)

108 人権保護に対する取り組み

111 サプライヤー・エンゲージメントと責任ある鉱物調達

114 地域社会との交流と社会貢献活動

118 イニシアティブへの参画

データ集

120 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 対照表

122 サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表

124 グローバル・レポーティング・イニシアチブ (GRI) 対照表

129 2024年度環境データ

133 第三者検証:環境データ

134 第三者検証:人材データ

135 将来の見通しに関する記述

本報告書について

当社のアプローチ

本サステナビリティ年次報告書は、ルネサス エレクトロニクス株式会社(以下、ルネサス)の環境・社会・ガバナンス(ESG)戦略、取り組み、および成果をまとめたものです。

本報告書は、グローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)基準、サステナビリティ会計基準審議会(SASB)半導体業界基準、および気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の勧告に従って作成されています。開示情報の詳細は、[データ集](#)をご参照ください。

本報告書では、2021年から参加している国連グローバル・コンパクトおよび持続可能な開発目標(SDGs)への当社の取り組みについて説明しています。

正確性および検証

当社は、本報告書の作成およびその情報を正確に保つことはルネサスの務めであることをここに認めます。2024年12月31日を決算日とする2024年度の環境データは、第三者によって審査・検証されています(129ページをご参照ください)。2023年12月31日を決算日とする2023年度の人材データは、第三者によって審査・検証されています(133ページをご参照ください。2024年度のデータは2025年に検証されます)。本報告書に記載されているその他のデータおよび情報は、ルネサスのサステナビリティ部門およびリーダーシップチームによって審査されています。

報告書概要

対象期間	本報告書の主な対象期間は、2024年度(2024年1月1日~12月31日)です。 ※一部の内容については、2025年1月以降の活動も含まれています。
対象会社	ルネサス エレクトロニクス株式会社およびその連結子会社
用語表記について	「ルネサスグループ」とは、ルネサス エレクトロニクス株式会社を含むグループ全体を指します。
報告範囲	本報告書に記載された情報およびデータは、特に記載がない限り、ルネサスの全世界の拠点を対象としています。ルネサスの拠点に関する詳細は、当社ウェブサイトの「 グローバルオペレーション 」をご覧ください。 環境データの集計対象は、ルネサス本社、武蔵事業所、およびルネサスが運営する生産拠点です。これらの拠点は、ルネサスグループ全体のエネルギー消費量および排出量の90%以上を占めています。
発行頻度	年次の統合報告書として毎年発行しています。
発行日	2025年6月(前回発行:2024年5月)

お問い合わせ

本報告書およびESGへの取り組みに関するご質問やご意見がございましたら、ルネサス [サステナビリティ部門](#)までお問い合わせください。皆様からのご連絡をお待ちしています。

Copyright.©.2024.Renesas.Electronics.Corporation 本報告書は、[OBATA Design, Inc](#)が企画・制作しました。

CEOメッセージ

当期を振り返って

当期（2024年1月1日から2024年12月31日まで）は、世界的なインフレや地政学リスクの高まりに加え、孤立主義の強化や極右勢力の台頭による保護主義政策の拡大懸念が重なり、世界経済の先行きは依然として不透明感を増しました。半導体市場においては、AIデータセンター向けの製品を除き、在庫調整や消費低迷の影響が続きました。特に産業機器向け製品では在庫調整が長期化しました。また、自動車の電装化により車載用半導体の需要は増加したものの、長引く在庫調整によってその伸びは相殺されました。

こうした厳しい事業環境の中、当社は柔軟に対応し一定の成果を着実に確保しました。「2030 Aspiration」（2030年までに、組み込み半導体ソリューションサプライヤトップ3、売上収益200億米ドル以上、2022年1月比時価総額6倍）を達成するため、コスト削減と合理化を推進しつつ、将来の成長に向けた投資を慎重かつ大胆に実行しました。その結果、当期の売上収益、売上総利益および営業利益は前期を下回る結果となったものの、産業・車載用半導体の市場低迷が長期化する中で、最低限の利益水準を維持することができました。

当期の施策および進捗について

当期は、年初に組織再編を実施し、より幅広い顧客ニーズに即したソリューション提供を強化するため、従来のアプリケーション軸の体制から技術を主軸とした事業構造へと転換しました。同時に、ソフトウェアおよびデジタイゼーションに特化した組織を新設するとともに、オペレーション、エンジニアリングなどの全社横断的な組織を構築しました。さらに、昨年9月には、顧客との関係をより強化し、共通のインタフェースの提供を通じてユーザー体験（UX：User Experience）を向上させることを企図して、UXグループを新設し、本年1月にはリーダーシップチームの変更を行い、一層の体制強化を実施しました。

デジタイゼーション戦略の加速に向けては、昨年8月にプリント基板設計ソフトウェア等のリーディング企業であるAltium社を買収しました。買収後の統合も順調に進み、本年1月にはAltium社のチームを、当社ソフトウェア&デジタイゼーショングループへ統合しました。

さらに、当社は近年成長が著しいインド市場を注力市場と位置づけ、事業拡大を推進しています。2025年中までにインドの人員を前年比で倍増となる1,000人規模へ拡大する計画を進め、事業基盤のさらなる強化を図っています。昨年3月にはCG Power and Industrial Solutions社およびStars Microelectronics社と共同で、インド・グジャラート州に半導体の組立・テストを請け負うOSAT工場を構築・運営する合併会社設立の契約を締結しました。

新製品として、第5世代R-Carの第一弾となる車載向けSoC「R-Car X5H」を発表しました。本製品は、業界最高レベルの高性能を提供すると同時に、最先端の車載用3nmプロセスを採用した高集積化により低消費電力化を実現します。そのほか、独自のAIアクセラレータを内蔵し、ビジョンAIとリアルタイム制御を1チップで実現する次世代ロボティクス向けMPU「RZ/V2H」や、複数のセンサーを搭載し、スマートな空気質モニタリングを実現する超小型センサーモジュール「RRH62000」もリリースしました。これら製品を含む多くの製品を市場に投入し、将来の売上収益の源泉となる多数の商談を獲得しました。

株主還元については、1株当たり28円の期末配当を上程しました。今後も、可能な限り継続かつ安定的な株主還元を目指してまいります。

コーポレートガバナンスの強化に関しては、モニタリングモデルによるガバナンスのさらなる推進を図るため、昨年より指名委員会等設置会社に移行しました。

代表執行役社長 兼 CEO

柴田 英利

また、サステナビリティ・ESGの取り組みとして、昨年、初めて財務情報と非財務情報を統合した「統合報告書」を発行するなど、サステナビリティ活動を積極的に推進しました。こうした取り組みが評価され、MSCI社やFTSE Russell社をはじめとする主要ESG評価機関のESGインデックス構成銘柄に継続選定されました。さらに、世界の電子機器メーカーなど約200社で構成され、グローバルサプライチェーンにおける、労働、安全衛生、環境、倫理などの改善を推進するRBA (Responsible Business Alliance) の社会的責任監査において、当社的那珂工場が最高位のプラチナ・ステータスを取得しました。

今後の取り組みについて

当社は、事業環境に柔軟に適応して長期的な成長を実現し、「2030 Aspiration」を達成するため、これまで進めてきた事業戦略の基本に立ち返る「Back to Basics」の方針を強力に推進します。具体的には大きく以下の3点に注力します。

①生産性の向上

事業運営の無駄を省く効率化を図りながら、30カ国以上に約22,000名の従業員を擁するグローバル企業としてのスケールメリットを最大限に生かした、生産性の向上を推進します。

②Purposeful investment

当社のコアである組み込み半導体ソリューションと、その価値を形成・向上させるUXおよびデジタルライゼーションに経営資源を戦略的に配分します。

これまでは中長期の戦略的な取り組みと短期的な売上成長をともに優先するというアプローチを採ってきました。それは大きな成果を上げましたが、組織全体の負荷や環境の変化に鑑みて、今一度原点に立ち返ることとしました。今後は、中長期的な成長を見据え、事業の優先順位をこれまで以上に明確にした上で、戦略的取り組みに最大限の資源を投じていきます。

③UX・デジタルライゼーション戦略の加速

本年1月に、デジタルマーケティング機能や、システムソリューションの担当部門をUXグループに統合し、UXの推進体制を拡大・強化しました。

デジタルライゼーションに向けては、買収したAltiumと一体となり、あらゆる規模・業種のユーザーが電子機器を設計できる統合されたオープンな「電子機器設計・ライフサイクルマネジメントプラットフォーム」の構築を目指し、取り組みを進めています。本年1月には、AltiumによるPart Analytics社の買収を発表しました。

今後も、新たな体制のもと、UXおよびデジタルライゼーションの取り組みを最重要戦略として位置づけ、一層加速させていきます。システム設計から開発・生産、さらにはライフサイクルマネジメントに至るまで、一貫したデジタル化を実現するプラットフォームを提供し、世界中の顧客がより楽(ラク)に開発を進められる環境を目指します。

その他の取り組みとして、本年1月に、ESGに関する全社横断的な組織を発足させるとともに、監査委員会を「監査・サステナビリティ委員会」と再編し、ESG活動の推進・監督の役割を強化しました。これら強化された体制のもとで、カーボンニュートラル達成目標の2040年への前倒しなど、各種施策を推進してまいります。

地政学リスクについては、短期的には、関税によるサプライチェーンへの影響に懸念があります。中期的な視点では、米国の規制緩和と中国におけるAIを中心とした選択的なテクノロジーへの投資が技術革新を加速すると考えています。当社としては、これらの動向を的確に把握し、中長期的な競争力を強化するためのデジタルライゼーションを着実に実行してまいります。

当社は、「2030 Aspiration」、さらに当社のパーパスである「To Make Our Lives Easier」を実現すべく、これからも、人々の暮らしを楽(ラク)にする製品やソリューションを提供してまいります。これからも、変化し続けるルネサスにご期待ください。

柴田英利

柴田 英利

取締役 代表執行役社長 兼 CEO



「2030 Aspiration」(2030年までに、組み込み半導体ソリューションサプライヤートップ3、売上収益200億米ドル以上、2022年1月比時価総額6倍)を達成するため、コスト削減と合理化を推進しつつ、将来の成長に向けた投資を慎重かつ大胆に実行しました。”



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

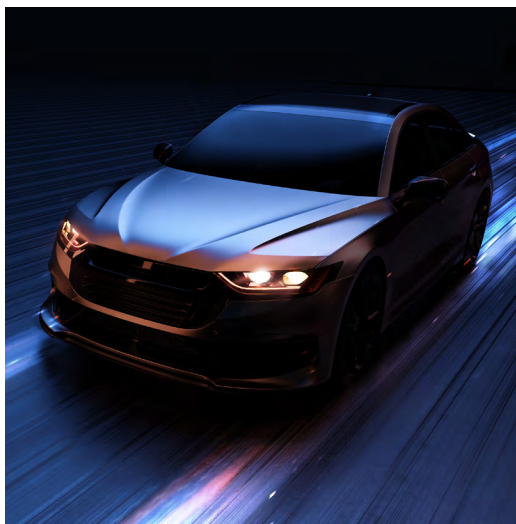
ルネサスについて

- 7 ルネサスについて
- 8 グローバルネットワーク
- 9 ルネサスの価値創造ストーリー

ルネサスについて

ルネサスは、「To Make Our Lives Easier」(人々の暮らしを楽“ラク”にする)というパーパスの下、組み込み半導体ソリューションを提供します。高品質とシステムレベルノウハウを兼ね備えた組み込み半導体のリーダーとして、自動車、産業、インフラ・IoT分野向けに、ハイパフォーマンスコンピューティング、組み込みプロセッシング、アナログ&コネクティビティ、そしてパワーを含めた幅広い製品ポートフォリオを軸とした、スケーラブルで包括的なソリューションを提供しています。ルネサスは、30カ国以上で22,000人を超える多様な従業員と共に、限界に挑戦しながら、デジタルイノベーションを通じてユーザーエクスペリエンスを充実させ、新たなイノベーションの時代を切り開いていきます。そして世界中の人々やコミュニティの未来のために、持続可能で省エネ効果の高いソリューションの開発に全力で取り組み、「To Make Our Lives Easier」を実現します。

自動車



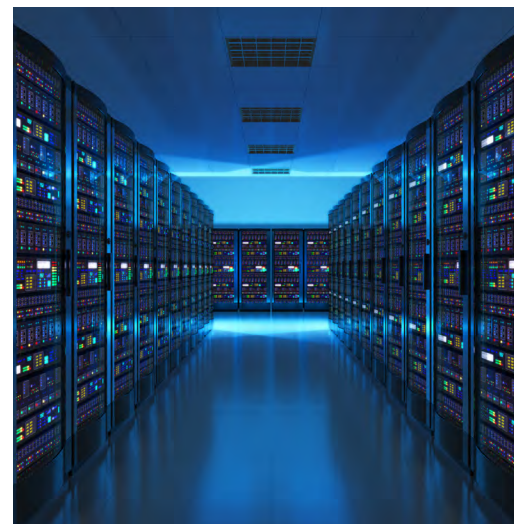
信頼性の高い車載制御、安全で安心な自動運転、環境にやさしい電気自動車

産業



無駄がなく、フレキシブルでスマートなインダストリ

インフラ



安全と豊かさをもたらす堅牢なインフラ

IoT



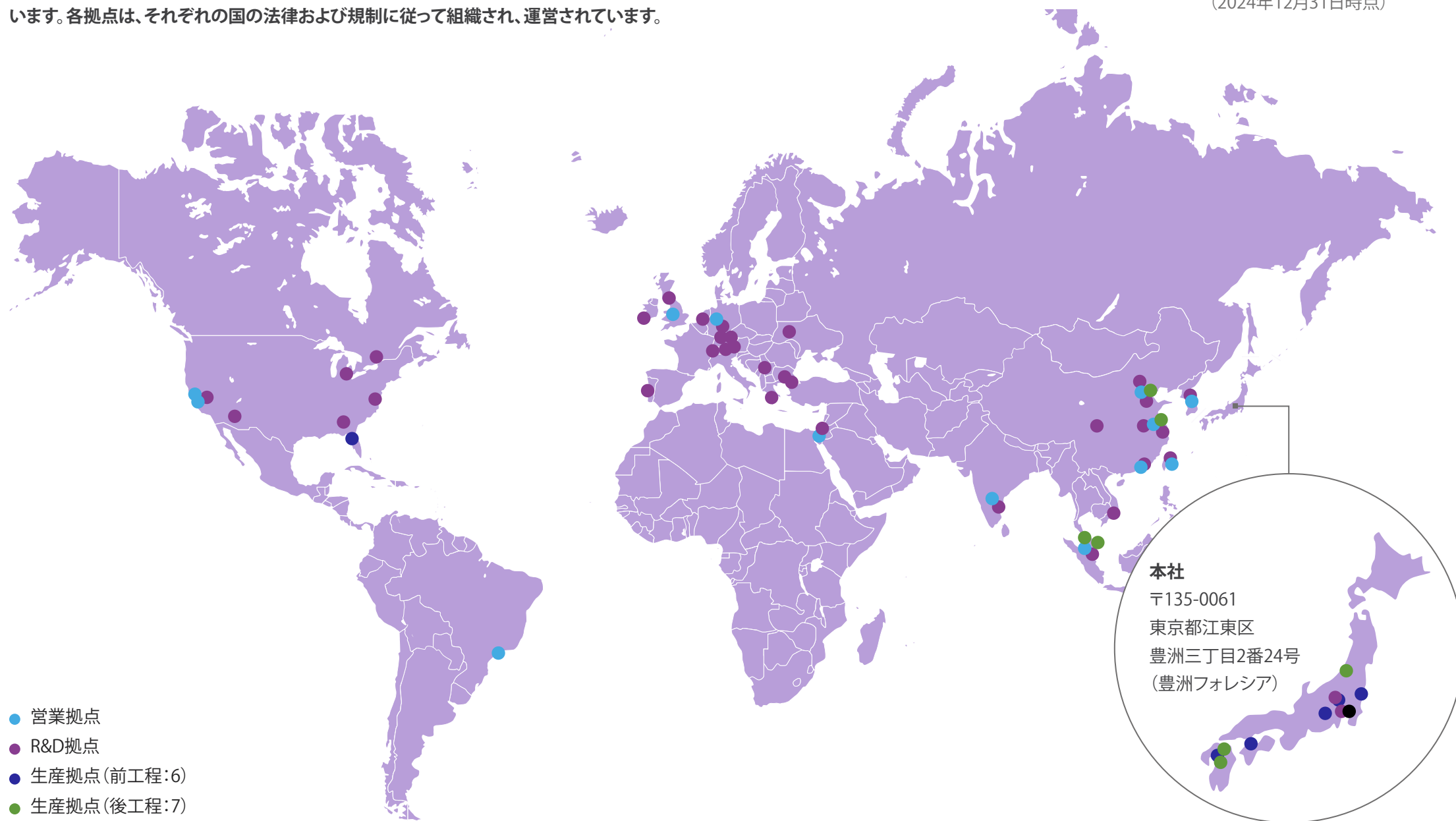
IoTを活用した安心・健康的で快適なライフスタイル

グローバルネットワーク

オペレーション
30カ国以上

従業員
22,711名
(2024年12月31日時点)

ルネサスは現在、東京に本社を置き、世界各地の営業拠点やR&D・生産拠点を通じ、事業を展開しています。各拠点は、それぞれの国の法律および規制に従って組織され、運営されています。



ルネサスの価値創造ストーリー

目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)



データ集

インプット

財務資本
 強固な財務基盤
 ■ 総資産: 3兆1,670億円
 ■ 自己資本: 2兆56億円
 高い収益性
 ■ 売上収益: 1兆4,697億円
 ■ 売上総利益率: 57%

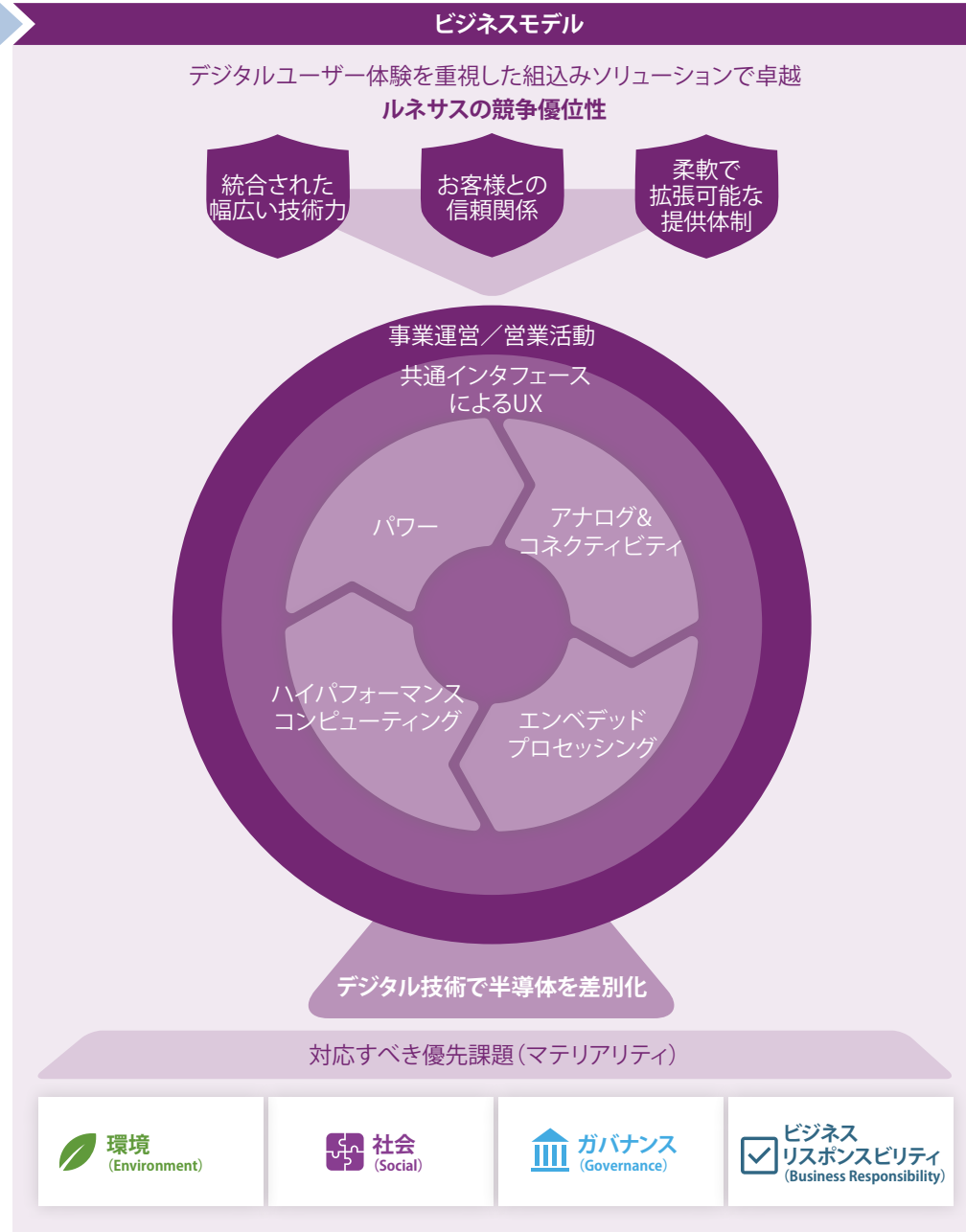
製造資本
 グローバル製造ネットワーク
 ■ 生産拠点は日本国内に5、アジア地域に8

知的資本
 革新的技術開発に向けたR&D
 ■ 研究開発投資: 2,500億円
 多様な分野にわたる確立されたアプリケーションとソリューション
 ■ 幅広い技術・事業分野をカバーする有効特許および出願中特許: 約2万件

人的資本
 多様でインクルーシブな人材構成
 ■ 従業員数: 22,711名
 人材獲得・定着を支えるアジャイルで柔軟な企業文化

社会・関係資本
 地域社会および社会への積極的な貢献
 ■ 社会貢献活動費用: 3,800万円
 ■ 従業員のボランティア活動時間の価値: 300万円
 ■ 協賛金: 371万円
 顧客・サプライヤーネットワーク
 ■ 顧客数: 5,000社以上

自然資本
 環境に配慮した事業運営
 ■ エネルギー使用量: 1,621,052MWh
 ■ 取水量: 1,558.6万m³



アウトプット

財務実績

- 自動車向け売上: 7,028億円
- 産業／インフラ／IoT向け売上: 6,368億円

非財務実績

環境 (Environment)

- 温室効果ガス (GHG) 排出量: 26%削減
- エネルギー使用量: 10.1%削減
- 水リサイクル率: 32%
- 廃棄物リサイクル率: 92%

社会 (Social)

- 主要生産拠点におけるISO 45001認証取得率: 100%
- サプライヤー行動規範に同意したグローバルサプライヤー: 92%

ガバナンス (Governance)

- 取締役会における女性比率: 33%
- 社外取締役比率: 83%

ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)

- ルネサス従業員によるボランティア時間の価値: 507万円

アウトカム

2030 Aspiration

- 世界トップ3の組み込み半導体ソリューションサプライヤー
- 2022年対比で時価総額6倍を達成
- 2030年までにGHG排出量を38%削減
- 2030年までに水総使用量原単位33%改善／水リサイクル率35%を達成
- 100%コンフリクトフリーの3TG調達を達成

サステナビリティへの取り組み

- 廃棄物のリサイクル率90%以上を達成
- 取締役会の少なくとも30%を女性が占めることでジェンダー平等を推進

パーパス

To Make Our Lives Easier

2024年度の 事業トピックス

- 11 2024年度事業業績
- 13 2024年度スポットライト:製品および開発ツール
- 15 CFOメッセージ
- 16 2024年度業績ハイライト
- 17 社外表彰

2024年度事業業績



目次



ルネサスについて



2024年度の
事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)




データ集




ルネサスでは、**自動車**と**IIoT**の2つのセグメント別に業績を開示しています。

自動車は、次の2つのサブセグメントで構成されます。車載制御（走る、曲がる、止まるなど）の車両機能を担う半導体やxEV関連製品向けの半導体、および車載情報（IVIおよびAD/ADAS機能用）の半導体。

IIoTは、次の3つのサブセグメントで構成されます。産業用（ファクトリーオートメーションやビルディングオートメーションなどの最終市場向け）半導体、インフラ（データセンターおよび基地局用など）向け半導体、およびその他のIoT製品（PC、携帯電話、家電製品やウェアラブルデバイスなどの民生機器）向けの半導体。

ESG活動：ルネサスでは、事業戦略の中核にサステナビリティを据え、国連の持続可能な開発目標（SDGs）への貢献と、国際的なESG基準への整合を積極的に図っています。当社の半導体ソリューションおよびサプライチェーン全体に倫理的なビジネス慣行を組み込むことで、お客様の脱炭素化の取り組みを支援し、進化するグローバルな持続可能性要件への対応を可能にしています。透明性の高いガバナンス体制を備え、サステナビリティ情報を進んで開示することで、ステークホルダーとの信頼関係を強化し、持続可能なイノベーションを推進する戦略的パートナーとしての地位を確立しています。ESGパフォーマンスの継続的な向上は、投資家、お客様、そして社会に対する価値創造に向けた、当社の長期的なコミットメントを反映しています（採用されたESG評価および指数）。

セグメント	売上収益	売上総利益率	営業利益率	主要アップデート
自動車 	7,028億円	52.3%	31.7%	<ul style="list-style-type: none"> ■自動車部門全体の売上高は、2023年と比較して6.4%増加しました。これは、円安効果と、販売チャンネルにおける在庫積み増しによるものです。 ■車載制御/情報用途はいずれも前年比で一桁台後半の増加率を示し、特にADAS用途は、R-Car Gen3の牽引により、前年比20%超という高い成長を示しました。 ■当期の自動車部門の売上総利益率は52.3%で、主に工場稼働率の低下により、前年度に比べ0.4%低下しました。 ■当期の自動車部門の営業利益率は31.7%で、前年度に比べ3.1%低下しました。売上高は増加したものの、主に研究開発費の増加が利益率を押し下げました。

セグメント	売上収益	売上総利益率	営業利益率	主要アップデート
IIoT 産業  インフラ  IoT 	6,368億円	60.6%	27.2%	<ul style="list-style-type: none"> ■ IIoTセグメント全体の売上高は、2023年と比較して20.3%減少しました。データセンター向け製品の一部で円安効果や売上げがあったものの、主に産業用機器およびIoT市場における需要の減速が大きく影響し、セグメント全体では減収となりました。 ■ 産業用機器セグメントの売上高は、主にファクトリーオートメーション分野における需要の減少や、顧客による在庫調整の影響により、前年比で約40%の減少となりました。IoTセグメントの売上高は、モバイルおよびその他の消費者向け製品の需要の減少により、10%台後半の減収となりました。インフラセグメントでは、AIおよび汎用サーバー向けのデジタル電源製品が大きく伸長したものの、その他のインフラ製品向けの需要減で相殺され、ほぼ前年同期並みの売上高となりました。 ■ 当期のIIoTセグメントの売上総利益率は60.6%となり、前年度に比べ0.2%減少しました。売上高減少と工場稼働率の低下による利益率の低下が、主な要因です。 ■ 当期のIIoTセグメントの営業利益率は27.2%となり、前年度に比べ6.3%ポイント低下しました。営業利益率の低下は、主に売上減少によるものです。
全社合計 (その他を含む)	1兆3,485億円	56.1%	29.5%	

2024年度スポットライト:製品および開発ツール



目次



ルネサスについて



2024年度の
事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集



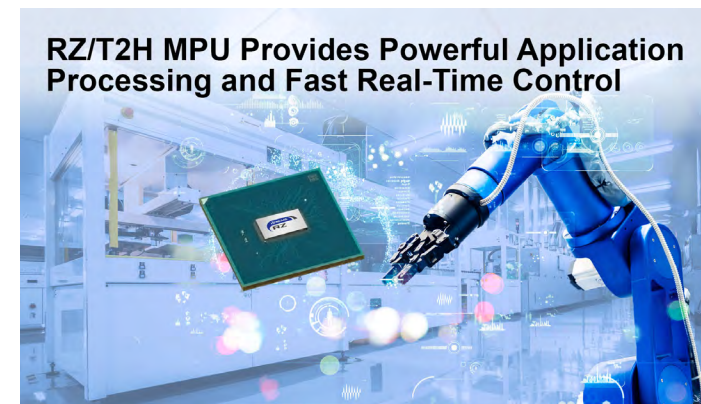
チップレット技術の適用により性能拡張が可能な ハイエンドセントラル コンピューティング ソリューション

ルネサスの「R-Car X5H」は、業界最高クラスの高性能を実現すると同時に、最先端の車載用3nm(ナノメートル)プロセスを採用した高集積化により低消費電力化を実現しました。ユーザーは、車両のセントラルコンピューティングECU(電子制御ユニット)に本製品を使用することで、将来を見据えたシステム開発を効率的に実現可能です。本製品は、複数の車載ドメイン向けに高集積で安全な処理ソリューションを単一チップで提供する、業界初の製品のひとつであり、ルネサス独自のハードウェアベースのアイソレーション技術によって実現されています。チップレット技術により、AIおよびグラフィックス処理性能を柔軟に拡張でき、最大で3~4倍以上に向上させることが可能です。R-Car Gen 5の中でも最高性能を誇るR-Car X5Hは、複雑化が進むSDV(ソフトウェア定義車両)の開発にダイレクトに対応し、車両の安全性を確保しながら技術的な課題の克服を支援します。(詳細はこちら)



次世代ロボティクス向けにビジョンAIとリアルタイム 制御を1チップで実現する、ハイエンドMPU 「RZ/V2H」

RZファミリの中で最高クラスの性能を誇るRZ/V2Hは、ビジョンAIとリアルタイム制御の両方を可能にします。新製品には、新世代のAIアクセラレータ「DRP-AI3」を搭載し、電力性能を従来の10倍高め、10 TOPS/Wを実現しました。この性能向上により、画像AIアプリケーションをクラウドAIを使わずにエッジAIだけで使用可能です。これらのコアを1チップに統合することで、次世代ロボティクス制御のために必要となるビジョンAIと高速リアルタイム制御を1チップで実現します。さらに、RZ/V2Hは低消費電力のため冷却ファンなどの放熱部品が不要なことから、機器の小型化とシステムコストの低減、信頼性の向上が可能です。(詳細はこちら)



産業ロボットやPLC、モーションコントローラーに 最適な高性能アプリケーション処理と高速 リアルタイム制御を実現する、ハイエンドMPU 「RZ/T2H」

工場における無人化、省人化のニーズの高まりに伴い、垂直多関節型ロボットなどの産業ロボットや、工場のオートメーション化を実現するコントローラー機器の導入が進んでいます。RZ/T2Hは、最大9軸までの産業用ロボットのモーターを高速かつ高精度に制御でき、1チップで産業用イーサネットを含む多様なネットワーク通信に対応可能です。本MPUは、PLC(プログラマブルロジックコントローラー)、モーションコントローラー、DCS(分散制御システム)、CNC(数値制御装置)といった産業用コントローラー機器を主な対象としています。従来MPUを複数チップ使用したり、FPGAを組み合わせることで実現していたシステムをRZ/T2Hの1チップで実現できるようになるため、部品点数の削減や、FPGAのプログラム開発にかかる工数の削減が可能です。(詳細はこちら)



目次



ルネサスについて



2024年度の
事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集



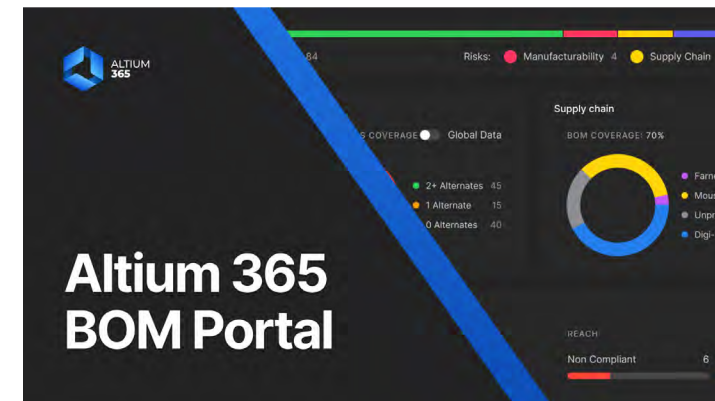
商用利用可能なソフトウェアを備えたSDV開発向けR-Car Open Access (RoX) プラットフォーム

SDV開発向けR-Car Open Access (RoX) プラットフォームは、車載システムの開発者が次世代の車両を迅速に開発し、安全性を確保しながらソフトウェアアップデートを継続的に実施するために必要なハードウェア、OS、ソフトウェア、ツールをもれなく統合しています。ルネサスのR-CarファミリのSoC (System on Chip) およびマイコン (MCU) 向けに設計された本開発プラットフォームは、AIアプリケーションをシームレスに展開するための包括的なツール群を備えています。RoXは、SDV開発に必要なほとんどの基本レイヤを統合しました。これにより、Tier 1サプライヤーのSDV設計の複雑さを大幅に軽減し、開発期間とコストを削減します。ルネサスのカスタマイズ可能なソリューションは、クラウド上の開発環境やシミュレータの提供を通じて車両機能や安全性に関する課題を解決し、ソフトウェアファーストのアプローチと、ハードウェアとソフトウェアの並列開発をサポートします。(詳細はこちら)



Altium Discoverがエレクトロニクスのサプライチェーンと流通のエコシステムをつなぎ、イノベーションの加速を実現

2024年にドイツ・ミュンヘンで開催されたElectronica 2024において、業界をリードする電子設計システムで知られるルネサス傘下のAltium社は、半導体メーカー、販売業者、製品開発者を信頼を基盤に結びつける統合型コラボレーションエコシステム「Altium Discover」を発表しました。Altium 365の実績あるクラウド機能を活用し、リアルタイムかつ透明性の高いコラボレーションを実現することで、エレクトロニクスのサプライチェーンに関わるすべての関係者が、製品の構想段階から量産まで安心して連携できる環境を提供します。本プラットフォームは、ワークフローを効率化するだけでなく、製品ライフサイクル全体における透明性、セキュアな連携、アカウントビリティを確保することで、今日の細分化された業界において非常に重要な価値である「信頼」を築きます。(詳細はこちら)



エンジニアリングチームと調達チームのコラボレーションを実現するAltium 365 BOMポータル

Altium 365プラットフォーム内に新たに導入されたBOM (部品表) ポータルは、エンジニアリングチームと調達チーム間の連携を飛躍的に強化し、エレクトロニクス設計におけるBOM管理を統一的行うためのアプローチを提供します。生産中のすべてのBOMを一元的に監視できる包括的なダッシュボードを調達チームとエンジニアリングチームの双方が活用できます。また、部品供給の問題が生じた場合に即座に分析情報を得られます。このポータルは、製品ライフサイクル全体で効率的なコラボレーションと的確な意思決定を促進します。Octopart、SiliconExpert、S&P Globalなどの主要なデータソースと連携することで、リアルタイムかつ正確な部品情報をユーザーに提供することができます。これは、スマートかつデータに基づく意思決定を行う上で極めて重要です。(詳細はこちら)

CFOメッセージ



目次



ルネサスについて



2024年度の
事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

2024年は、世界経済の先行き不透明感が続く中で、需要の変動が半導体市場に大きな影響を与えた一年となりました。当社は、在庫の適正管理、コストの抑制、戦略的な投資をバランスよく推進することで、収益性を維持しつつ成長基盤の強化に取り組みました。

通期の売上収益は1兆3,485億円となり、市場環境の変化に対応する中で、前年比8.2%の減少となりました。一方、粗利益率は56.1%と、厳格なコスト管理により、前年の57.0%からわずかに低下にとどまりました。営業利益率は29.5%となり、厳しい市場環境下でも安定した利益を確保しました。

当社の中核事業は、自動車向け事業と、産業・インフラ・IoT向け事業の2つから成ります。自動車向け事業の売上収益は7,028億円(前年比6.4%増)となり、市場調整の影響を受けながらも、EV(電気自動車)およびADAS(先進運転支援システム)関連製品の成長により、長期的な需要は依然として堅調です。一方で、産業・インフラ・IoT向け事業の売上収益は6,368億円(前年比20.3%減)となり、産業分野における市況調整の影響を受けました。

キャッシュフローおよび資本配分

2024年のキャッシュフローは、営業キャッシュフローが3,405億円、投資キャッシュフローが1兆2,841億円となりました。これは主に、Altium社およびTransphorm社の買収に伴うものです。これにより、設計ソフトウェアおよびパワー半導体分野における当社の競争力が大きく向上しました。

キャピタルアロケーションに関しては、2023年に開始した配当方針を継続し、500億円超の配当を実施しました。今後も、利益の持続的な還元を目指しつつ、設備投資・M&Aを含む戦略投資を考慮し、適切なバランスで株主還元の最大化を図ってまいります。

M&Aおよび統合戦略 (PMI)

2024年は、当社のM&A戦略における重要な転換点となる年でした。特に、Altium社およびTransphorm社の買収は、当社の成長戦略において極めて重要です。Altium社のPCB設計ソフトウェアおよびクラウドプラットフォームとの統合により、顧客向けの設計エコシステムが強化され、ハードウェアとソフトウェアの融合を通じて付加価値の高いソリューションを提供可能となります。また、Transphorm社のGaN(窒化ガリウム)技術の活用により、次世代パワー半導体分野での競争力を一層高めることができます。

PMI (Post Merger Integration: 買収後の統合プロセス) においては、両社の強みを最大限に活かしながら、売上成長およびコストシナジーの創出を図ります。これにより、中長期的な収益基盤の強化と持続的成長を実現してまいります。

今後の展望

2025年に向けて、当社は「2030 Aspiration」の達成に向けた取り組みをさらに加速させます。特に、Altium社およびTransphorm社との更なる統合を通じてシナジーを最大化し、製品・サービスの付加価値を向上させるとともに、クラウドベースの開発環境およびソフトウェア戦略の強化を通じて、顧客エコシステムの拡充を図ります。

また、2024年の成果を基盤とし、引き続きコストの効率的な管理と収益性の最適化により、収益性および財務健全性を維持します。さらに、サステナブル経営の観点から、エネルギー効率の高い技術の活用やカーボンニュートラルに向けた取り組みを推進し、

長期的な視点で持続可能なビジネスモデルの確立を目指します。

これらの取り組みを通じて、2025年以降の成長戦略の確実な実行と、持続的な企業価値の創出を目指してまいります。引き続き、株主およびステークホルダーの皆さまと共に、新たな挑戦に取り組んでまいります。



執行役員 兼 CFO

新開 崇平

2024年業績ハイライト

目次



ルネサスについて



2024年度の
事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

売上収益

1兆3,485億円

売上総利益率

56.1%

営業利益率

29.5%

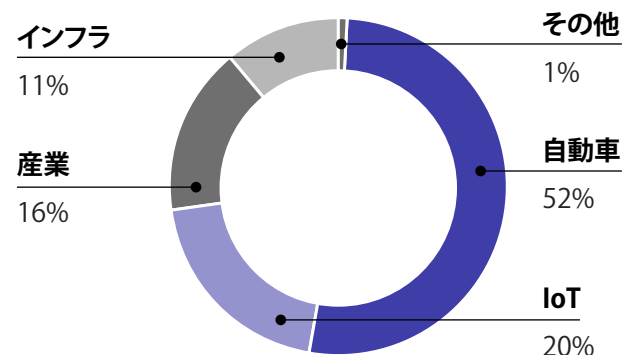
親会社の所有者に帰属する当期利益

3,604億円

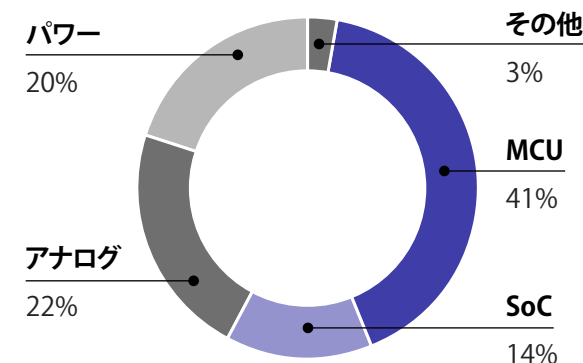
EBITDA

4,862億円

セグメント別売上収益



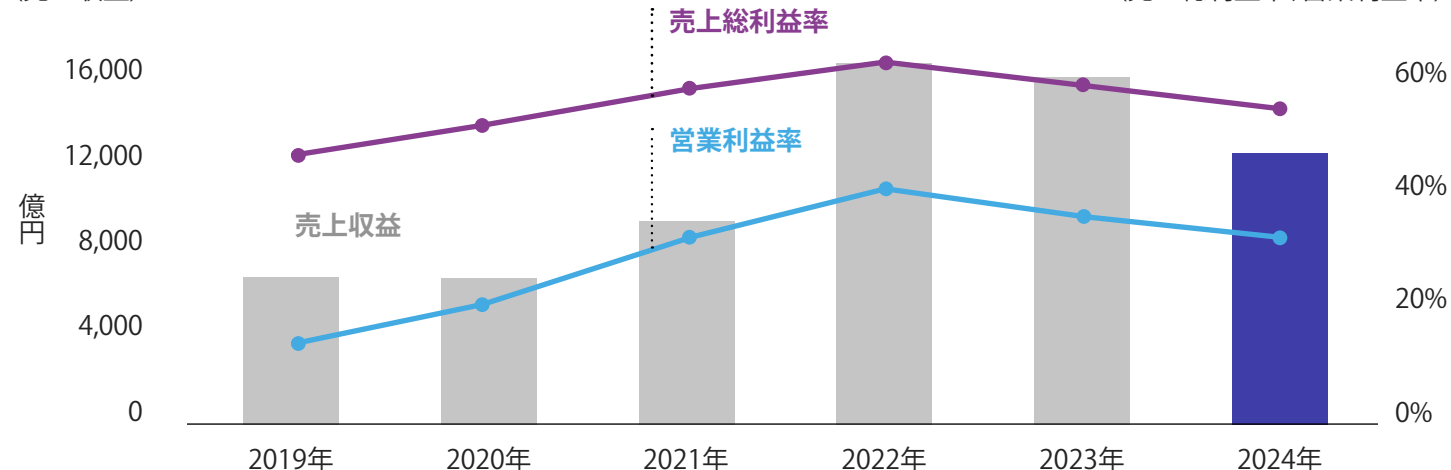
プロダクト別売上収益



成長の軌跡

(売上収益)

(売上総利益率、営業利益率)



社外表彰

ルネサスは、2024年に以下の賞を受賞しました。



FTSE Russellの3つのESG投資指数に選定

ルネサスグループは、当社の優れた環境・社会・ガバナンス (ESG) 活動が評価され、「FTSE4Good Index Series」、「FTSE Blossom Japan Index」、「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の3つの構成銘柄に3年連続で選定されています。

これら3つの指数は、ロンドン証券取引所グループの完全子会社であるFTSE Russell社が構成したもので、サステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されています。FTSE Blossom Japan IndexおよびFTSE Blossom Japan Section Relative Indexは、世界最大規模の公的年金運用機関である年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF) がESGパッシブファンドのベンチマークとして採用しています。

PRIDE指標2024の「ゴールド」を受賞

ルネサスは、PRIDE指標2024にて、栄えある最高評価の「ゴールド」を3年連続で受賞しました。この指標は、日本のwork with Prideが策定した、企業やその他の組織内におけるLGBTQ+などの性的マイノリティに関する取り組みを評価するためのものです。

当社は、さまざまなプログラムやイベントを通じて、LGBTQ+に関する取り組みを継続的に拡充しています。昨年は、差別のない福利厚生制度を強化するとともに、啓発活動やグローバルの全従業員を対象としたハラスメント防止に関する研修を実施しました。直近では、10月にダイバーシティ推進月間を開催し、職場でのアンコンシャスバイアスやジェンダーステレオタイプ、および心身の健康についてのパネルセッションを従業員向けに主催しました。また、LGBTQ+の当事者とアライのために、サポートやネットワーキングの機会を提供するための従業員リソースグループ「ルネサスプライド」を設置しました。

2024 World Electronics Achievement Awardを受賞

2024年11月に中国・深圳で開催された国際集積回路展示会 (IIC深セン2024) において、ルネサスのチームはグローバルCEOサミットおよび2024 World Electronics Achievement Awardに参加しました。そして技術力と市場実績が評価され、最も栄誉あるElectronic Company of the Yearを受賞しました。ルネサスは、お客様の生活をよりラクにするため、グローバルに事業を拡大し、多彩な半導体ソリューションを提供し続けています。すべて揃った使いやすいルネサスの開発プラットフォームは、ハードウェア用からソフトウェア用まで中国でも高い人気があります。

- ☰
目次
- 🔧
ルネサスについて
- 📊
2024年度の
事業トピックス
- 🔄
サステナビリティへの取り組み
- 🌿
環境
(Environment)
- 🧩
社会
(Social)
- 🏛️
ガバナンス
(Governance)
- ✅
ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)
- 📄
データ集



Electronics Industry Award 2024を受賞

Electronics Industry Awards 2024において、ルネサスの2製品がプロダクト・オブ・ザ・イヤーを受賞しました。RA8マイコンはEmbedded Solution Product of the Yearを受賞し、DA14592 SoCがInternet of Things Product of the Yearを受賞しました。また、AI Workbenchも、エンジニアリング開発設計ツール部門で高く評価されました。

これらの受賞は、ルネサスのイノベーション、そして「To Make Our Lives Easier」という当社のパーパスおよび製品開発へのコミットメントを反映させるものです。



TrustRadius 2025 Buyer's Choice Awardに選出

Altium 365がTrustRadius 2025 Buyer's Choice Awardに選出されました。2025年のこのアワードへの選出条件には、評価を目的として、2024年1月1日から9月26日までの間に新たなレビューが10件以上寄せられていることが含まれていました。これらのレビューのうち、少なくとも75%のレビューアーが、最も優れた機能、価格に見合った価値、顧客との関係性がある製品として、Altium 365を選びました。



G2 Best CAD & PLM Products 2024に選定

Altium DesignerおよびAltium 365が2024年のG2 Best CAD & PLM Productsに選定されました。製造、エンジニアリング、設計、シミュレーションなど、さまざまな分野の産業がCADおよびPLMソフトウェアを使用し、デジタル環境で2D、3Dモデルを作成、解析、修正しています。優れたCADまたはPLMソフトウェアとしてBest CAD & PLM Productsに選定されるには、製品がCADおよびPLM関連のカテゴリのいずれか（複数可）に登録されている必要があります。

サステナビリティへの 取り組み

- 21 リーダーの視点:ルネサスのサステナビリティ推進
- 23 サステナビリティ戦略とコミットメント
- 27 ESG目標
- 30 ステークホルダーマネジメント
- 31 2024年度ESGハイライト
- 32 2024年度の格付け、評価、指標
- 33 サステナブルな技術とイノベーション



SUSTAINABILITY AT RENESAS

To Make Our Lives Easier



Charles Kawashima
Chief of Staff,
Vice President

Takeshi Kataoka
Head of Operations,
Senior Vice President

Tomoko Mizuno
Independent Outside Director,
Chair of the Audit and
Sustainability Committee

Utae Nakanishi
Chief Human Resources Officer,
Senior Vice President

Ariunzaya Bayarsaikhan
Head of Sustainability

Noboru Yamamoto
Independent Outside Director,
ESG Sponsor, Member of the Audit
and Sustainability Committee

リーダーの視点：ルネサスのサステナビリティ推進

サステナビリティヘッド Ariunzaya Bayarsaikhanとの対談

Q:ルネサスのサステナビリティ部門(SU)の新たなリーダーとして、半導体業界に特有の課題と機会をどのように捉えていますか。

半導体業界は、サステナビリティに関して重要な課題に直面しています。エネルギー消費量が多く、水資源を大量に消費し、温室効果ガスの排出量が多い材料にも大きく依存しています。さらに、気候変動の影響拡大、規制要件の厳格化、グローバルなサプライチェーンおよび人権問題の複雑化により、これらの課題は一層深刻になっています。

一方で、こうした課題は、ルネサスがリーダーシップを発揮し、実質的な変革を推進するための戦略的な好機でもあります。たとえば、サプライヤーの多様化によって気候変動へのレジリエンスを強化したり、エネルギー効率を向上させたり、データ技術ソリューションの活用を促したりすることで、気候関連の事象によるサプライチェーンの脆弱性を効果的に低減できます。

こうしたサステナビリティ課題への対応を成功させることにより、ルネサスは競合との差別化を図り、事業リスクを軽減するとともに、顧客との関係性を強化し、長期的な成長と価値創出につなげることができます。

**カーボンニュートラルの達成目標を
予定より10年早い2040年に前倒ししたことは、
当社の最優先事項を鮮明に示すメッセージです。”**

Q:ルネサスのサステナビリティ戦略は、全社的な事業目標とどのように整合しているのでしょうか。

私たちは過去3年間にわたり、組織全体でサステナビリティに関連する能力を開発し、着実に基盤を構築してきました。そして現在、私たちは次のフェーズである「サステナビリティ戦略2.0」へと進もうとしています。事業目標とサステナビリティ目標の整合を重視する中で、私たちは戦略的優先事項を明確にした包括的なマテリアリティマップを策定し、全社的な事業戦略との高度な整合性を実現しています。このように優先事項を明確にしたうえで、中長期的な視点でこれらの課題を効果的に管理するための戦略を策定しました。当社の「マテリアリティ分析」の詳細はこちらをご覧ください。

この戦略を実行するにあたり、取締役会、CEO、リーダーシップの強力な支援を得て、今年初めにサステナビリティ機能を一本化し、取り組みの加速を図りました。専任のサステナビリティ部門が全社的な施策を統括し、CEOが直接関与する体制のもと、戦略的な整合性を確保しています。また、監査・サステナビリティ委員会および取締役会への定期的な報告を通じて、透明性と説明責任を担保しています。

今後は、マテリアリティ評価から得られる分析情報を活用し、当社全体で実効性のある行動へとつなげていくことが次のステップとなります。こうした気づきを、製品開発、サプライチェーンマネジメント、コーポレートファイナンスといった主要業務領域に組み込むことで、サステナビリティを単なる取り組みにとどめず、イノベーションを促進し、持続的な企業価値の創出を牽引する中核要素として位置付けています。

サステナビリティ部門(SU)ヘッド

Ariunzaya Bayarsaikhan



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

リーダーの視点:ルネサスのサステナビリティ推進(続き)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネススポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

Q:ルネサスはサステナビリティへの取り組みを通じて、具体的にどのようなビジネス価値を創出し、それがどのように競争優位性へとつながるのでしょうか。

ルネサスのサステナビリティの取り組みは「人々の暮らしを楽にする (To Make Our Lives Easier)」という当社のパーパスを直接的に支えるものです。エネルギー効率の高い当社のソリューションは、環境負荷を低減しながら、お客様のアプリケーションにおける電力消費を削減することも可能にします。

私は、サステナビリティへの取り組みは、リスクの軽減と戦略的な競争力の確保を両立させることで、事業価値を生み出すものだと考えています。気候変動対応の緊急性とお客様にとっての優先順位の変化を踏まえ、当社はカーボンニュートラルの達成目標を2040年へと前倒しました。このカーボンニュートラル目標の前倒しは、社内で実施した高度な財務感度分析により、長期的な業務の強靭性を高めることを確認しています。さらに、「サステナビリティ」が今や「コスト」や「品質」と同様に重要な意思決定要素とみなされる中、主要顧客との関係強化にもつながることが明らかになっています。このような戦略的な意思決定により、当社は将来的な成長機会を的確に捉え、競争優位性を確立するための土台を築いています。

さらに、2030年に向けたサステナビリティ目標も明確化しており、これにより投資家からの信頼を高めるとともに、ESG評価の向上にもつながっています。

私は、こうしたサステナビリティの取り組みを通じて、定量化しにくい価値や効果も多く生まれていると考えています。たとえば、人材面では大きな効果が現れており、優秀な人材の獲得につながっています。また、社員や地域社会との関係がより深まることで、長期的な成果の見込める強靭な組織づくりにも寄与しています。

Q:ルネサスが2025年以降に注力する重点課題について教えてください。

お客様、投資家、そして社会からの期待を包括的に分析した結果、当社は**サステナビリティ戦略2.0**を策定しました。この新たな戦略は、以下の項目に焦点を当てています。

■ **的を絞ったアクション:**各部門が、自部門にとって最も重要なサステナビリティ課題に的確に対応します。

■ **協働体制の強化:**説明責任と連携をさらに高めるため、サステナビリティ運営チーム (SOT) および監査・サステナビリティ委員会の拡充を進めています。

■ **コンプライアンス面でのリーダーシップ:**CSRD (企業サステナビリティ報告指令) やASRS (オーストラリア・サステナビリティ報告基準) など、各種法規制の遵守に対応します。

■ **カーボンニュートラル目標の更新:**2040年を見据えたアクションプランをもとに、施策の実行と投資計画の立案に着手します。

この戦略では、短期的な具体策と長期的な目標を融合させています。当面の重点課題としては、データトラッキングの高度化、取締役会におけるサステナビリティへの関与強化、ならびに目標の見直しなどが挙げられます。こうした取り組みはすでに定量的な成果を生み出しており、当社のより広範なサステナビリティ目標の推進にもつながっています。

Q:これまでの歩みを振り返り、達成してこられた中で今後の礎となるものは何でしょうか。また、想定される課題にはどのようなものがありますか。

カーボンニュートラルに向けた進展や、2022年・2023年にCDPサプライヤー・エンゲージメント・リーダーに選出されたこと、さらにはCDPの気候変動「Aリスト」への掲載など当社が国際的に評価された実績は、大きなマイルストーンです。FTSEやMSCIといったESG指標での評価も向上しており、当社のサステナビリティへの取り組みが確実に反映されています。

「**サステナビリティ戦略2.0**」の実行にあたり、紛争鉱物のトラッキング、ジェンダー間の賃金格差報告、取締役会の多様性といった分野での目標強化を継続していきます。

一方で、地域ごとに異なる法規制への対応や、自然災害、AIなど新興技術に関連するリスクの管理といった課題にも直面しています。特にグローバル企業としては、各国の規制動向を先取りし、先手を打った計画と強固なガバナンス体制が求められます。

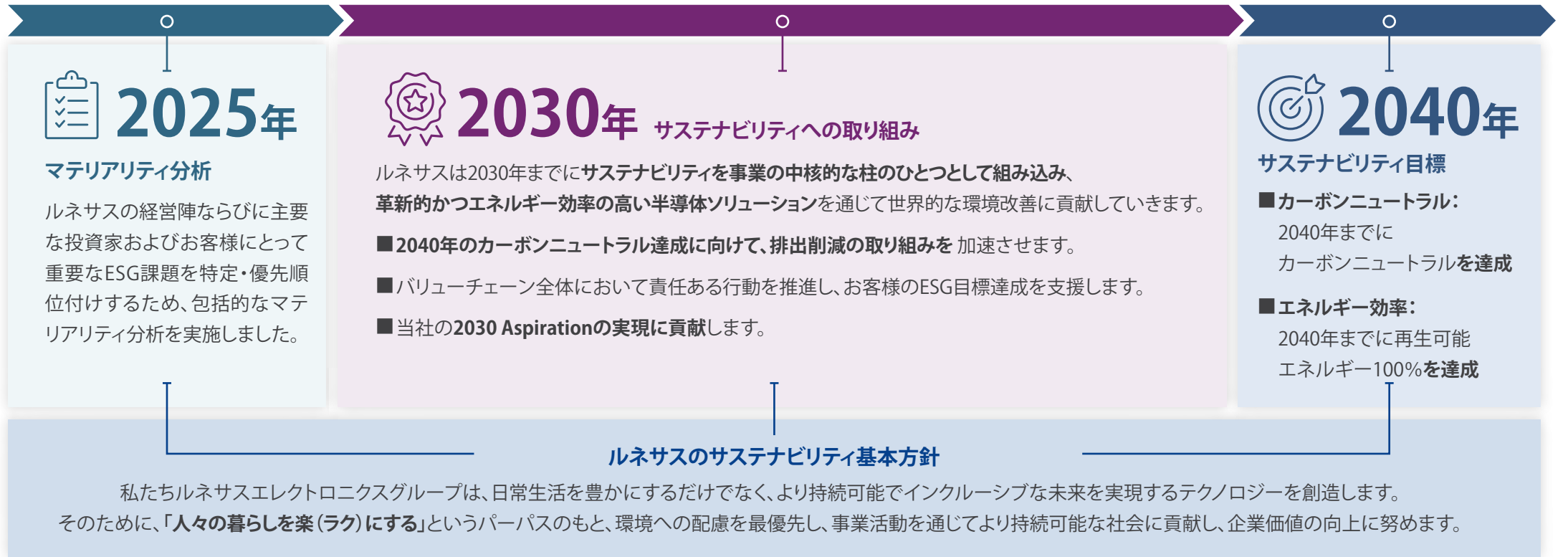
こうした課題を抱えながらも、ESGの取り組みを一層加速させ、すべてのステークホルダーにとっての価値創出を実現していけることに大きな期待を感じています。

サステナビリティ戦略とコミットメント

ルネサス サステナビリティロードマップ

ルネサスの「サステナビリティ戦略2.0」は、当社のパーパスと「ルネサス エレクトロニクスグループサステナビリティ行動指針」に基づく長期的な取り組みの指針です。

この戦略では、2040年までのカーボンニュートラル達成に向けた明確な道筋を示しており、2030年までのサステナビリティに関する中間目標も、当社の事業目標としっかりと連動しています。



2025年4月に始動した「サステナビリティ戦略2.0」は、2022年に策定した「ストラテジー1.0」を基盤としています。戦略2.0では、環境・社会・ガバナンス (ESG) の優先課題をビジネス全体に統合することで、次の成長ステージへと進むことを目指しています。ビジネス目標とグローバルなサステナビリティ課題を連携させることで、財務面での成果と社会的なインパクトの両立を図り、お客様、従業員、投資家、地域社会に対して持続的な価値を提供します。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)



データ集

サステナビリティ戦略とコミットメント (続き)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)

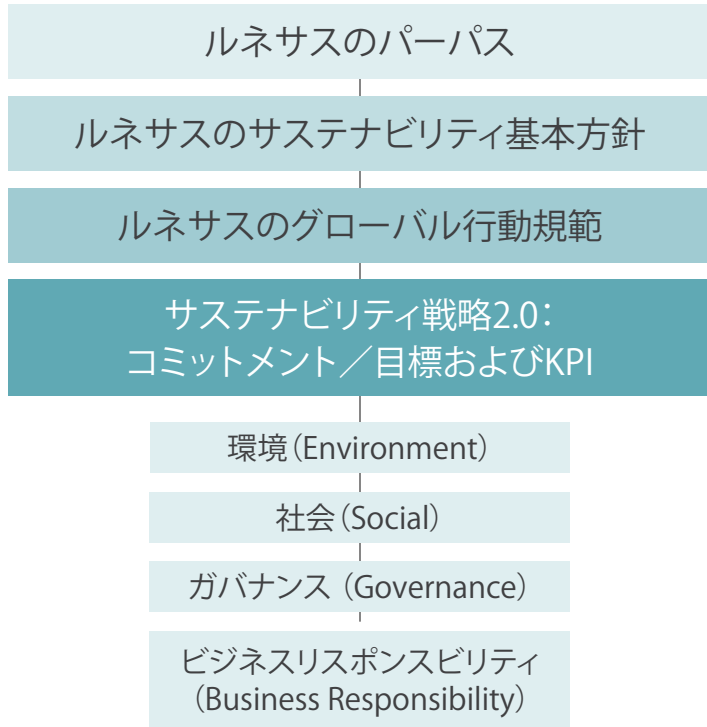


ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ルネサスのサステナビリティ・フレームワーク



この新たな戦略の策定にあたっては、2022年の評価に続き、包括的なギャップ分析とマテリアリティ分析を実施しました。ギャップ分析では、同業他社、投資家の要請、お客様の期待と比較して、当社のサステナビリティパフォーマンスの現状を把握。一方、マテリアリティ分析では、中長期的なステークホルダーの関心事項と、それらが当社事業に与える影響に焦点を当てました。これらの分析は、投資家やお客様、経営陣からのフィードバックを反映し、変化するビジネス環境を踏まえて実施しています。最終的なマテリアリティマップは、「優先トピック」「戦略トピック」「モニタリングトピック」の3層で構成され、戦略的なリソース配分や進捗管理の重要な指針となります。

この分析結果に基づくサステナビリティ戦略2.0は、**気候変動対策、エネルギー管理、サプライチェーンの透明性、データプライバシー、サイバーセキュリティ、リスク管理、ダイバーシティ&インクルージョン**などを主要テーマとしています。各テーマには、進捗を測定するための具体的な目標とKPIを設定し、ビジネス戦略と直接的に連動させています。

また、当社はカーボンニュートラルの達成目標を従来の2050年から2040年へと前倒しし、業界標準やステークホルダーの期待に応える姿勢を明確にしました。その実現に向けて、「PFCガスの削減」「再生可能エネルギーの導入拡大」「エネルギー効率の向上」の3本柱を中心とした取り組みを進めています。これらの施策を詳細なロードマップとして示し、2030年までにスコープ1および2の温室効果ガス排出量を2021年比で38%削減するというSBTi認定目標の達成に向け、順調に前進しています。

サステナビリティ文化の醸成と定着

サステナビリティの推進を加速し、ステークホルダーとの連携を深めるための取り組みの一環として、ルネサスでは社内向けのサステナビリティ・ウェブキャストを開始しました。また、サステナビリティに関するトピックを取締役会や新入社員研修にも組み込んでいます。これらの施策は、新たなトレンドや課題の共有、そして従業員への最新のプログラムやパフォーマンス情報の提供に役立っています。現在は、すべての社内ステークホルダーを対象とした包括的なトレーニングプログラムを開発中であり、全社的なサステナビリティへの理解と実践のさらなる定着を目指しています。

また、ガバナンスの強化とサステナビリティの加速に向け、サステナビリティ推進部はCEOおよび取締役会直下の組織体制を整えています。この体制には、日々の活動を担う部門横断型のサステナビリティ・オペレーティング・チームや、経営幹部の取り組みを監督する監査・サステナビリティ委員会(ASC)が含まれます。サステナビリティ推進部は、定期的にASCへ進捗を報告し、戦略の着実な実行に取り組んでいます。

サステナビリティ戦略とコミットメント (続き)

マテリアリティ分析

私たちは、絶えず変化するステークホルダーの関心や優先事項に的確に対応するため、2025年にマテリアリティ分析を改訂しました。この包括的な分析は、ルネサスのサステナビリティ戦略2.0の基盤となっており、戦略の妥当性と実効性を支える重要な要素です。

相互に重要なESG課題を特定し、優先順位を明確にするため、当社はCEO、CFO、CHRO、オペレーション責任者など、各分野を代表するルネサスのリーダー陣との対話を重ねてきました。これらのステークホルダーは、それぞれの責任領域およびサステナビリティ課題との関わりを踏まえて選定されています。さらに、経営陣に加えて、執行幹部 (ELT) メンバーへの調査を実施し、加えて主要な投資家や顧客へのインタビューも行いました。こうした社内外の多様な視点を取り入れることで、当社は重要課題に対する中長期的な戦略を策定し、ESG課題への的確な対応とリスクの最小化に努めています。

本マテリアリティ分析は、以下の目的で実施しました。

- 説明責任を強化し、顧客、サプライヤー、従業員を含むすべてのステークホルダーの透明性を向上させる
- ルネサスの事業戦略と整合した中長期のESG目標およびターゲットを明確にする
- グローバルなサステナビリティ基準とベストプラクティスとの一貫性を確保する

2025年のマテリアリティマップでは、重要課題を以下の3つのカテゴリに分類しています：**優先トピック** (事業およびステークホルダーの双方にとって重要度が高い領域)、**戦略的トピック** (事業運営および企業の評判に深く関わる領域)、**モニタリングトピック** (将来的な影響を見据えて注視すべき領域)。



サステナビリティ戦略とコミットメント (続き)

目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)

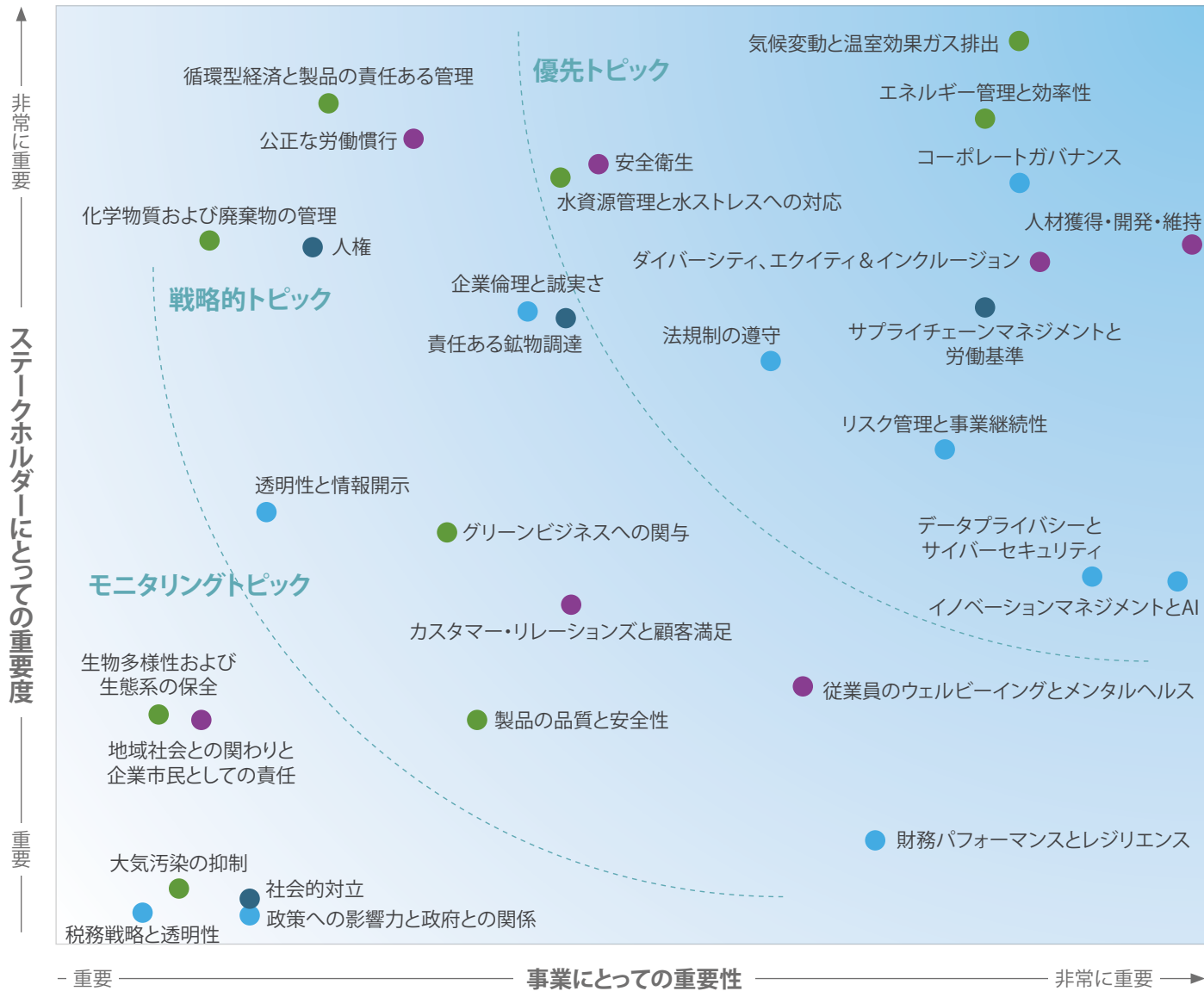


ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)



データ集

マテリアリティマップ



- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)

優先トピック	ステークホルダーおよび事業の双方にとって重要度が高い領域これらのトピックは、顧客や投資家を含むステークホルダーからの信頼や、事業の成功に直結する即時的な影響をもたらします。
戦略的トピック	事業運営および企業の評判に深く関わる領域。例として、データプライバシーや製品品質などの管理が不十分であれば、重大な事業リスクや評判の毀損を招く可能性があります。また、近い将来に優先トピックへと移行する可能性もあります。
モニタリングトピック	現時点での関連性は比較的低いものの、将来的な影響に備えて注視すべき領域。外部環境の変化や事業の状況次第で、優先順位が高まる可能性があります。

2025年のマテリアリティ分析結果の詳細については [当社ウェブサイトをご覧ください。](#)

ESG目標

環境 (Environment)

2025年 マテリアリティ・ トピック	ルネサスのサステナビリティ目標		進捗状況	2024年度の進捗	SDGsへの貢献
気候変動と 温室効果ガス排出 エネルギー管理と 効率性	環境保全への 取り組み 気候変動への 取り組み	グローバルな事業活動およびバリューチェーン全体における 温室効果ガス排出量の削減を実現します。 目標: 2030年までにGHG排出量を38%削減(2021年度を基準年とする) 2026年までにスコープ3排出量を17.5%削減(2023年度を基準年とする) 2040年までにカーボンニュートラル(スコープ1+2)を達成 2040年までに再生可能エネルギー100%を使用	順調に 進行中	対象となる生産拠点および事業所において、 排出量を21.6%削減 (スコープ1+2、2021年度を基準年とする) 詳細はこちら	       
水資源管理と 水ストレスへの 対応	水資源を守る	生産効率化や節水により水使用量を削減します。 目標: 2030年までに水使用量(売上高あたり)を33%改善 (2021年を基準年とする) 2030年までにグローバル生産拠点における水リサイクル率を35%に向上 水資源リスクの高い地域における水資源保全を推進します。 目標: 2025年までに、Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.での 生産関連売上高あたりの水使用量を21%改善 2025年までに、Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.での 生産関連売上高あたりの水使用量を31%改善	順調に 進行中	水使用量(売上高あたり)を32%改善 (2021年度比) 水リサイクル率:32%	
化学物質および 廃棄物の管理	化学物質使用の 管理	健康・安全・環境への影響が懸念される化学物質について、削減、代替、 適切な廃棄を通じて環境リスクを低減するとともに、国際的な規制および 顧客の要求事項に適切に対応します。 目標: VOCの排出量を2010年度水準以下で維持 主要な環境関連法規制の違反ゼロを維持	目標を上回る 進捗	Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd. での生産関連売上高あたりの水使用量を 27%改善 Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd. での生産関連売上高あたりの水使用量を 32%改善 2010年比でVOC排出量を約70%削減 環境関連法規制の違反はなし	



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)











ビジネスリスポンシビリティ
(Business Responsibility)







データ集

ESG目標(続き)

環境 (Environmental) (続き)

2025年 マテリアリティ・ トピック	ルネサスのサステナビリティ目標		進捗状況	2024年度の進捗	SDGsへの貢献
化学物質および 廃棄物の管理	廃棄物に対する 取り組み	可能な限り廃棄物の削減・再利用・リサイクルに努めます。 目標: 2030年までに、廃棄物のリサイクル率を常に90%以上に維持	順調に 進行中	2024年度の廃棄物リサイクル率92%を達成	       
		全拠点において有害廃棄物の発生と廃棄を削減します。	順調に 進行中	対象の生産拠点および事業所において、有害 廃棄物の発生量を3.8%削減(2023年度比)	
循環型経済と 製品の責任ある 管理	循環型経済	環境に配慮した最終製品の創出に貢献する「ルネサス グリーンデバイス」 の研究開発および設計を推進します。 目標: 2025年までに新規開発製品の90%をルネサス グリーンデバイスに指定	進捗中	全製品群における新規開発製品のうち、 89%がルネサス グリーンデバイスに該当	

社会 (Social)

ダイバーシティ、 エクイティ& インクルージョン	ダイバーシティ、 エクイティ& インクルージョン	多様な人材がそれぞれの可能性を最大限に発揮できるよう、 インクルーシブな採用活動を通じて女性の採用を拡大し、 多様な社員の成長を促進します。	順調に 進行中	管理職に占める女性の割合は15%、 従業員全体における女性の割合は28%	   
人材獲得・開発・ 維持	人材育成	採用候補者の体験全体をより良いものにし、フィードバックを収集して採用 プロセスを継続的に改善します。 目標: 2025年までに採用候補者の70%が中立または肯定的な体験と評価 2030年までに採用候補者の90%が中立または肯定的な体験と評価 採用活動に使用する紙資料をデジタル資料に置き換えます。 目標: 2025年までに提供資料の70%をデジタル化 2030年までに提供資料の95%をデジタル化	順調に 進行中	詳細はこちら	
安全衛生	安全衛生	従業員の健康と安全を確保し、安全で快適な職場環境を構築します。 目標: 2025年までに休業を伴う労働災害ゼロを達成	進捗中	休業を伴う労働災害が6件発生	

目次

ルネサスについて

2024年度の事業トピックス

サステナビリティへの取り組み

環境
(Environment)

社会
(Social)

ガバナンス
(Governance)

ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ESG目標(続き)

ガバナンス (Governance)

2025年重要課題	ルネサスのサステナビリティ目標		進捗状況	2024年度の進捗	SDGsへの貢献
コーポレートガバナンス	ガバナンス体制	公正・迅速・果断な意思決定と徹底した説明責任を実現する透明性の高いガバナンス体制を維持します。	順調に進行中	「ガバナンス体制」セクションへのリンク (B&Sレポート内)]	
法規制の遵守	コンプライアンス・企業倫理	関連する法令・規制・行動規範を遵守し、より高いグローバル基準の達成を目指します。 目標: 2025年までに社員の行動規範研修修了率100%を達成	順調に進行中	社員の92%が行動規範研修を修了	
リスク管理と事業継続性	リスクマネジメント	グループ全体にわたるリスクを能動的に特定・分析し、速やかに解決することで、リスクマネジメント体制の継続的な強化を図ります。	順調に進行中	詳細はこちら	
イノベーションマネジメントとAI	情報セキュリティマネジメント	従業員、顧客、その他重要なステークホルダーを保護するため、責任あるデータプライバシーおよびサイバーセキュリティ対策を実施します。 目標: 2025年までにISO/IEC 27001認証を取得 2025年までに従業員の100%がサイバーセキュリティ研修を受講	順調に進行中	従業員の83%がサイバーセキュリティ研修を受講	

ビジネスリスponsビリティ (Business Responsibility)

人権	人権保護に対する取り組み	デューディリジェンスの強化やポリシーの改善など、業界のベストプラクティスに準じた人権へのアプローチを強化します。	順調に進行中	詳細はこちら	 
サプライチェーンマネジメントと労働基準	サプライヤー・エンゲージメント	サプライヤーのベストプラクティスを推進し、サプライチェーン全体のサステナビリティへの取り組みの成果を向上させます。 目標: 2027年までに主要サプライヤーの100%が「ルネサスサプライヤー行動規範」に同意 2027年までに主要サプライヤーの100%からRBA自己評価質問票 (SAQ) への回答を取得	順調に進行中	2024年度実績: 主要サプライヤーの92%が「ルネサスサプライヤー行動規範」に同意 2024年度実績: 主要サプライヤーの100%からRBA SAQへの回答を取得	
責任ある鉱物調達	責任ある鉱物調達	OECDが定める紛争影響・高リスク地域を対象に、紛争鉱物を含まない資材の調達を目指して、責任ある鉱物調達を実現します。 目標: 2027年までにRMI (責任ある鉱物イニシアティブ) の手順に従い、紛争鉱物 (3TG) に関する調査を100%完了	順調に進行中	2024年度実績: RMIの手順に従い、紛争鉱物に関する調査を100%完了	



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



ビジネスリスponsビリティ (Business Responsibility)



データ集

ステークホルダーマネジメント

ルネサスは、当社の事業活動およびサステナビリティ施策が、主要なステークホルダーやグローバル社会に与える影響の大きさを認識しており、重要課題への対応状況について、主要なステークホルダーと定期的に、オープンに話し合っています。このアプローチにより、当社のサステナビリティ戦略と優先事項が、多様なステークホルダーの関心と的確に連動するようにしています。

ステークホルダー	ルネサスのアプローチ
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ■ 展示会 ■ 定期的なミーティングおよび情報交換 ■ 監査
サプライヤーおよびビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> ■ ESGに関する自己診断アンケート (SAQ) と改善要請 ■ ESG関連の研修実施 ■ ルネサスのサプライヤー行動規範の遵守 ■ 第三者機関による監査
地域社会およびパートナー (NGO等)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 慈善寄付の実施 ■ グローバルボランティア活動の推進 ■ 主要パートナーとの共同イニシアティブ
教育機関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大学・大学院レベルでのインターンシップ提携 ■ 共同研究 ■ 新卒採用
業界団体	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各種業界コンソーシアム・団体への参加
規制当局および政府機関	<ul style="list-style-type: none"> ■ 法規制の遵守に向けた年次報告 ■ 訪問・意見交換会
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ■ 年次カルチャーサーベイの実施 ■ キャリア開発研修 ■ グローバルイントラネットポータル
株主	<ul style="list-style-type: none"> ■ Capital Market Dayの開催 ■ 財務情報開示および統合報告書の発行 ■ アンケートやサーベイへの随時対応
メディア	<ul style="list-style-type: none"> ■ プレスリリースの発信 ■ SNS ■ カンファレンスへの参加



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

2024年度ESGハイライト

詳細をご覧になりたい場合は、各タイトルをクリックすると該当セクションへ移動します。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンスビリティ
(Business Responsibility)



データ集

環境 (Environment)

21.6%

2024年度に達成した
GHG (温室効果ガス)
排出削減率
(2021年度対比)

RBA VAP
監査
プラチナ・
ステータス

那珂工場で取得

社会 (Social)

RBAに従ってルネサスの
サプライヤー行動規範を改訂し、
重要取引先の

92%から同意

を取得。(2025年2月時点)

国外
リモート
勤務

制度を
すべての社員に
対象拡大

従業員の83%が
サイバーセキュリティ研修を受講

ガバナンス (Governance)

取締役会における

ダイバーシティ
(女性比率)を

30%

以上に拡大

ビジネス リスポンスビリティ (Business Responsibility)

当社の
人権方針を

グローバルの
ベストプラクティスに
準拠するよう改訂

ルネサスの社員は
507万円分の
時間を

ボランティア活動に
充てました。

ルネサス
「グリーンデバイス」

の対象範囲をREN-CORE製品から
すべての製品群へ拡大

使用量
(売上高あたり)を

32%改善

(2021年度比)、
水リサイクル率は
32%

全社員向けに
意識的インクルージョン研修

を立ち上げ、2024年10月には管理職向け

インクルーシブ・
リーダーシップ研修を試行







生成
AIツール

利用に関する
グローバル
ガイドラインを
策定

2025年1月に、
監査・サステナビリティ委員会および
サステナビリティ運営チームを設置し、
ESGガバナンス
を強化

2024年度の格付け、スコア、インデックス

当社は、ESG方針と実践に関する世界的・地域的な評価と、データ開示の推進に誇りを持っています。これらの継続的な取り組みは、お客様、ビジネスパートナー、投資家に対してESG原則への確かなコミットメントを改めて明らかにするものです。2024年には、当社が重視するESG格付機関およびインデックスのすべてにおいて、スコアの向上または現状維持を達成しました。

インデックス／格付けの名称	格付け／スコア		スケール
	2023年	2024年	
 FTSE ESG FTSE4Good Index FTSE Blossom Japan Index FTSE Blossom Japan Sector Relative Index	4.5	4.7 ↑	1 - 5
	インデックス構成 銘柄	インデックス構成 銘柄	-
	インデックス構成 銘柄	インデックス構成 銘柄	-
	インデックス構成 銘柄	インデックス構成 銘柄	-
 MSCI ESG格付け MSCI日本株女性活躍指数	AA	AA ➡	CCC - AAA
	インデックス構成 銘柄	インデックス構成 銘柄	-
 CSA (コーポレートサステナビリティ評価)	65	65 ➡	1 - 100
 Company ESG Risk Ratings	19.2 (低リスク)	19.0 (低リスク) ↑	50 - 1 (高リスク - 低リスク)
 気候変動 水セキュリティ サプライチェーン	B	A- ↑	D - A
	B	B ➡	D - A
	A	TBA	D - A
 EcoVadis	62	69 ↑	0 - 100

ルネサスは、以下のESGインデックスに選定されています。

- FTSE4Good Index
- FTSE Blossom Japan Index
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index
- MSCI日本株女性活躍指数
- Gender Diversity Tilt Index
- カーボン・エフィシエント指数
- サステナビリティ指数

↑ 前年より評価が向上
➡ 前年と同評価を維持

サステナブルな技術とイノベーション

持続可能な未来へのイノベーション

ルネサスは世界をリードする半導体企業として、最先端のテクノロジーを使ったサステナブルな製品やソリューションが人々の暮らしを楽(ラク)にし、より良い世界を創造する未来を築きたいと考えています。

高速で大容量な通信の普及・拡大により、身の回りのモノ全てがインテリジェントになり、相互につながる世界では、モノそれぞれに高い演算性能が求められます。このような技術革新が進む世界において、環境に優しい持続可能な社会を実現するには、当社が提供する製品やソリューションはもとより、その製品が搭載されたお客様のシステムにおいてエネルギー効率が高いこと、また、安心・安全であることが必要不可欠となります。当社は、持続可能な社会に貢献するため「低消費電力製品・ソリューション」と「安心で安全な製品・ソリューション」を提供し、推進して参ります。ルネサスの省電力製品およびソリューションの詳細については、当社のイノベーションページをご覧ください。

サステナビリティに向けた注力領域と関連製品

事業活動による環境負荷を軽減するための関連プロジェクト グリーン電力、水リサイクル	グリーンデバイスおよびテクノロジー グリーンデバイス、SOTB、将来技術	スマート電気自動車ソリューション マイコン、IPS、IGBT、PMIC	
		スマート自動運転ソリューション SoC、レーダー、PMIC、UWB、WPC	
		スマート・データセンター・ソリューション MID、インフラ・コア電源	
		スマート・セルラー・ソリューション RF、インフラ・コア電源	
		スマート社会ソリューション	
		MCU MPU センサー IGBT	再生可能エネルギー ビルオートメーション 工場オートメーション IoT、家電 将来の応用分野

UWB: Ultra Wide Band
 WPC: Wireless Power Charging
 MID: Memory Interface Device
 SOTB: Silicon on Thin Buried Oxide
 IPS: Inductive Position Sensor
 IGBT: Insulated Gate Bipolar Transistor
 PMIC: Power Management IC

- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)
- データ集

サステナブルな技術とイノベーション (続き)

ISSCC 2024で注目されたルネサスのテクノロジー



ルネサスのエンベデッド・プロセッシングの分野における革新的技術の一部として、以下の論文が2024年のISSCC (国際固体素子回路会議。ソリッドステート回路とSoCの進歩を発表する世界有数のフォーラム)において採択されています。ISSCCで発表されたこれらの成果が、電力効率とインテリジェンスを通じグローバルなグリーン化に貢献することを期待します。

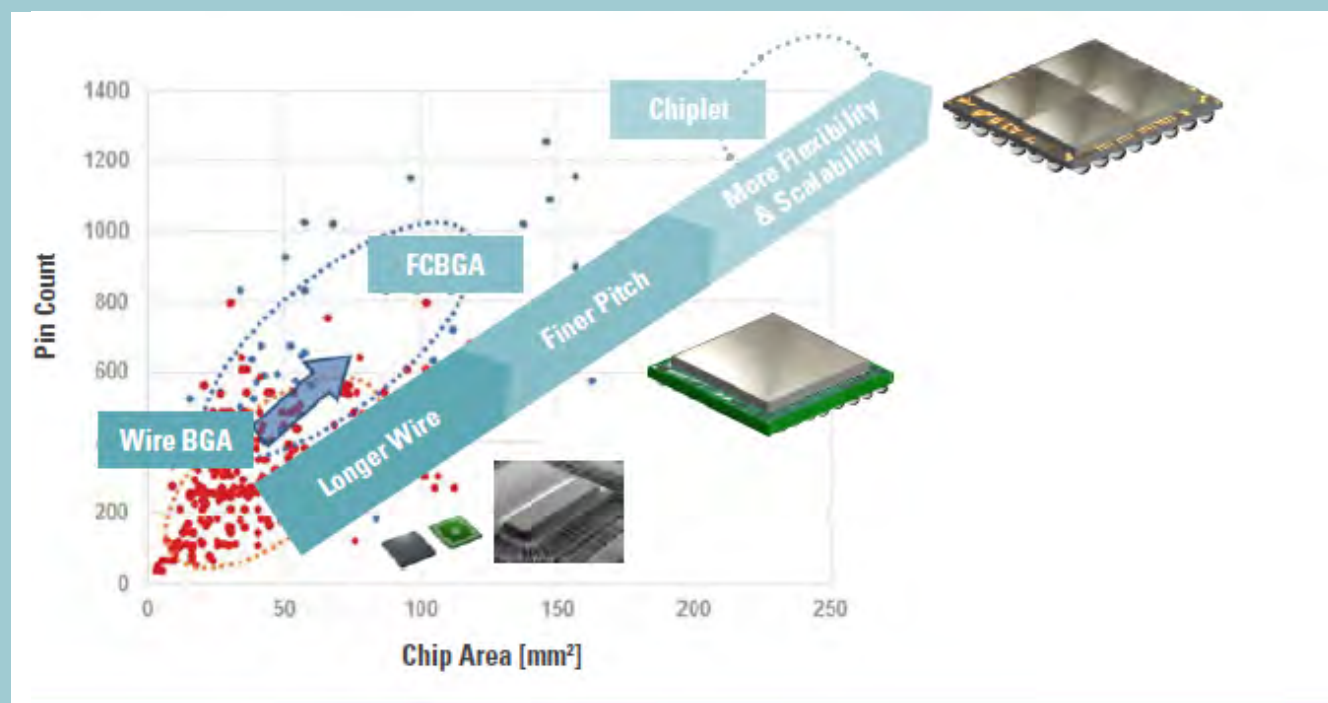
■ **Memory Technology (メモリ技術)**: "A 22nm 10.8Mb Embedded STT-MRAM Macro Achieving over 200MHz Random Read Access and 10.4MB/s Write Throughput with In-field Programmable 0.3Mb MTJ-OTP for High-end MCUs" (Tomoya Ogawa, Ken Matsubara, Yasuhiko Taito, Tomoya Saito, Masayuki Izuna, Koichi Takeda, Yoshinobu Kaneda, Takahiro Shimoi, Hidenori Mitani, Takashi Ito, Takashi Kono, Renesas Electronics, Tokyo, Japan)

■ **AI Technology (AI技術)**: "A 23.9 TOPS/W @ 0.8V, 130 TOPS AI accelerator with 16x performance accelerable pruning in 14nm heterogeneous embedded MPU for real-time robot applications" (Koichi Nose, Taro Fujii, Katsumi Togawa, Shunsuke Okumura, Kentaro Mikami, Daichi Hayashi, Teruhito Tanaka, Takao Toi, Renesas Electronics, Tokyo, Japan)

スポットライト:チップレット設計

ルネサスのCo-CTO (共同最高技術責任者) 吉岡 真一は、大手半導体メーカー、装置および材料サプライヤー、研究機関が一堂に会し革新技術について意見を交わす国際会議、インターナショナル・セミコンダクター・エグゼクティブ・サミット・ジャパン (ISES JAPAN、2024年3月6日)に招かれ、講演を行いました。

ルネサスはこの中で、予てより唱えるハードウェアとソフトウェアの協調設計推進の重要性に加え、これを実践し構築していく場としてチップレット開発の要所について説明を行いました。お客様のシステム開発を容易にする革新的技術としてDigitalization/仮想化に挑戦していくことが、今後も当社の大きな指針となるところです。



環境 (Environment)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

- 36 リーダーの視点:環境保全と持続的成長
- 38 環境保全への取り組み
- 41 気候変動への取り組み
- 46 水資源を守る
- 50 化学物質への対応
- 53 廃棄物に対する取り組み
- 56 エコプロダクト活動
- 59 ルネサス グリーンデバイス
- 63 生物多様性保全活動

リーダーの視点：環境保全と持続的成長

オペレーションヘッドの片岡健および社長・CEO直属補佐 兼 Vice PresidentのCharles Kawashimaへのインタビュー

Q: 今期の主な成果について教えてください。

片岡:「持続可能な未来に向けて、着実に成果を積み上げていきます。」

2024年度には、2021年比で温室効果ガス（GHG）排出量を21.6%削減しました。この削減は、最終需要の減退による生産量の減少だけでなく、省エネ機器の導入を含むエネルギー効率化の取り組みによるものです。具体的には、最適な制御システムを備えた冷凍機へのアップグレード、容量制御機能付きコンプレッサーへの交換、ボイラーの改修、ドライポンプの強化などの対策を実施しました。さらに、自然エネルギーの再利用、蒸発熱の活用、冬季のフリークーリング、排熱の回収と再利用、散水加湿といったさまざまな施策を展開しています。

水資源保全に関しては、中国・北京および蘇州工場において、水使用の効率化に向けた明確な目標を設定しています。2024年度には、両工場とも年初に定めた水使用の効率性目標を達成しました。これらの活動を含め、当社グループ全体で水総使用量の売上高原単位は1.7を記録し、2030年度目標の99%をすでに達成しています。また、2024年度の廃棄物リサイクル率は92%となり、目標の90%を上回る水準を維持しました。

Q: ルネサスにとっての最大の環境リスク、課題、そしてその打ち手は何でしょうか。

片岡:「当社では気候変動への対策をさらに具体化させています。」

当社にとって最大の環境リスクは気候変動であり、その解決には、国際的に認知された目標に沿ったGHG排出量の削減が求められます。具体的には、スコープ1排出量の約80%を占めるPFCガスに対して排出削減目標を設定するとともに、PFCガス使用量の削減に向けたプロセス最適化、除害装置の導入検討、さらにはGWP（地球温暖化係数）の低いガスへの切り替えについて、サプライヤーと協力して調査を進めています。スコープ2に関しては、電力が最大のGHG排出源であるため、省エネ施策や再生可能エネルギーの導入（FIT非化石証書の購入）を行っています。また、中国およびマレーシアの生産拠点において、太陽光発電（PPA）の導入も進めています。

“ 持続可能な未来に向けて、着実に成果を積み上げています。 ”

執行役員 兼 オペレーションヘッド

片岡 健



リーダーの視点:環境保全と持続的成長(続き)

Q:財務的成長の加速と環境負荷の最小化の両立についてどのように考えますか。

Kawashima:「持続可能な成長のバランスを図るには、ステークホルダーの期待を理解することが不可欠です。」

財務的成長の加速と環境負荷の最小化の両立は、持続可能な企業経営において極めて重要です。この両立を実現するために、再生可能エネルギーの活用、効率的な資源の利用、環境に配慮した製品設計、社会的責任の遂行、報告の透明性など、すべての施策をステークホルダーの期待と整合させて推し進める必要があります。私自身、環境イニシアティブを担当する立場として、環境影響における重要課題の特定や、リスクと機会の洗い出し、事業への影響を踏まえた対策の優先順位づけと実行の重要性を強く認識しています。また、こうしたバランスの実現には、当社単独ではなく、サプライチェーン全体での取り組みが必要であると認識しています。環境負荷を低減するには、サプライヤーとの協力や環境基準の整備が欠かせないと考えています。

Q:2025年に予定している新たな取り組みやプログラム、その目的について教えてください。

Kawashima:「カーボンニュートラル達成の加速です。」

当社は本年度、カーボンニュートラルの達成目標を2050年から2040年へと前倒しました。この見直しは、昨年度にステークホルダーの期待を調査し、自社の取り組みとのギャップを把握した結果です。気候変動対策に関する従来の目標とグローバルな動向との間に差があると認識したため、ステークホルダーの期待に沿った、より意欲的な目標を直ちに設定しました。具体的な取り組みとしては、2040年までに再生可能エネルギーの導入率100%を達成するという新たな目標を掲げました。再生可能エネルギー導入計画の明確化に加え、PFC対策におけるコスト試算や意思決定のタイミングについても明示していきます。これらの目標に向けた進捗は、新たに設置された監査・サステナビリティ委員会へ定期的に報告し、確実な達成を目指します。

Q:ステークホルダーの期待に応えるための取り組みについてお聞かせください。

Kawashima:「ステークホルダーの期待に応えるため、各種取り組みを継続的に改善しています。」

ステークホルダーは当社に対して、財務成長の維持のみならず、気候変動への対応、循環型経済への貢献、持続可能な製品の開発、そして透明性のある環境データの開示も求めていると理解しています。当社は、自社の環境パフォーマンスを同業他社との比較や業界ベンチマークを通じて評価し、自社の立ち位置や改善点を特定しています。

特に気候変動対応および循環型経済への貢献においては、世界的に認知された環境目標の達成に向けて施策を実施しています。持続可能な製品開発では、製品環境評価を通じて化学物質の管理や材料使用による環境負荷の低減に取り組んでいます。データの信頼性を高めるため、第三者検証レポートを活用し、年次統合報告書や定期的なウェブサイト更新を通じて、透明性を確保しています。さらに、年2回のeラーニングを通じた社員向けの環境教育を積極的に実施しており、これが当社のサステナビリティ活動の基盤となっています。

社長・CEO直属補佐 兼 Vice President

Charles Kawashima



環境保全への取り組み

ルネサスは、CEO承認のもと制定した環境基本理念および環境行動指針に従い、生産活動における環境負荷の低減を推進すると共に、お客様の商品の環境性能向上を担う環境配慮型製品を開発しています。

環境行動指針

わたしたちは、研究開発・設計・調達・生産・販売・流通・使用・廃棄にいたる全ライフサイクルで環境に配慮した半導体製品やソリューションを提供し、長期的で持続可能な社会に貢献します。

すべての企業活動において、環境関連法規を順守し、グローバルな環境マネジメントシステムを継続的に改善しながら、環境負荷の低減を図るとともに環境汚染の防止に努めます。

■**気候変動への対応**:バリューチェーン全体でエネルギーを削減し、効率的に使用するとともに、温室効果ガスの排出量削減に努め、カーボンニュートラルを目指します。

■**資源の有効活用**:事業活動に必要となるすべての資源を効率的に活用します。特に、水資源の適正利用に努め、事業活動で発生する廃棄物を最小化するとともに、リサイクルを推進します。

■**生物多様性の保護**:豊かで健全な社会を支える大切な概念であることを常に意識し、事業活動を通じて生物多様性の保全に貢献する活動を推進します。

わたしたちは、ステークホルダーへの環境情報開示を図り、相互理解のためにコミュニケーションを進め、より良い社会の実現に貢献します。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)

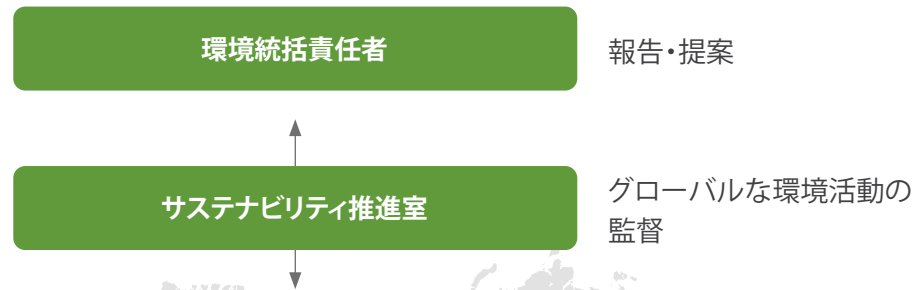


データ集


環境保全への取り組み(続き)

環境マネジメントシステム

ルネサスは、環境基本理念、環境管理基本規則を経営基本規則に定めています。関連会社を含めた拠点ごとに環境マネジメントシステムを構築して、環境活動を推進しています。拠点の環境活動のとりまとめは、サステナビリティ・オペレーション部が担当しています。環境活動における各種実績、課題、問題については、サステナビリティ・オペレーション部が、経営者が任命する環境統括責任者へ報告・提案を行います。



関連会社を含めた各拠点で環境マネジメントシステムを確立し、PDCAサイクルを推進しています。

 ルネサスは、国内外の全生産拠点で環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を取得しています。

特に、温室効果ガスの削減と水資源の保全については、目標に対する進捗状況を定期的にモニタリングし、最新状況を確認しています。なお、2024年度は法令・条例違反、苦情ともありませんでした。

環境活動3本柱

環境活動において大切な課題には、①法令の順守 ②環境負荷の低減 ③環境に優しい製品の開発 ④ステークホルダーとの良好な関係維持などが挙げられます。



- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)**
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)
- データ集

2024年度の環境活動実績

項目		2024年度の活動	2024年度の実績
エコマネジメント活動		環境パフォーマンス向上施策の推進とISO14001認証の維持	ISO認証機関による更新審査を受審、認証更新完了
エコファクトリー活動	5年間平均エネルギー消費の原単位1%以上低減(省エネ法努力目標の達成、行政年度)	■ エネルギー消費原単位(5年間平均) ・ルネサス(国内拠点):4.7%増加見込み ・ルネサス半導体製造:1.6%増加	
	PFC排出量を2015年度水準以下に維持(ウエハ面積原単位)	PFC排出量2015年度比0.012ポイント低減(ウエハ面積原単位)	
エコプロダクト活動	グローバルの各種規制、および顧客要求に適宜対応	環境法令・条例違反なし	
	新規量産開始製品における、グリーンデバイス比率80%以上維持	2024年度グリーンデバイス比率:88.5%	
エココミュニケーション活動	ステークホルダーへの環境情報の発信強化	■ 環境データの第三者検証取得 ■ 統合報告書の発行	
	階層別教育や環境eラーニングなどの各種教育資料の刷新と実施	■ 新入社員研修、新任管理職研修等でのeラーニングの実施 ■ 定期的な環境関連情報の社内発信実施	
	生物多様性保全活動の積極的な推進	■ グローバルの生産拠点および事業所において130件の生物多様性活動を実施 ■ 活動自主評価指標をグローバル展開	



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

気候変動への取り組み

カーボンニュートラル実現に向けて

ルネサスは、気候変動の影響を最小限に抑えるため、カーボンニュートラルの目標を10年前倒しし、2050年から2040年に変更しました。カーボンニュートラルの実現に向けた中間目標として、2030年に温室効果ガスの排出量(スコープ1、2)を2021年比で38%削減する目標を設定しました。これは、1.5°C目標(世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5°Cに抑える努力)に沿ったものです。また、カテゴリ1における排出量(スコープ3)の70%に相当するサプライヤー(生産委託含む)に、科学的根拠のある削減目標を2026年までに設定してもらいます。

日本国内の電機・電子業界目標および省エネ法におけるエネルギー単位の削減目標の達成、温室効果ガスの中でも特に環境負荷の高いPFCガスの排出削減によって、目標を達成する予定です。また、生産拠点における再生可能エネルギーの使用拡大など、さまざまな活動を継続的に推進しています。

2022年8月、Science-Based Target initiative (SBTi)によって当社の中間目標が認定されました(2022年8月25日発表)。

SBTi認定を取得したルネサスの温室効果ガス削減目標

温室効果ガス排出カテゴリ	基準	目標
スコープ1+スコープ2	1.5°C	2030年までに38%削減(2021年比)
スコープ3	WB2.0°C	スコープ3のカテゴリ1における温室効果ガス排出量の70%に相当するサプライヤー(生産委託含む)が、科学的根拠のある温室効果ガス削減目標を2026年までに設定

スコープ1: 自社での燃料の使用や工業プロセスによる直接排出

スコープ2: 自社が購入した電気・熱、蒸気の使用に伴う間接排出

スコープ3: スコープ1、スコープ2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

スコープ3カテゴリ1: 購入した製品・サービス

WB2.0°C (well-below 2.0°C): 世界の気温上昇を産業革命前より2°Cを十分に下回る水準に抑える温室効果ガス削減目標



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

気候変動への取り組み(続き)

TCFD提言への対応

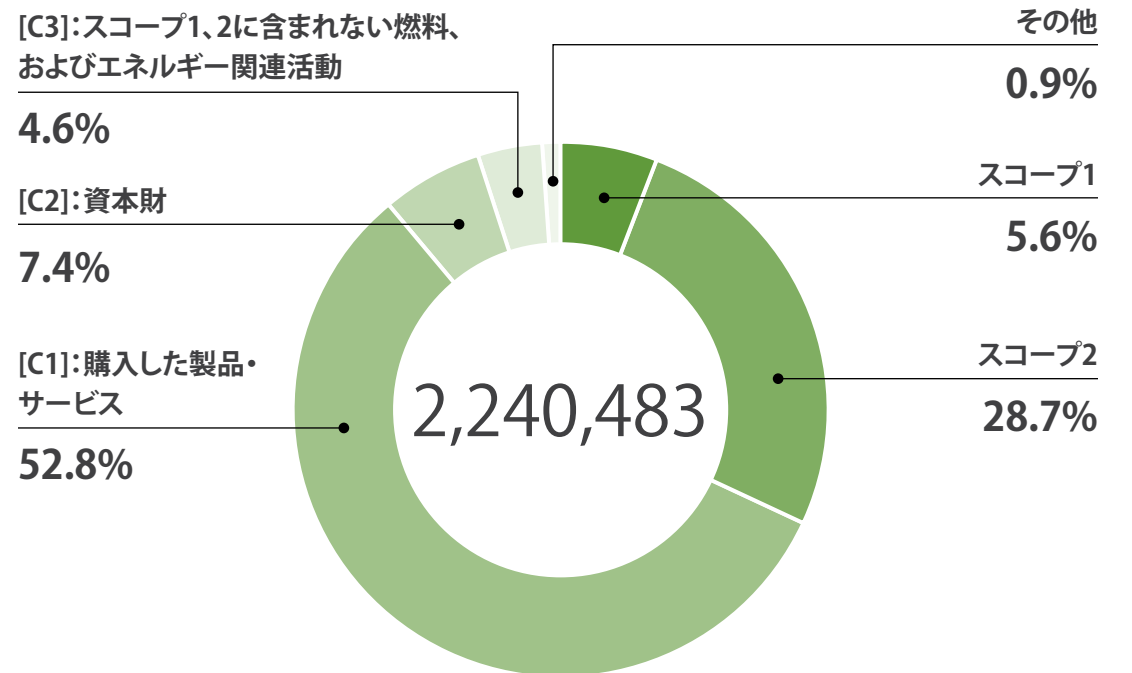
2021年4月、ルネサスは、[気候関連財務情報開示タスクフォース \(TCFD\)](#) に賛同し、[日本を拠点とするTCFDコンソーシアム](#)にも加盟しました。TCFDのフレームワークに基づき、「ガバナンス」、「戦略」、「リスクマネジメント」、「指標と目標」の4つの視点から、気候変動が事業にもたらすリスクと機会に関する情報開示に努めています。また、気候変動をより一層意識した経営戦略の策定と、気候変動のリスクを軽減、機会を最大化する経営判断を行っています(詳細はこちら)。



バリューチェーン全体の環境負荷

バリューチェーンを含む事業活動全体の環境負荷を把握するために、GHGプロトコルに基づき、温室効果ガス (GHG) 排出量のスコープ1、2、3をそれぞれ算出しています。

2024年度ルネサスグループのGHG排出量(スコープ別)
(t-CO₂)



データ集(検証報告書 — 2024年度環境データ)をご参照ください。

- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスポンシビリティ (Business Responsibility)
- データ集

気候変動への取り組み(続き)

温室効果ガスの排出量削減

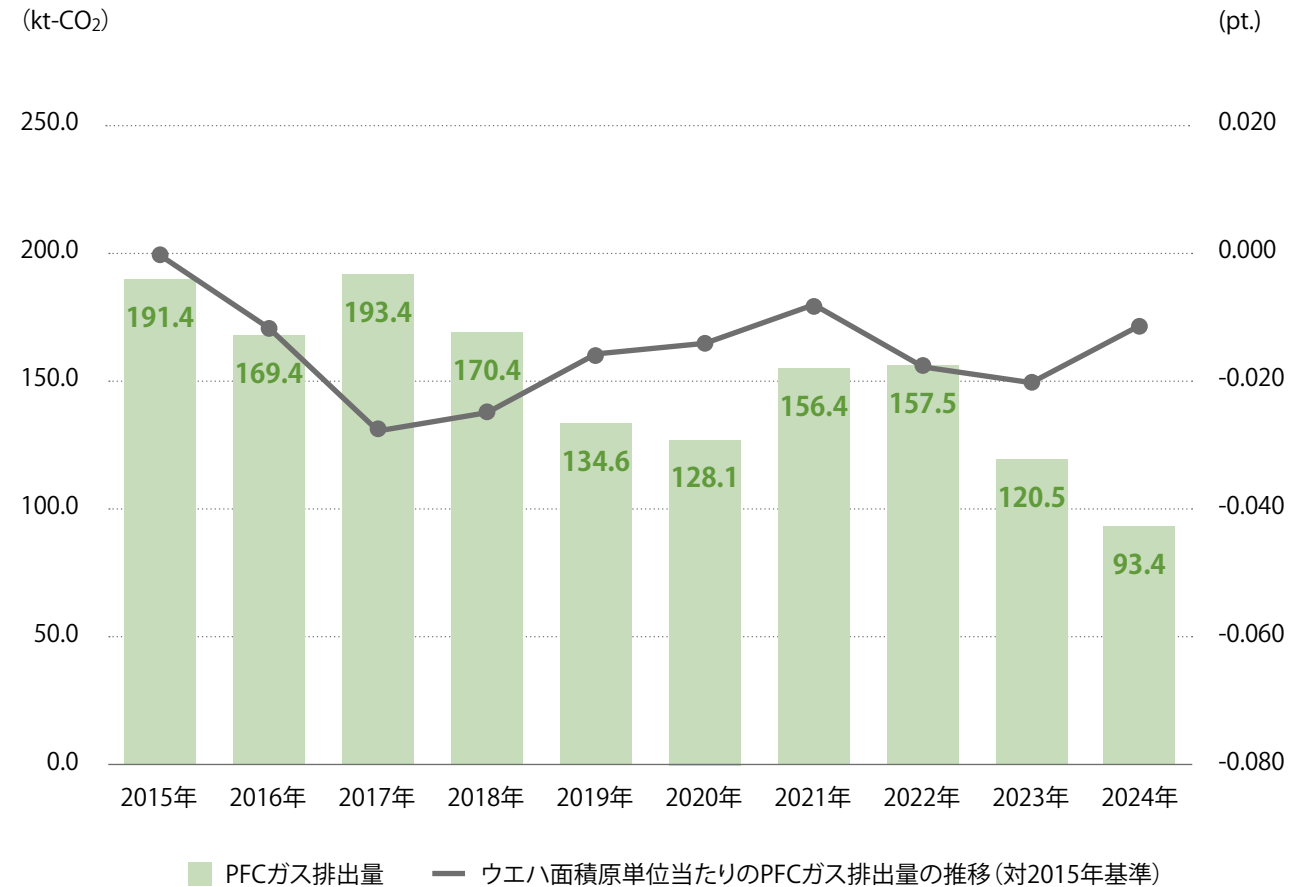
ルネサスは、主に半導体製造工程で、プラズマエッチングやウエハクリーニングのプロセスガスや反応チャンバーのクリーニングガスとして温室効果ガスの一つであるPFC^{※1}ガスを使用しています。このようなガスは分解されにくく、地球温暖化係数(GWP^{※2})は約7千から2万以上と高くなっています。その排出量削減を重要な課題とし、PFCガスの排出削減目標を設定して地球温暖化防止に積極的に取り組んでいます。PFCガスによる温室効果を削減する方法として、①GWPの小さいガスへの変更、②工程を最適化することによるPFCガスの使用量削減、③PFCガスを分解するための除害装置の設置などがあります。当社はこれら3つの手法を組み合わせることで、排出量の目標を2010年までに1995年実績の90%以下にするための技術開発を行ってきました。その後、構造対策を進めながらも、2010年以降も継続して削減活動を実施し、2015年の排出量は1995年比で約20%と大幅に減少しました。

構造対策を終了し、成長フェーズに入った現在、2024年は2015年度比でウエハ面積原単位は0.012ポイント減少、排出量は約51%減少と更なる削減を実現しました。2025年以降も、さらなる排出量削減に取り組めます。

※1 PFC: Perfluoro Compounds: パーフルオロ化合物(半導体業界では CHF₃、CF₄、C₂F₆、C₃F₈、C₄F₈、SF₆、NF₃を指定しています)

※2 GWP: Global Warming Potential: 地球温暖化係数(CO₂を1としたときの係数)

PFCガス排出量とウエハ面積原単位当たりのPFCガス排出量の推移



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)



データ集

気候変動への取り組み(続き)

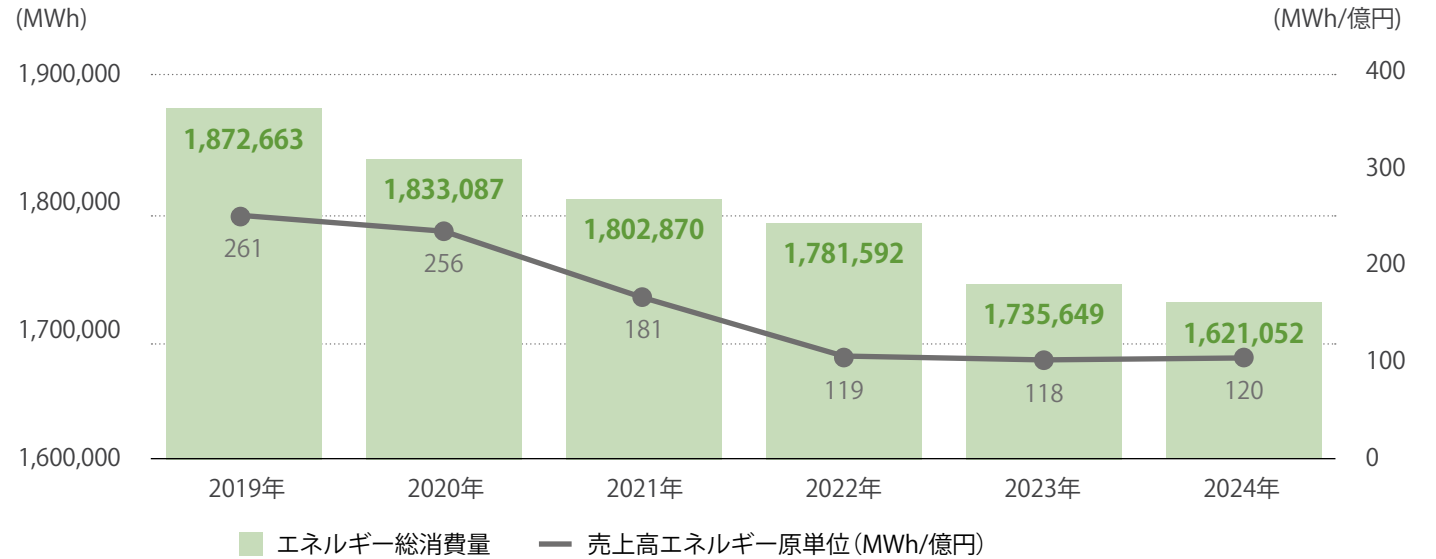
省エネルギー

2024年度エネルギー総消費量実績は、2023年度比で6.6%減少しました。当社対象市場の軟化による需要減の中、各工場で省エネ施策やこまめなエネルギー管理などを行ったものの、売上高エネルギー原単位は前年から若干の増加となりました。

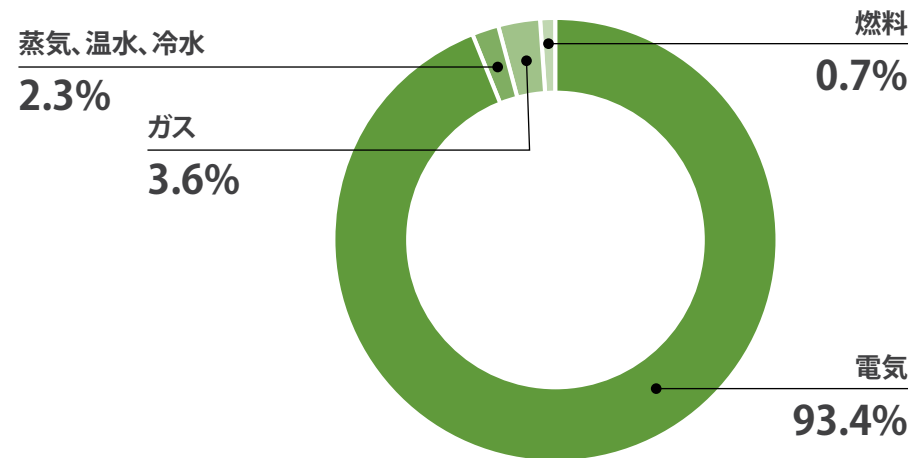
2025年度も引き続き省エネ施策を推進するとともに、事業活動に見合ったエネルギーの効率的な使用に努め、エネルギー消費の削減・地球温暖化防止に取り組んでまいります。

また、ルネサスは毎年、省エネ法の努力目標に沿って、ルネサス全体のエネルギー消費の約8割を占める日本国内のエネルギー消費について、原単位(5年間平均)1%以上の削減を目標としています。目標達成に向けたエネルギー削減活動の一環として、2021年度から日本の電機・電子業界で取り組んでいる「カーボンニュートラル行動計画」に参加しています。「カーボンニュートラル行動計画」は、地球温暖化防止に貢献する革新的技術の開発、技術移転などの国際貢献の推進、サプライチェーン間の連携強化、などを進めています。

エネルギー総消費量 vs 売上高消費エネルギー原単位の推移



2024年度エネルギー使用構成(エネルギー量[J]ベース)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

気候変動への取り組み(続き)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

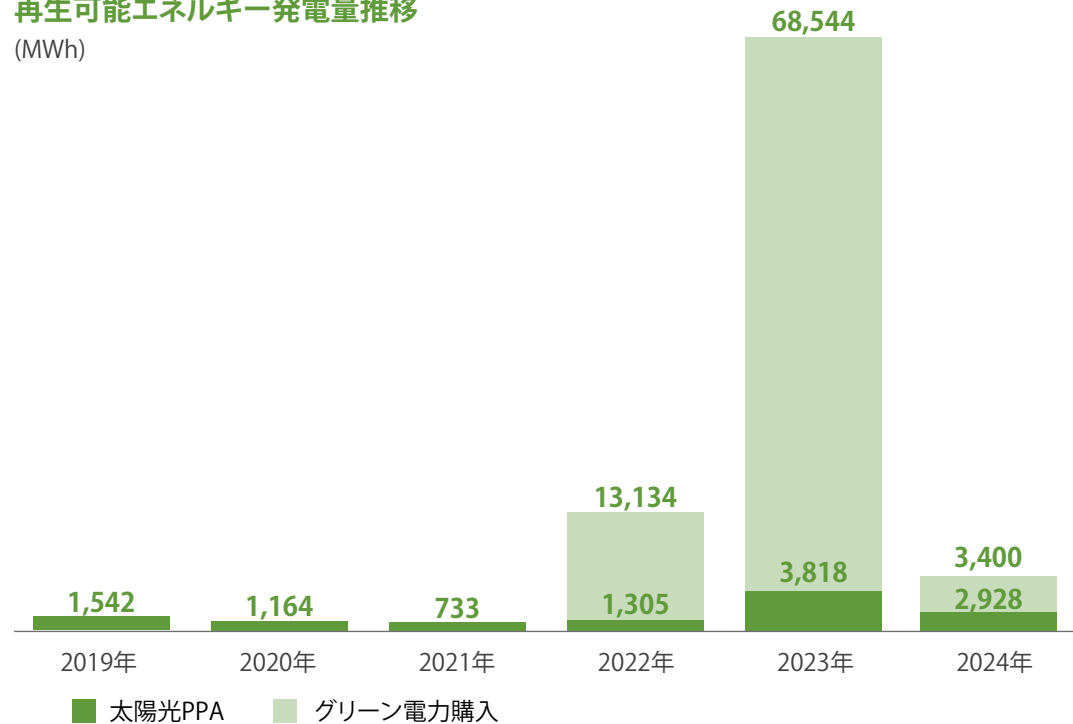
再生可能エネルギー

ルネサスは温室効果ガス削減目標の達成に向けて、主に生産拠点において再生可能エネルギーの導入拡大を進めています。

日本国内においては2022年度からグリーン電力の購入を開始しました。また、日本以外では太陽光発電(PPA)の導入を進めており、2022年後半には、新たに中国とマレーシアの生産拠点で稼働を開始しました。

2024年度は当社半導体需要の軟化があり、生産拠点の稼働減および省エネ施策により、年間で目標としていた温室効果ガスの排出量を十分に下回ることができたため、事業運営の観点から一時的にグリーン電力の購入量を調整しました。

再生可能エネルギー発電量推移
(MWh)



太陽光発電(PPA)導入拠点の概要



生産拠点名	Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.	創出電力量	283kwh/h
所在国	中国	開始時期	2013年10月
方式	太陽光発電PPA		



生産拠点名	Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.	創出電力量	178kwh/h
所在国	中国	開始時期	2022年10月
方式	太陽光発電PPA		



生産拠点名	Renesas Semiconductor KL Sdn. Bhd.	創出電力量	137kwh/h
所在国	マレーシア	開始時期	2022年12月
方式	太陽光発電PPA		

水資源を守る

ルネサスは、水資源保全は世界的な課題であるとともに半導体業界における盤石な事業運営に不可欠であると認識しています。半導体の製造工程では大量の水を必要としており、水資源の枯渇が起これば、生産の停滞を招くことに加え、原材料の調達にも影響を与える可能性があります。こうした運営リスクを最小にするため、ルネサスでは、特に生産拠点において、工業用水などから精製した超純水を半導体ウエハの洗浄や装置の冷却など、さまざまな用途に使用しています。

また、全生産拠点において水源別の取水や使用量、排出先別の排水量などの情報の定期的なモニタリングや、地域や行政の法令や条例を遵守した排水の水質管理を行っています。さらに、リサイクル率を積極的に向上させ水の効率的な使用に努め、当社グループ全体で水総使用量の売上高原単位の改善を進めています。水リスクがあると想定されている地域に位置する生産拠点においては、水使用の生産売上高原単位での改善目標を設定し履行することで、当該地域の生態系に与える影響を最小限にする努力を続けています。また、水資源を育み、生物多様性の保全につながる森林の保護活動として、植樹も行い、水資源を守る森林づくりにも貢献しています。

水資源保全の方針と目標

- グローバルな水資源保全として水の利用率を改善する
- 効率的な水の使用としてリサイクル率を拡大する
- 水リスク地域（近隣等で水の十分な供給が危ぶまれる地域）における水資源保全を推進する

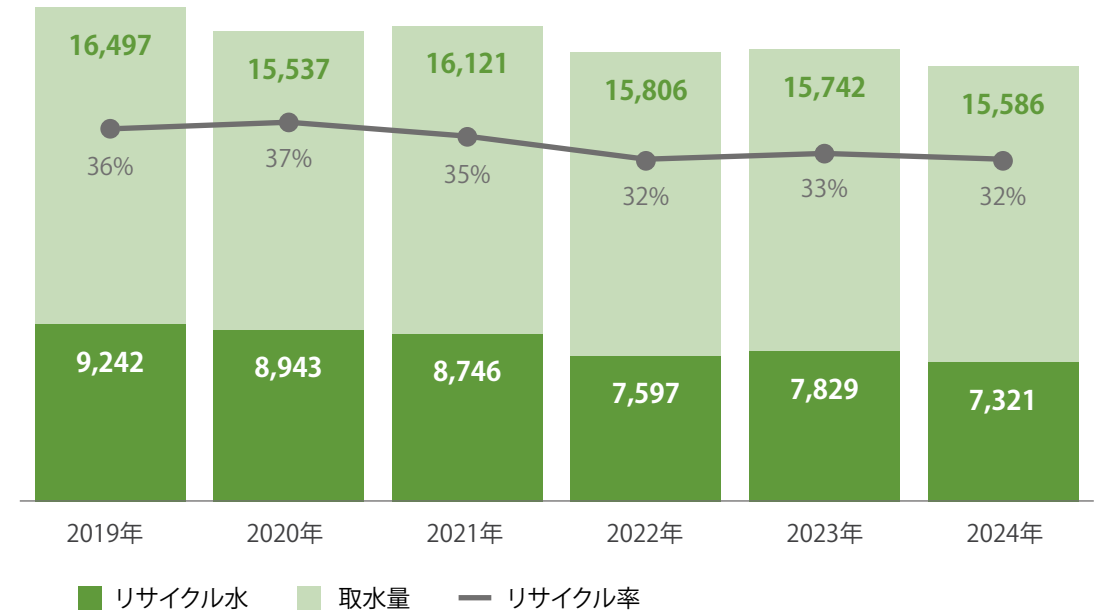
水資源の効率的な使用

ルネサスは、生産効率化や節水による使用量の削減を図っています。同時に、積極的に水をリサイクルして活用することで、グループ全体における総使用量の売上高原単位での改善を推進しています。

2024年度は、効率的な水使用に向けた改善活動により取水量は15,586千m³と前年から約1.0%減少しました。リサイクル率は約1%減少しました。水総使用量は22,907千m³と前年から約2.8%減少しました。さらに、2024年度の水総使用量の売上高原単位は2021年度比で32%改善しました。

総使用量推移

(総使用量 = 取水量 + リサイクル水) (千m³/年)



水資源を守る(続き)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

水リスクへの対応

ルネサスグループの生産拠点における水リスク評価は、世界資源研究所(WRI:World Resources Institute)が提供している世界地図・情報ツール「WRI AQUEDUCT」を使用し、拠点毎に地理的に渇水などの水リスクの高い地域を特定しています。

評価の結果、当社の生産拠点のうち中国の2工場(北京、蘇州)が水リスクの高い地域に該当しており、今後、対策の必要性を含めた検討を進めます。尚、水ストレス(水需給の逼迫度)の高い地域に該当している中国の2工場(北京、蘇州)の2024年度の使用量は計361,875m³であり、当社グループ全体の使用量の約2%です。

当社では、水使用の生産売上高原単位の改善目標(出荷金額を分母とした原単位)を設定し、継続的に改善することで水リスク地域の水資源の保全に努めています。

- Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.の2024年度における累計水使用の生産売上高原単位は、2021年度比27%の改善。2025年度は2021年度を基準年として21%の改善を目指す。
- Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.の同期間における累計水使用の生産売上高原単位は2021年度比32%の改善。2025年度は2021年度を基準年として31%の改善を目指す。

中国拠点における取水量および排水量の推移

原単位(水使用／出荷金額)改善率	2023年度実績	2024年度実績	2025年度目標
Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.	33%	27%	21%
Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.	30%	32%	31%

実績および目標改善率は、2021年度の原単位を基準として算出および設定しています。

水資源を守る(続き)

水使用の生産売上高原単位の改善施策

	Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.	Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.
水使用削減施策	<ul style="list-style-type: none"> ■ 増産により水の原単位(水総使用量/売上高)使用効率を向上 ■ 生活用水および緑化用水の節水活動を引き続き実施 ■ 社員寮における水の効率的使用による使用量の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 増産により水の原単位(水総使用量/売上高)使用効率を向上 ■ 生活用水の効率的使用による水使用量の低減 ■ 冷却塔配管の交換(水漏れ修繕など) ■ テスタ設備冷却方式変更(風冷⇒水冷)による水使用量の低減 ■ 生活用水および緑化用水の節水活動を引き続き実施
効率化施策	<ul style="list-style-type: none"> ■ BGおよびダイシング工程の廃水を回収し、冷却塔の補給水として再利用 ■ 食堂に給湯器の残水回収装置を設置し、回収した水をトイレ洗浄用に再利用 	<ul style="list-style-type: none"> ■ BG研磨廃水、ダイシング冷却水、真空ポンプ冷却水の再利用 ■ 冷却塔用水使用効率アップ(冷却水処理機1台導入) ■ 純水のRO使用と比較して原水使用量を低減



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

水資源を守る(続き)

グローバルサプライヤーとの協働

ルネサスは2021年にResponsible Business Alliance (RBA)に加盟すると共に、「ルネサスサプライヤー行動規範」を改定しました。本行動規範に定めた項目のうち、水の管理として以下を定め、これらへの賛同をサプライヤーにお願いしています。

本行動規範について、すべての重要取引先からの同意、賛同をいただくと共に、多くのサプライヤーからも同意、賛同をいただいています。

- 水源および水の使用と排出を文書化、特性化、監視。節水機会を発掘。汚染経路を制御する水の管理プログラムを実施
- あらゆる廃水についてはその特性を把握、監視、制御し、排出または廃棄する前に必要な処理を実施
- 最適な動作と規制遵守のために、廃水処理システムと水槽・タンクを定期的に監視

地域社会との協働

ルネサスは水資源の保全に向けて、当社の生産拠点の流域関係者との協働を通じて、当該地域の課題解決に努めています。特に、Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.では、地域における水資源の保全および排水における安全対策として、廃水排出に関する流量やpHなどの情報をオンラインモニターで当社から環境保護局に毎時報告し、共同管理しています。



政府機関との協働

ルネサスは水資源保全の取り組みの一環として、2022年2月に「ウォータープロジェクト」に参加しました。「ウォータープロジェクト」は、2014年に施行された水循環基本法に基づき、健全な水循環の維持または回復を目的とした取り組みの促進等を推進するため、日本の環境省が官民連携の活動として創設したものです。



ルネサスは、本イニシアティブを通して当社の水資源保全への取り組みを紹介すると共に、水資源の重要性や保全に向けた当社の貢献について情報発信していきます。

排水管理について

ルネサスは、排水時における周辺環境への影響を最小化するため、排水の水質に配慮しています。ルネサスグループのすべての生産拠点において各国および地域の法律、規制などを遵守するとともに、規制レベル以上の排水自主基準を設定し、管理しています。2024年度に、排水関連法令に対する違反、環境事故、苦情はありませんでした。

事例：廃水排出をオンラインモニター管理
(環境保護局へネットデータ発信、1時間に1回)

化学物質への対応

化学物質管理と体制の構築

ルネサスは、半導体製造に関わる環境リスクの軽減に取り組んでいます。半導体製造プロセスでは、健康・安全・環境リスクをもたらす物質や材料を使用しているため、法規制や顧客要求事項を遵守しつつ、使用量の削減、代替化、適正な処理に注力しています。そのため、ルネサスは、グリーン調達や該当する法規制情報も考慮した化学物質データベースを活用して各種アセスメントを実施しています。ルネサスでは、使用している化学物質の総量を正確に把握するとともに、そうした物質の使用の削減と、それがもたらす危険有害性の最小化に努めています。こうした取り組みを促進するべく、グリーンデバイスやエコファクトリーにつながる研究・開発を継続して行っています。

PRTR※1法やVOC※2対象物質については、少量部分の取扱量まで正確な収支管理を行っています。収支結果は行政へ報告するだけでなく、解析し、化学物質の代替化や排出量削減に向けた活動にフィードバックしています。

ルネサスは、2023年4月に施行されたPRTR法の一部改正に伴い、改正の対象となる物質を特定するとともに、部材サプライヤーと協業してSDS※3の整備を進めています。2023年3月末には改正PRTR法に対応した管理体制を整え、管理を開始しています。

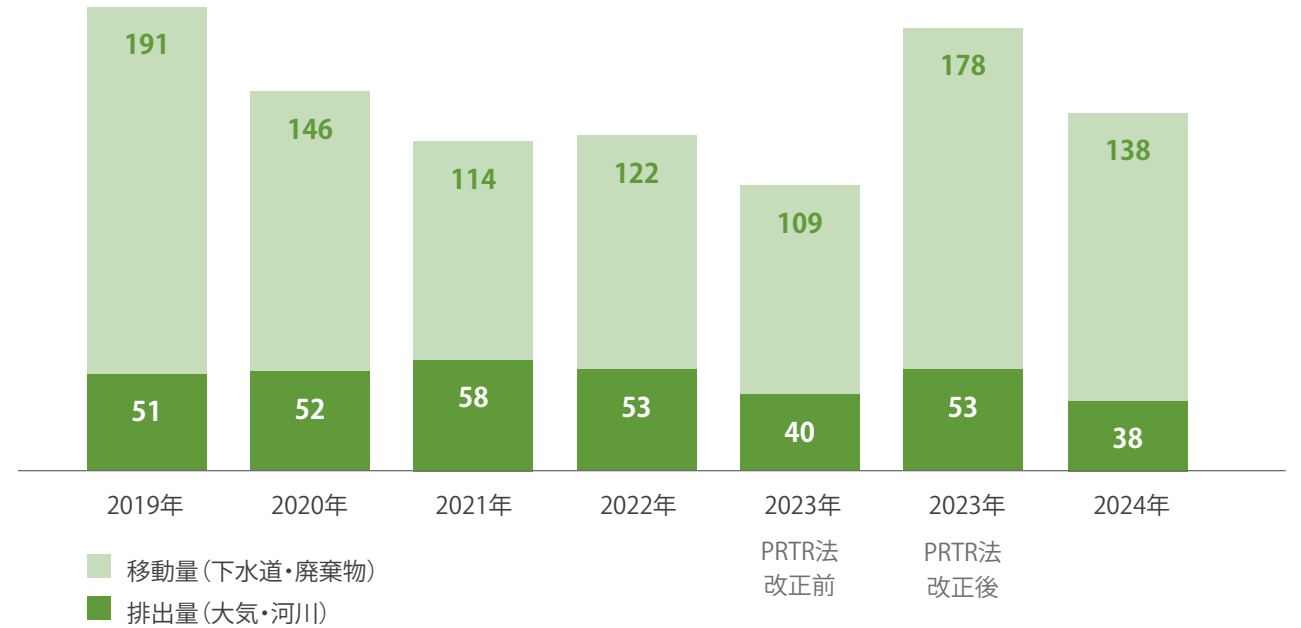
※1 Pollutant Release and Transfer Register: 特定化学物質の環境への排出量の把握等および管理の改善の促進に関する法律 (化学物質排出量把握管理促進法)

※2 Volatile Organic Compounds: 揮発性有機化合物

※3 Safety Data Sheet: 危険性や有害性のおそれがある化学物質を含む製品を他の事業者に譲渡または提供する際に、対象化学物質等の性状や取り扱いに関する情報を記載した文書

化学物質の移動量・排出量 (PRTR法) 推移

(トン)



- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスポンシビリティ (Business Responsibility)
- データ集

化学物質への対応(続き)

使用量・排出量の把握と管理区分の導入

ルネサスでは、グリーン調達や法規制情報に基づく化学物質データベースを基盤とした各種アセスメントを実施しています。危険有害性のある廃棄物を最小限にとどめる取り組みとして、使用化学物質の総量を把握することで、使用量と排出量を管理し、削減しています。

また、グローバルの環境負荷物質に関する法規制動向やお客様の要求等を考慮して、化学物質を次の4区分に分類しています。

化学物質の定義		管理区分
ルネサス管理化学物質	1. 製品への含有、および製造工程での使用を禁止する物質	禁止物質
	2. 製品含有量、および製造工程での使用量、環境への排出量の自主目標をたて、削減を推進する物質	削減物質
	3. 使用、在庫、排出、移動の量の管理を行うべき物質	管理物質
	4. 構成材として把握しておく必要がある物質	構成物質

部品材料の選定・購入段階*

部品や材料の化学物質については、全社購買情報と連携した「化学物質管理システム」により、少量部分の取扱量まで正確な収支管理を行っています。また、お客様からの製品の環境負荷に関するお問い合わせへの迅速な対応に活用しています。

* 容器、梱包材、付属品を含む

製造工程

化学物質に係る環境関連法令、当社規則の遵守および環境事故の防止、そして各拠点・事業所の化学物質管理の強化を目的としてガイドラインを設定しています。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

化学物質への対応(続き)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

日本以外の主要な環境関連法規とルネサスの対応状況

ルネサスは、製品に係る環境関連法規を遵守すべく主要国の法規制の情報を入手し、当社グループ製品に反映させるとともに、お客様へタイムリーに化学物質の含有情報などを展開しています。

国際的に準拠が求められているPOPs条約^{※4}の付属書に掲載されている物質については、日本では「化学物質の審査および製造等の規制に関する法律」(化審法)等の法律に反映され、POPs条約が担保されています。当社では、POPs条約で付属書A(廃絶)に指定された物質が化審法の第1種特定化学物質として反映された段階で、ルネサス化学物質管理区分「禁止」に指定し、グローバルに共有するとともに遵守を徹底しています。

欧州のRoHS指令^{※5}やELV指令^{※6}では、含有禁止物質の閾値(しきいち:規格値または限界値)が定められています。このため、半導体製品を構成する部材について、お取引先様から分析データと禁止物質非含有報告書などをいただくとともに、当社グループにおいても製品の分析をすることで閾値以下であることを確認しています。

当社の法規制への対応状況

- [欧州 RoHS](#)
- [中国 RoHS](#)
- [REACH\(SVHC\)](#)
- [鉛フリー関連](#)
 - ・ [鉛フリー化の部位](#)
 - ・ [パッケージ別端子部の仕様](#)
 - ・ [包装ラベルでの識別](#)
- [ハロゲンフリー](#)
- [ツール製品のRoHS対応](#)
- [その他環境規制・化学物質情報](#)

※4:POPs条約:Stockholm Convention on Persistent Organic Pollutants(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)

※5:RoHS指令:電気・電子機器に対する特定有害物質(鉛、水銀、カドミウム、六価クロム、臭素系難燃剤(PBB、PBDE)、フタル酸エステル類(DEHP、BBP、DBP、DIBP))の含有を制限するEUの指令

※6:ELV指令:自動車に対する鉛、水銀、カドミウム、六価クロムの含有を制限するEUの指令

廃棄物に対する取り組み

3Rの活動概要

当社グループは、グローバル拠点で廃棄物のリサイクル率※90%以上の維持を指標に、再利用、使用抑制、再資源化の「3R」に取り組んでいます。モノづくりにおける「3R」を徹底し、中期的には事業活動に起因する廃棄物のすべてを資源として再利用することを目指しています。

※ リサイクル率(%) = 100 - (最終処分量 ÷ 廃棄物&有価排出物の総量) × 100。
サーマルリサイクルや中和処理等の適正処理も含めています。

Reuse (再利用)

ルネサスでは、製品出荷時にプラスチック製包装材(トレイ・マガジン)を使用しています。当社グループの生産拠点でリユース基盤(回収-洗浄-検査システム)を整備し、効率のよいリユースを実践しています。また、キャリアテープ、段ボール、ウエハケースなども用途を限定したリユースを進めています。

Reduce (使用抑制)、Recycle (再資源化)

製造プロセスの開発や工場設計時において、廃棄物を極力発生させない工夫や他分野の企業と連携した廃棄物の再資源化を進めています。

例えば、排水の処理過程で発生する汚泥はセメント製造メーカーと連携して路盤材やセメント材料へ利用しています。金属類は金属原料として、紙類は再生紙などの原料として再利用されています。また、生産工程で発生したスクラップウエハや不良品と判定された最終製品についても再資源化を進めています。

再資源化の取り組み

廃棄物	主なリサイクル例
汚泥	路盤材、セメント原料、再生砂、金属精錬用原料
廃油	焼却炉助燃材、再生油、セメント原料
廃酸	再生硫酸、排水処理、燃料化、セメント原料、金属原料
廃アルカリ	燃料化、セメント原料、金属原料
廃プラ※※	焼却炉助燃材、固形燃料、プラスチック原料
金属屑※※	金属原料
硝子陶磁器屑	ガラス原料、セメント原料、タイル、軽量骨材
製品屑※※	シリコン原料
貴金属※※	貴金属原料
紙類	再生紙原料
木屑	紙原料、肥料、燃料
発泡スチロール	緩衝材、発泡スチロールトレイ

※※生産工程で発生したスクラップウエハや不良と判定された製品を含む



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンシビリティ
(Business Responsibility)

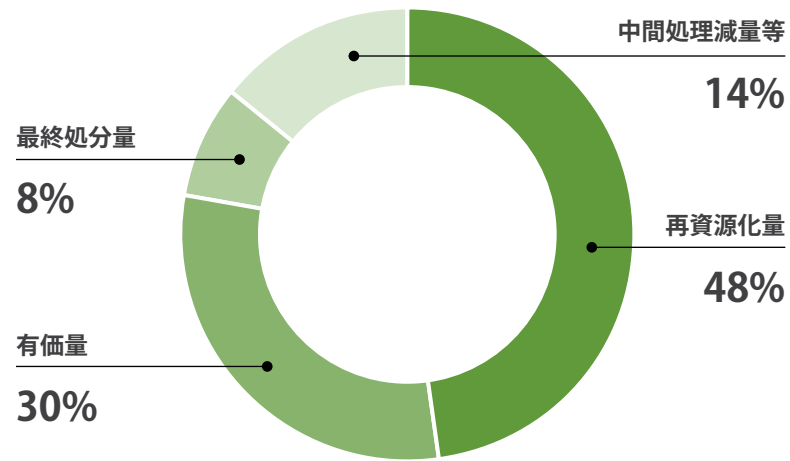


データ集

廃棄物に対する取り組み(続き)

3Rの実績

- 2024年度の廃棄物排出量は、前年と比較して5%減少しました。これは、産業廃棄物・廃プラの削減活動の計画的な実施に加え、当社が対象とする市場の減速に伴う半導体需要の減少によるものです。
- 2024年度の廃棄物全体の約78%を占める日本の廃棄物の99%以上が再利用やリサイクル、または適正に中間処理されています。日本国内において最終的に埋め立て処分(最終処分量)された割合は0.2%でした。日本以外の廃棄物は、日本との比較において埋め立て処分(最終処分量)の割合が多く、35.5%でした。
- また、グローバル拠点での廃棄物リサイクル率は92.1%となり、リサイクル率の指標とする90%以上を維持しています。

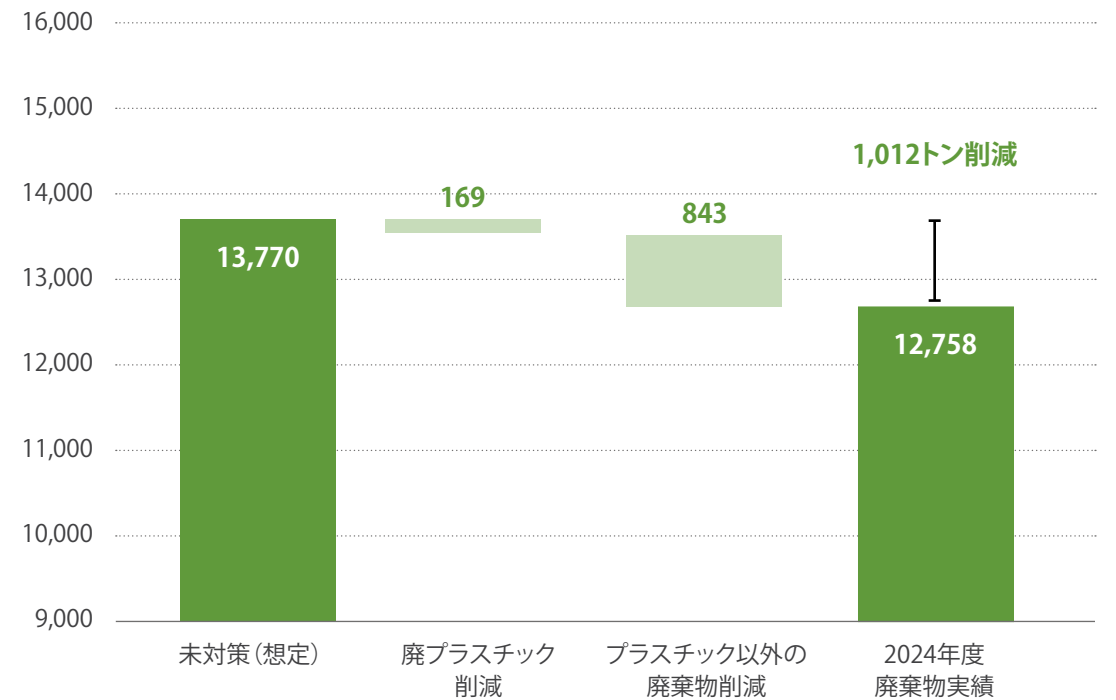


廃棄物削減の取り組み

2024年度、当社グループは、日本で1,012トンの削減(うち廃プラスチック削減169トン)の廃棄物削減を実現しました。

3R活動による廃棄物削減チャート(国内)

(トン)



廃棄物に対する取り組み(続き)

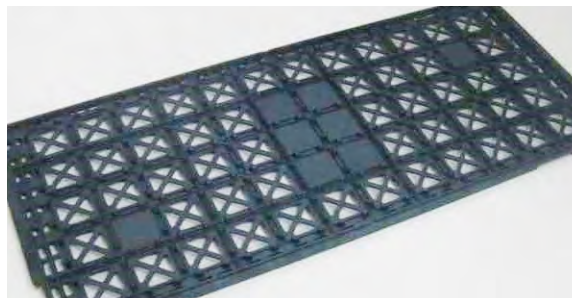
2024年度の主な取り組み

プラスチック排出の抑制(日本の廃プラ新法への対応)

- プラスチック製包装材(トレイ)やプラスチック製ケース、発泡スチロールのリサイクル、または利材化
- プラスチックトレイ、マガジン、ウエハケース等のリユース(発送元の前工程拠点に戻してリユースし、プラスチック廃棄量を削減)
- BGAパッケージ大判化による、プラスチック廃棄部分の削減
- CMPスラリー使用後の樹脂製容器を洗浄しリサイクル、または利材化
- 製造工程で出る袋を、工場周辺清掃活動に必要なごみ袋としてリユース(ごみ袋を購入しない)

廃棄物全体にわたる削減活動

- 廃液・廃油の有価化、排水処理汚泥量の削減活動
- 日本国内の全拠点が参加するワーキングチームを中心とした削減活動の推進など



プラスチック製包装材の活用(トレイ)



ウエハケース



クッション



インナーカバー

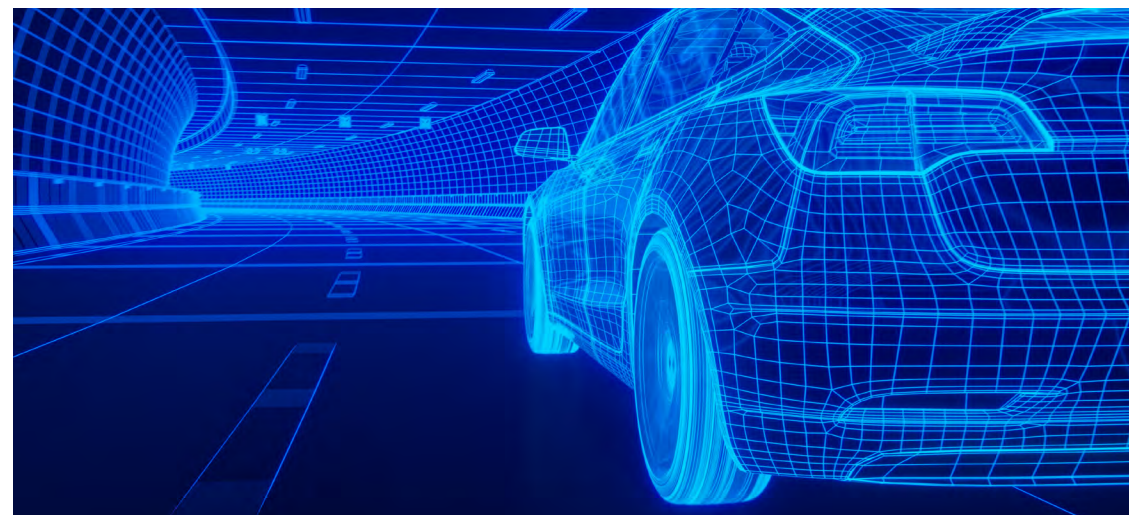
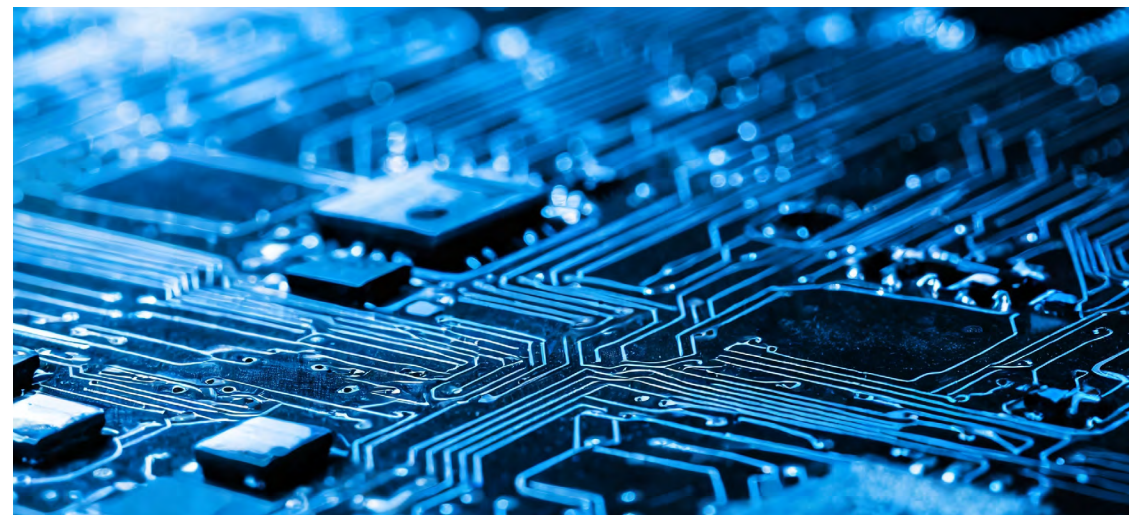
エコプロダクト活動

ルネサスはエコプロダクト活動として、環境配慮型製品の創出や省エネルギー化に貢献する製品・ソリューションの提供に取り組んでいます。

環境配慮型製品の創出

環境配慮型製品(エコプロダクト)創出の実現には、開発→調達→製造→使用→廃棄といった製品のライフサイクル全ステージで環境負荷を低減することが重要です。ルネサスのエコプロダクトは、製品環境負荷低減策をトータルで評価する製品環境アセスメントの実施(プロダクトスチュワードシップ)により実現しています。製品環境アセスメントでは、開発時と量産前の2段階に分けて検証・評価しています。

また、当社は製品環境アセスメントを新製品開発における必須事項として規則化すると共に、新製品の開発に係るプロジェクトリーダーや今後の候補者に対する教育などを通じてプロダクトスチュワードシップの必要性について社内啓蒙を図っています。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

エコプロダクト活動(続き)

各段階でのエコプロダクト活動

開発段階

- 製品環境アセスメントの実施
- 製品のライフサイクル全体を考慮した環境配慮設計の推進



調達段階

- 環境負荷の高い資材、副資材を調達しないグリーン調達の推進



製造段階

- 製造工程の短縮による省エネ化
- 生産現場での化学物質管理



使用段階

- 半導体製品自体の省エネ化(待機電力低減など)
- お客様の省エネ機器に組み込まれる製品の設計



廃棄段階

- 特定化学物質排除
- 製品の小型軽量化で廃棄物自体の量を削減





目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

エコプロダクト活動(続き)

製品環境アセスメント

環境に配慮した製品を創出する方法として開発・設計フローに環境負荷改善度を評価する製品環境アセスメントを組み入れています。評価では、減量化・法規制の遵守・省エネなど6項目において前世代の基準製品※1との比較を行います。

製品環境アセスメント6項目

- 法規制の遵守
- 管理化学物質評価
- 減量化評価
- 省エネ化評価
- 梱包材評価
- 流通評価

アセスメントの判定はアセスメントを実施する開発製品の設計部門および第三者の判定として本社サステナビリティオペレーション部が行います。判定結果として、以下の2項目に該当する場合は製品化を原則不可としています。

- 製品を構成している部材にルネサスが禁止する化学物質が含有されている場合
- 化学分析によりルネサスが禁止する化学物質が検出された場合

また、判定結果において、基準製品よりも環境性能が改善されていない製品については、当該設計部門にて改善の検討や開発継続可否の判断をします。

環境アセスメントの確実な推進は、ルネサスの半導体製品への安心・信頼を醸成すると共に、製品自体の環境性能をさらに向上させ、最終的に当社の製品を使用されるお客様の環境負荷も低減できると考えています。

※1:アセスメントを実施する新規開発製品とほぼ同じ用途・機能・性能の世代前の製品。但し世代前の製品が無い場合は、当該新製品自体を基準製品とする。

ルネサス グリーンデバイス

環境行動指針(全ライフサイクルで環境に配慮した半導体製品を創出)に基づく環境配慮型製品の創出に対応した製品の研究開発・設計を促進するため、環境負荷低減への寄与が大きい製品をグリーンデバイスとして認定しています。

グリーンデバイスの認定は、開発を完了し量産に移行する前の製品を対象として実施します。認定方法として、次の3項目を満たす必要があります。

- ルネサスが禁止している化学物質を含有しない
- 欧州RoHSに適合している
- ハロゲンフリー

加えて、製品環境アセスメントの結果を元に当該製品が基準製品よりも資源(質量)、エネルギー(消費エネルギー)、化学物質(ルネサス使用削減物質の含有量)の3つの項目において環境性能が優れているか否かを確認します。そして基準製品よりも優れていると判定された製品は、その改善率が10%以上であれば「ルネサス グリーンデバイス」とし、社内認定をしています。2024年度のルネサスの新製品開発案件に占めるルネサス グリーンデバイス開発案件の割合^{※1}は89%でした。

評価項目	基準製品と新製品の比較	ルネサス グリーンデバイス
省資源評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製品容積 ■ 製品質量 	10%以上削減
省エネルギー評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 駆動時の消費電力 ■ 待機時の消費電力 	
化学物質含有量評価	<ul style="list-style-type: none"> ■ 製品含有削減物質使用量の改善率 	
		89%:新製品開発案件数に占めるルネサス グリーンデバイス開発案件数の割合

※1:旧ルネサス製品の2024年度に開発した品種数に占めるルネサス グリーンデバイスの割合

- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)
- データ集



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ルネサス グリーンデバイス (続き)

ルネサス グリーンデバイスの鉛フリー製品について

ルネサスの半導体製品は、多くの製品に搭載され、世界各国で使用されます。このため、製品に係る環境関連法規を遵守すべく主要国の法規制の情報を入手し、当社グループ製品に反映させるとともに、お客様へタイムリーに化学物質の含有情報などを展開しています。また、その中でも半導体製品や電子機器に対する要請が高まっている製品の鉛フリー化についても、ルネサスは積極的に使用削減に取り組んでいます。

ルネサス グリーンデバイスの環境への貢献

ルネサス グリーンデバイスは製品そのものに使用される資源、エネルギー、禁止化学物質の削減のみならず、製品・ソリューションをお客様のシステムに組み込むことで、お客様のシステムのエネルギー消費効率の向上に貢献します。また、当社製品を組み込んだお客様の商品がさまざまな用途に使用されることで、社会における省エネ効率の向上にも寄与しています。

鉛フリー製品の開発品種数の割合	
ルネサス グリーンデバイス 新規開発	80%

環境法規制への対応についての詳細は[こちら](#)

鉛フリーへの対応についての詳細は[こちら](#)

ルネサスは、自動車、ファクトリーオートメーション (FA)、通信インフラ、医療・ヘルスケアなど、社会の根幹をなすミッションクリティカルな事業分野において、持続可能な社会に貢献する製品やソリューションを提供することをコア事業のひとつとしています。具体的には、環境負荷の低い低消費電力製品や人々の生活を安心安全なものとする製品やソリューションの提供のための製品開発、それを支えるイノベーションのための研究開発に注力して取り組めます。

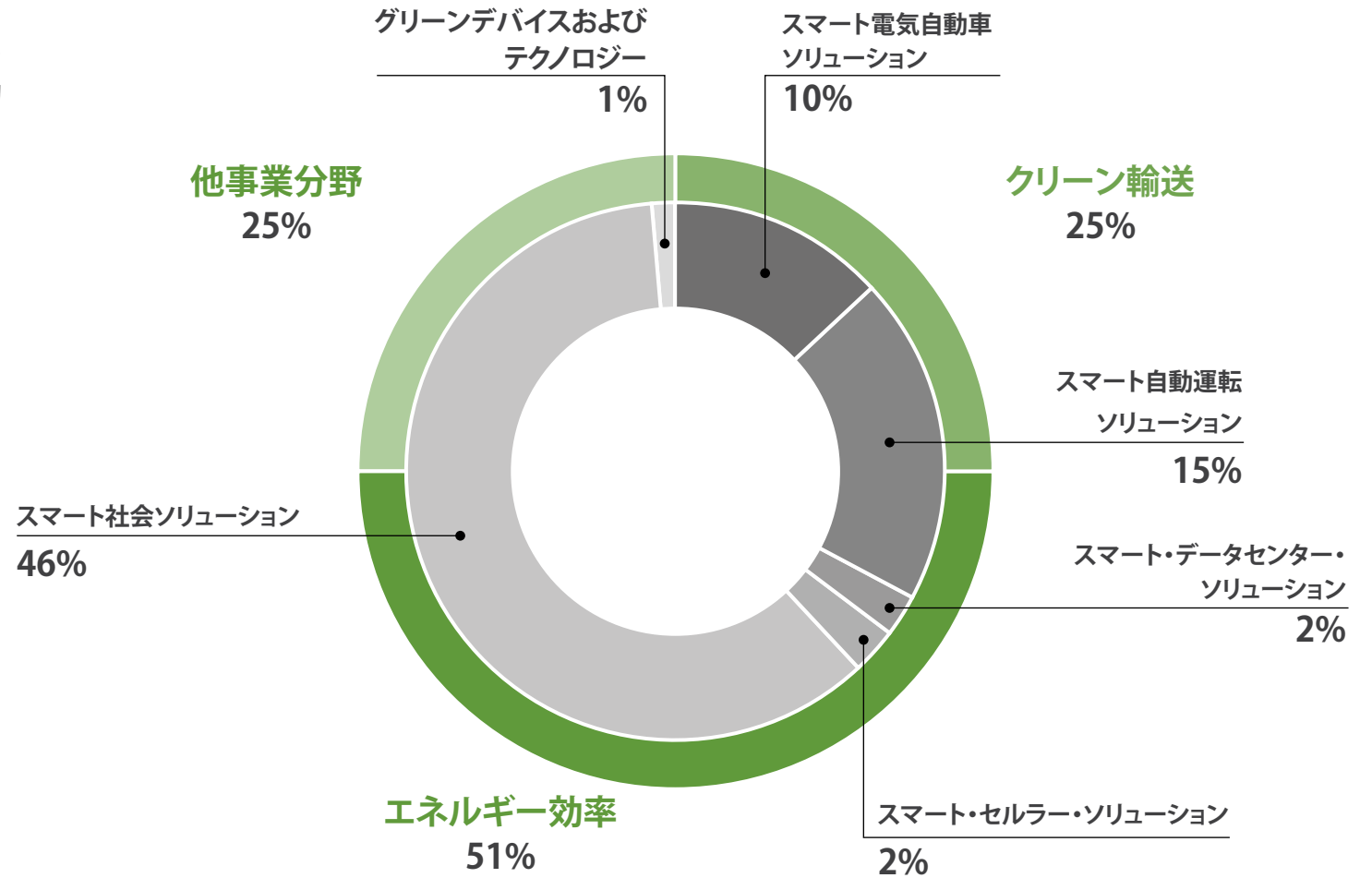
ミッションクリティカルな事業分野 (自動車、FA、通信インフラ、医療、ヘルスケアなど)		他事業分野
クリーン輸送	エネルギー効率	他事業分野
スマート電気自動車ソリューション	スマート・データセンター・ソリューション	他分野対応製品・ソリューション
スマート自動運転ソリューション	スマート・セルラー・ソリューション	
	スマート社会ソリューション	
	グリーンデバイスおよびテクノロジー	

お客様のシステムを通じて持続的な社会の実現に貢献する製品・ソリューションの詳細は[こちら](#)

ルネサス グリーンデバイス (続き)

ルネサス グリーンデバイスのソリューション別開発案件数比率

2024年度のルネサスのグリーンデバイス開発案件数の内、ミッションクリティカルな事業分野(グリーンボンド適格ソリューション)は75%、内、スマート自動車ソリューションや電気自動車向けが25%、データセンターやセルラーなど社会インフラ向けが50%を占めています。*2



*2: ルネサスのグリーンデバイス(2024年度に開発し量産開始した旧ルネサス製品とその系列製品)をグリーンボンド適格ソリューションに分類し、グリーンデバイス開発案件数を分母として各ソリューション別の比率を算出。分類できなかった他事業分野の製品比率は25%です。

ルネサス グリーンデバイス (続き)

サプライチェーンにおける製品環境品質

ルネサスは、開発・設計時の部材選定から製造工程での汚染防止にいたるまで、全工程を通じた製品含有化学物質管理にはサプライチェーン全体で取り組む必要があると考えています。このため、取引先には使用禁止物質に係る非含有保証書や分析データの提出を求め、サプライヤーオーディットによる管理体制の確認をしています。販売会社および代理店には、使用する包装材の製品含有化学物質管理をお願いしています。一方、お客様に対しては、当社の製品を安心してお使いいただくために製品含有化学物質情報やRoHS指令による禁止物質の分析データなどを必要に応じ提供しています。また、当社の含有化学物質管理の仕組みや実際の活動状況をお客様に確認していただいています。

環境に配慮したサプライチェーンの取り組みについての詳細は[こちら](#)

グリーン調達についての詳細は[こちら](#)

環境コンプライアンスについての詳細は[こちら](#)

サプライチェーン全体での 製品含有化学物質管理

原材料メーカー様

部材メーカー様

ルネサス エレクトロニクスグループ

販売会社様・代理店様

セットメーカー様

生物多様性保全活動

生物多様性保全の活動方針

ルネサスの事業分野である半導体は製造において大量の水や資源、エネルギーが必要であり、生物多様性がもたらすさまざまな生態系サービスに大きく依存しています。

当社では、持続可能な社会の実現に向け、地球環境の保全と人々の健やかな暮らしの調和を考えた企業活動を推進するという環境基本理念に基づき、生物多様性の保護を推進しています。生物多様性の保護は、環境行動指針の重要な項目の一つに位置付けられています。

また、生産拠点や事業所における資源の効率的な使用や、サステナブルな製品やソリューションの提供など、事業活動を通じた生物多様性の保全に貢献する活動を積極的に推進することを活動方針としています。お客様のニーズに応えると同時に、生態系サービスから享受した恩恵を地域社会へ還元していきたいと考えています。

生物多様性活動評価

ルネサスの生物多様性保全活動は、各拠点の自己評価に統括部門のレビューを反映した平均値によって評価しています。評価3年目となった2024年度は、海外1拠点を新たに追加し、グローバルで全16拠点を評価しました。

国内外ともに生物多様性保全の取り組みは引き続き活発に実施しており、特に従業員の意識啓発活動は、従来のオンライン教育や集合教育に加え、環境情報発信を強化した拠点が複数あり、評価が向上しました。

高評価となった拠点

拠点ごとの比較においては、保護対象種の保全や食品ロスキャンペーンの参画など、多くの新たな取り組みを開始したKuala Langat Factoryが最高評価となりました。また、定量的な現状把握を目的として植生調査を開始した北京工場や、マングローブ植樹を含む自治体主催の環境活動に積極的に参加したPenang FIZ2 FactoryおよびPenang FIZ3 Siteも高評価でした。国内生産拠点では、廃棄物の削減や意識啓発活動を強化した大分工場や、緩衝材のリサイクルを開始した那珂工場は前年から大きく評価が改善しました。

スコアブックによる定量評価を導入して3年、当社では各拠点の生物多様性保全活動が見える化し、継続的にその活動を振り返ることができるようになりました。これにより、活動の質を高めたり次の展開を考えたりするきっかけが生まれています。

今後も活動の継続と、内容の改善に向けて拠点間の情報共有を進め、ルネサス全体として生物多様性保全へのさらなる貢献に努めます。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

生物多様性保全活動(続き)

生物多様性保全活動 2024年評価



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



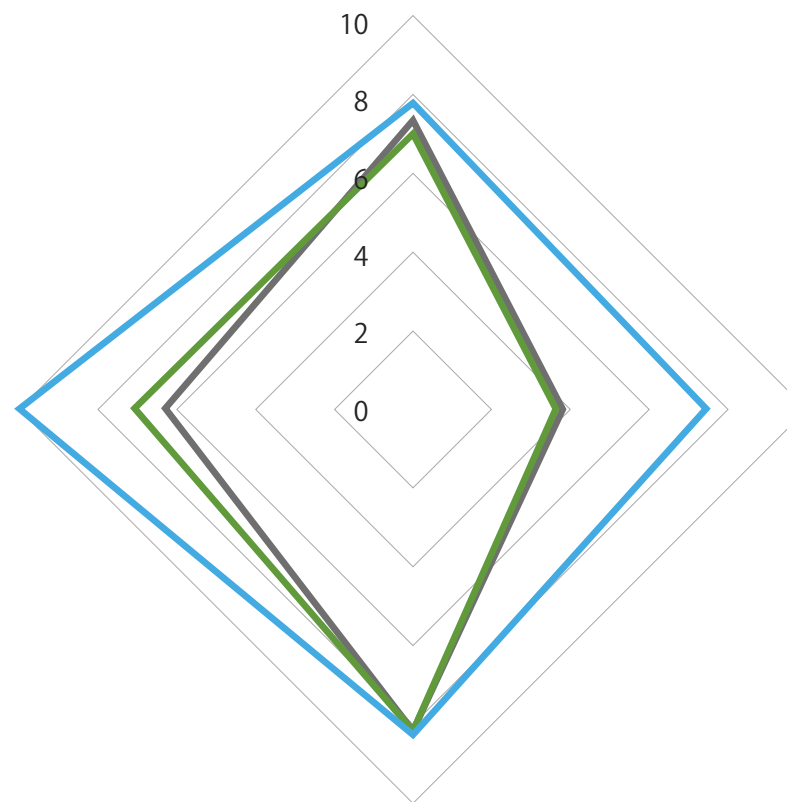
ビジネスリスポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

D. 地域行政との連携・本業での活動・社員意識啓発・職場環境の改善

A. 海洋・水質の保全



- ◇ 前年度平均点⁽¹⁾
- ◇ 2024年度平均⁽²⁾
- ◇ 最高点 Kuala Langat Factory

B. 土壌や自然環境の保全

C. 温暖化抑制と省資源活動による生態系保護

(1) 15拠点(本社地区、那珂、高崎、西条、川尻、米沢、大分、錦、北京、蘇州、Kuala Langat、Penang FIZ2、Penang FIZ3、Palm Bay、Dresden)の平均点

(2) (1)にBingenの拠点を加えた平均点

生物多様性保全活動(続き)

2024年度の生物多様性活動実績

2024年度、ルネサスでは生産拠点を中心に130件の生物多様性活動を実施しました。

ルネサス (15生産拠点、1事業所)	A. 海洋・水質の保全	B. 土壌や自然環境の 保全	C. 温暖化抑制と 省資源活動による 生態系保護	D. 地域行政との連携・ 本業での活動・ 社員意識啓発・ 職場環境の改善	計
生産拠点	29件	22件	25件	47件	123件
事業所	2件	1件	2件	2件	7件
合計	31件	23件	27件	49件	130件



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

生物多様性保全活動(続き)

海洋・水質の保全

大量の水資源を必要とする半導体製造業界にとって、海洋と水質の保全は不可欠です。ルネサスは、工場排水路の定期清掃や地域の清掃活動への参加を通じて、海洋・水質保全に努めています。



周辺地域の重要な水路であるテルクバハン川の清掃活動 (Penang FIZ2 Factory)



従業員による工場外周排水路の清掃活動 (Penang FIZ3 Site)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

生物多様性保全活動(続き)

B. 土壌や自然環境の保全

健全な生活環境と持続可能な未来を築くには、豊かな土壌や木々、そしてそこに育まれる多様な生物を保全することが重要です。各地に点在するルネサスの事業所では、それぞれの地域に密着した活動を行っています。



海岸線浸食の軽減や水質浄化、海洋生物の生息地保護のためマングローブ植樹を実施 (Penang FIZ2 Factory)



生物多様性保全の第一歩として敷地内の植生調査(40種、2,200本)を実施(北京工場)

生物多様性保全活動(続き)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

C. 温暖化抑制と省資源活動による生態系保護

ルネサスは、温暖化抑制や省資源活動は生態系を保護するための喫緊の課題だと認識しています。省エネ効果の高い設備への更新や高効率ラインの導入、グリーン電力の購入から職場の節電まで、様々な側面から環境課題の解決に取り組んでいます。



灯油からLNG燃料へ切り替えたボイラー (西条工場)

Zertifikat

Erneuerbare Energie

Hiermit bestätigen wir unserem Kunden

Renesas Design Bingen GmbH

Firmenname

Im Bubenstück 1

Adresse

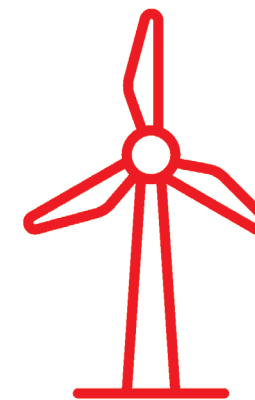
55411 Bingen

PLZ Ort

mit dem **Produkt „Öko basic“**, dass im Umfang seines Stromverbrauchs im Zeitraum vom 01.03.2023 bis zum 31.12.2024 Strom in Erneuerbaren-Energien-Anlagenerzeugt und in das öffentliche Stromnetz eingespeist wird.

Ihr Beitrag zum Klimaschutz

Sie tragen damit zu einer Einsparung von jährlich ca. **223.403 kg CO₂** gegenüber dem deutschen Strommix bei.



Bingen工場では再エネ購入と社屋の太陽光発電により、100%再エネ由来の電力を使用 (Bingen Site)

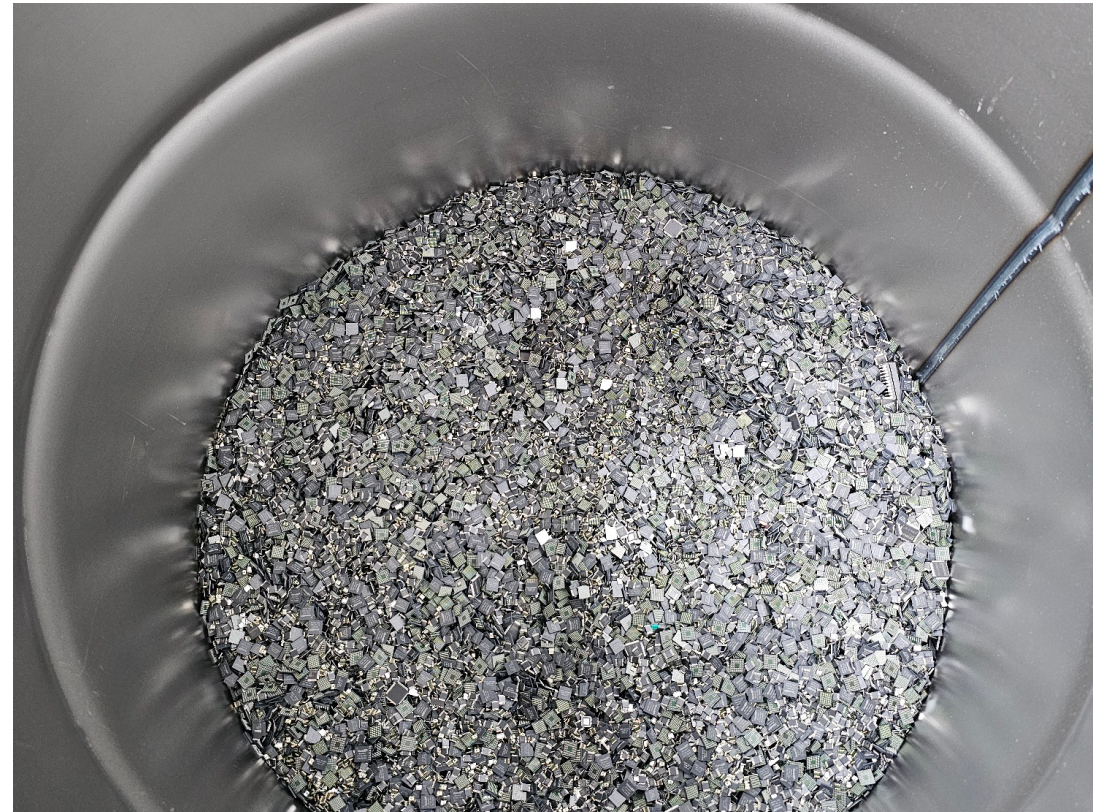
生物多様性保全活動(続き)

D. 地域行政との連携・本業での活動・社員意識啓発・職場環境の改善

生産拠点が所在する地域行政の環境課題への取り組みにも積極的に協力しています。



市と提携し1日当たり30m³の再利用水を市に供給 (Palm Bay Factory)



不良ICを長期的に集めて分解処理し、貴重な材料をリサイクル (Bingen Site)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

社会 (Social)

- 71 リーダーの視点:優れた人材基盤の強化とサステナビリティの推進
- 74 ルネサス・カルチャー
- 76 ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
- 81 人材育成
- 85 安全衛生

リーダーの視点:優れた人材基盤の強化とサステナビリティの推進

執行役員 兼 CHRO 中西 詩絵へのインタビュー

Q:ルネサスが2024年に達成した人事関連の主要な成果のうち、サステナビリティとイノベーションの目標に最も貢献した施策を3つ教えてください。

ルネサスのHRリーダーシップチームは、2030年までを見据えた長期戦略の推進に積極的に取り組んでいます。全体的な優先事項に変更はありませんが、毎年、新たな課題や機会に対応できるよう内容を見直しています。2024年度、2030年に向けたロードマップにおいて、サステナビリティとイノベーションを特に推進した人事施策3つは以下の通りです。

簡素化

2024年、ルネサスはAPAC地域全体で持続可能性と革新性を両立させた人事モデルの推進に取り組みました。雇用条件や福利厚生、業務プロセスの統一を図るとともに、日本国内の人事慣行をよりグローバルスタンダードに近づける改革を進めています。また、持続可能な成長を支えるために、地域ごとの人事チーム体制を最適化し、後継者計画やキャリアパスの整備に注力することで、将来を見据えた人材基盤の強化を進めました。

リーダーシップ

2024年には、マネジメントおよびリーダーシップに関する評価・育成活動を正式に制度化し、継続的な成長とイノベーションを促進する企業文化の醸成を進めました。リーダーに対しては、持続可能な実践を推進し、チームを鼓舞するスキルの習得を支援することで、当社のサステナビリティ目標と合致した、強靱で将来を担うリーダーシップパイプラインの構築を進めています。

従業員体験

2024年、ルネサスは従業員体験向上のためのいくつかの重要施策を通じ、サステナビリティとイノベーションへの取り組みを一層強化しました。その一環として、グローバルに接続された柔軟で包摂的な働き方を推進する「海外リモートワーク制度」の第2フェーズを開始しました。さらに、2024年6月に11回目を迎えた「国際女性エンジニアデー (INWED)」によせてさまざまな社内イベントを開催し、エンジニアリング分野における女性の功績を称え、次世代への貢献とインスピレーションに感謝を表しました。女性従業員主導のディスカッションフォーラムや、当社のコネクティビティ事業部のVice Presidentである Chandana Pairlaと、Wolfspeed社のCTO、Elif Balkas氏をゲストに迎えたオンライン対談(バーチャル・トークセッション)を通じて、従業員とのエンゲージメントを深めました。

サステナビリティ目標に関して、より具体的には以下のような取り組みを進めました。

- 人権方針を改訂し、最新のベストプラクティスおよび法規制要件との整合性を確保。
- 強制労働および児童労働に関する是正計画を策定し、現在の雇用慣行においてリスクの高い領域を特定・分析し、責任者を定めリスク軽減策や是正措置を講じる体制を構築。
- 責任ある採用の原則に則り、ルネサスグローバル行動規範を改訂しベストプラクティスとの整合性を確保。また、それに伴い調達プロセスにも変更を加え、すべての採用代行業者(RPO)が「サプライヤー行動規範」に準拠する体制を整備。
- 人事関連目標を特定し、ルネサスのESG戦略全体に組み込むための統合アクションプランの策定を通じて部門間の連携を促進し、共通目標に向けてチームの結束を強化。

これらの成果は、将来の変化に対応できるレジリエンスを備えた人材を育成するとともに、当社のより広範な戦略目標と整合させる、というコミットメントを裏付けるものです。

執行役員 兼 CHRO

中西 詩絵



リーダーの視点：優れた人材基盤の強化とサステナビリティの推進（続き）

Q: デジタルトランスフォーメーションやサステナビリティといった

業界の期待に応えるために、ルネサスの人材獲得および定着戦略はどのように進化してきましたか。今年導入されたユニークなプログラムや取り組みがあれば、ぜひ教えてください。

2024年にルネサスは、イノベーションを進めてプロセス改善に注力することで、人材獲得において重要なマイルストーンを達成しました。

採用管理システム (ATS)、「Smart Recruiters」

2024年2月、ルネサスは新たなATSとして直感的で使いやすいプラットフォーム「Smart Recruiters」を導入し、採用プロセスの変革を実現しました。このシステムは、リクルーター、人事担当者、マネージャーが共通の情報にアクセスできる「唯一の情報源」として機能し、候補者の推薦や面接フィードバックの収集といった業務を効率的に進めることができます。また、「SuccessFactors」とのシームレスな統合により、求人情報はSuccessFactorsからSmart Recruitersへ自動的に連携され、内定受諾後はオンボーディング活動が速やかに開始されるなど、採用から入社までの一連の流れがよりスムーズになりました。さらに、これまでオフラインで時間を要していた承認プロセスも、システム内で簡素化され、承認フローが迅速かつ効率的に行えるようになりました。

グローバル従業員紹介制度

ルネサスはまた、「グローバル社員紹介制度 (Global Employee Referral Policy)」を導入し、これまで地域ごとに個別に運用されていた15の紹介制度を、ひとつの統一された仕組みへと統合しました。この制度により、すべての社員に対して報酬体系が標準化され、Smart Recruiters内の社員ポータルを通じて簡単に紹介が行えるようになったことで、参加のハードルが下がり、グローバル全体での紹介活動がさらに活性化しています。社員のネットワークを活用することで、より多様な人材プールへのアクセスが可能となり、新しい視点やアイデアの取り込みを通じて、ルネサスにおける創造性とイノベーションの推進にもつながっています。

インドにおけるハイブリッド型TA (人材獲得) チーム

持続的な成長を支えるため、社内の専門知識とRPO (採用代行) 機能を組み合わせたハイブリッド型の人材獲得チームを、インドにおいて設立しました。採用、研修、オンボーディングに関するプロセスは他チームと連携して導入され、強固な人材パイプラインを構築するために大学との連携も進めました。さらに、的を絞ったブランド認知向上キャンペーンをインド市場で展開し、成長著しい同市場において「選ばれる雇用主」としての当社の地位を一層強化しました。

Q: 2024年に実施された従業員エンゲージメント施策の例と、それらが協働的かつイノベティブな企業文化の醸成に与えた影響について教えてください。

2024 Renesas Day: ルネサスのカルチャーを祝福し、エンゲージメントを促進することを目的とした1日で、従業員とのつながりを深め、コミュニティ意識を育む場を提供しました。

2024年も全社サーベイを継続実施し、「Renesas Culture (ルネサス・カルチャー)」が従業員にどの程度浸透しているかを測定するとともに、課題認識や改善のアイデアを把握することを目的としました。

グローバル・リーダーシップの育成: グループ全体の事業成長を牽引する将来のリーダーを特定・育成する取り組みで、部門や国境を越えたローテーション機会を通じてプロフェッショナルなネットワーク構築を支援しています。

グローバルモビリティ: 多様な地域で働く従業員を支援する取り組みで、恒久的な国際間異動、一時的な赴任、短期派遣などを対象とし、キャリア開発の機会を提供しています。

2024年には、全社会議や小規模なラウンドテーブル形式の対話セッション (直接対話)、全従業員を対象としてオンラインで行われる、日本語と英語による情報共有および質疑応答セッションの継続実施。これらのイベント後にはアンケートを実施し、従業員から経営陣へのフィードバックや提案、コメントを収集しています。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネススポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

リーダーの視点：優れた人材基盤の強化とサステナビリティの推進（続き）

Q:2025年に人事戦略上で優先して実施されている取り組みを教えてください。

また、それらは、特にサステナビリティやグローバルな人材育成といった、ルネサスの長期的な目標とどのように連動していますか。

2025年の重要人事施策としては、リーダー人材育成、従業員エンゲージメントと従業員体験、人事指標およびデータ分析、人事プロセスとリソースの最適化が挙げられます。いずれもサステナビリティの推進を支えており、ルネサスの長期的なサステナビリティ目標およびグローバル人材育成への取り組みと緊密に連動しています。2025年は、以下の領域において、これらの優先課題に具体的に取り組む計画です。

リーダー人材育成

優れたリーダーは、企業目標に対して明確な方向性を示し、組織内に整合性をもたらすことで、従業員の能力とパフォーマンスを最大限に引き出します。また、経済的・社会的・環境的責任のバランスを理解することも欠かせない要素です。ルネサスでは、リーダーが持続不可能な慣行に伴うリスクを特定・軽減できるようにすることを目指し、各種育成プログラムを通じて、長期的な持続可能性と成長を支える力を養っています。

また、ルネサスでは、ローテーションプログラムやハイポテンシャル人材向けの加速型リーダー育成プログラムを通じて、現在および将来のグローバルリーダーの育成にも注力しています。

従業員エンゲージメントと従業員体験

高パフォーマンスと自律的な文化の醸成は、ルネサスグループ全体の成功にとって引き続き不可欠です。2025年には、オンボーディングおよび従業員育成プログラムの強化などの施策を通じて、組織全体でハイパフォーマンスを実現するためのアプローチをさらに推し進める予定です。

また、公正な報酬体系を提供する責任を果たすために、報酬の透明性や生活賃金などに関するグローバルな取り組みを行っています。さらに、Learning Management System (LMS) の導入により、スキル構築と知識の継承を促進し、社員の成長を支援します。

人事指標とデータ分析：データ主導の意思決定による変革の推進

人事指標は、当社のサステナビリティ戦略における重要な基盤であり、変革を促すために欠かせないインサイトを提供します。これらの指標は、当社の人権デューデリジェンスの中核であり、ジェンダー間の賃金格差是正、報酬の透明性向上、CSRD（企業持続可能性報告指令）遵守への対応といった取り組みを後押しします。

人事プロセスの最適化とリソースの調整

ルネサスでは、グローバルにおける人事リソースの効率化を進めており、統一されたポリシーライブラリの構築などを通じて、すべての法域においてコンプライアンス、透明性、倫理的な意思決定を確保しています。これにより、業務効率を高めるとともに、サステナビリティの推進を支援し、人事の取り組みを当社のESG目標と整合させています。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ルネサス・カルチャー

ルネサス・カルチャーは、世界中の従業員をひとつに結び付け、イノベーションを促進し、私たちのパーパス「To Make Our Lives Easier(人々の暮らしを楽(ラク)にする)」の実現に向けた原動力となっています。私たちは日々、起業家的なマインドセットで変化を受け入れ、優れた事例を共有し、お客様の進化するニーズに応えるだけでなく、さらに期待を上回るような新たな方法に挑戦することで、TAGIEカルチャーの体現に努めています。



2020年以降、ルネサスでは毎年、全世界のあらゆるレベルの従業員を対象としたサーベイを実施し、従業員のエンゲージメントを図るとともに、目標に向けた進捗を測定しています。従業員からのフィードバックや提案をもとに、継続的に改善すべき領域を特定し、具体的なアクションプランを通じて対応を進めています。

2024年度従業員サーベイの結果

回答率	90% (20,364件の回答)
コメント	3,230
進捗度	68% の従業員が、過去12ヶ月でTAGIEの改善を実感しました。
重点分野	コラボレーションの強化 ウェルビーイングの促進 マネージャーのエンパワーメント



私は、ルネサスが「透明性 (Transparent)」「俊敏性 (Agile)」「グローバル志向 (Global)」「革新性 (Innovative)」「起業家精神 (Entrepreneurial)」を備えたカルチャーを持つ組織であるべきだと考えています。これら5つの要素は、ルネサスのミッションや戦略によって示される「何を成し遂げるか」に対し、「どのように成し遂げるか」の道しるべとなるものです。”

代表執行役社長 兼 CEO

柴田 英利

- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)
- データ集



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ルネサス・カルチャー (続き)

グローバル・コラボレーション・プロジェクト

チームのグローバル展開が進む中、地域や部門を超えた**コラボレーション**の必要性はこれまで以上に高まっています。地域をまたぐチーム統合や、特にエンジニア間の連携の強化で確実に成果を得るには、リーダーシップの長期的なコミットメントが求められます。

2023年のカルチャーサーベイで寄せられた従業員の声に応える形で、ルネサスは**グローバル・コラボレーション・プロジェクト** (GC Pj) を発足しました。本プロジェクトは、Co-CTOである吉岡 真一と Balaji Kanigicherlaの主導により、エンジニア間の部門横断的な連携を促進し、アイデアやベストプラクティス共有の推進を目的としています。

2023～2024年のグローバル・コラボレーションによる成果と進捗の一部を以下にご紹介します。

1. グローバルな課題の特定と対応

ルネサスは、グローバルに働く従業員が直面する課題を把握するために大規模な調査を実施し、150を超える主要な課題を特定しました。これらの課題に対応するために、10のタスクフォースを立ち上げ、その解決策を社内全体で共有できるウェブベースのリソースサイトに集約しました。代表的な取り組みは次の通りです。

- 設計資産の再利用性を高めるためのIP検索システム
- 旧来の企業が蓄積してきた専門的なトレーニング資料の共有サイト
- 従業員向けのベストプラクティス共有サイト

2. 専門人材間のつながりの強化

エンジニアのグローバルな連携を深めるため、社内での情報共有の障壁を下げ、2023年には企業内SNSの全社導入を開始しました。この取り組みにより、70を超える技術カテゴリが立ち上がり、エンジニアのニーズに応じたコミュニティ管理が可能になりました。人気のあるコミュニティとしては、人工知能 (AI) およびPCB設計のコミュニティが挙げられます。

3. 社内インフルエンサーの活用

情報を実務に活かすことの難しさを認識し、当社は600名を超える従業員を「社内インフルエンサー」として特定し、知識共有のハブとして活躍してもらっています。彼らの役割を支援するため、Microsoft Copilotのライセンス展開において優先的に対象とし、AIの活用によって人材や社内リソースを検索しやすくしています。

4. 知識交換プラットフォームの運営

当社では定期的に技術シンポジウムを開催し、社内で知識を共有する場を提供しています。さらに、外部の技術専門家を招いて、イノベーションを促進するために不可欠なグローバル・コラボレーションに関する知見を共有してもらい、当社の取り組みの効果向上を図っています。

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン

ルネサスでは、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) を非常に重要な取り組みとして位置付けています。社員一人ひとりの多様なバックグラウンド、スキル、経験を尊重し、イノベーションを生み出し新たなアイデアを後押しする、インクルーシブな文化の醸成に努めています。私たちは、全ての社員が成長・活躍できるよう、公平で公正な戦略と実践の実現に取り組んでいます。今後も、会社全体のあらゆるレベルにおける多様性の向上に努め、これらの取り組みを支援してくれる外部パートナーとの関係も大切にしていきたいです。以下のいくつかの具体例をご覧ください。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリソース
(Business Responsibility)



データ集



Global Semiconductor Allianceの Women's Leadership Initiative

2024年のアライ・スポンサーとして、半導体業界における女性の活躍と成長を推進しています。



Inspiring Girls International

女子学生がSTEM (Science: 科学、Technology: 技術、Engineering: 工学、Mathematics: 数学) 分野の学習に力を入れ、工学分野でのキャリアを志すことを想定してワークショップやメンタリングを実施し、可能性を広げる後押しをしています。



High-Tech High Heels

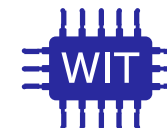
工学への興味を引き認識を高めることを目的に、地域の学校に対して技術実験キット、チュートリアル動画の提供や、学習活動の企画を行っています。



UK Electronics
Skills Foundation

UK Electronics Skills Foundation

エレクトロニクス関連分野を専攻する大学生に対して、有給インターンシップの機会を提供しています。



従業員リソースグループおよびダイバーシティ推進グループ

すべての従業員にとってインクルーシブな職場環境の維持に貢献するとともに、多様な文化や人材の多様性を推進し、啓蒙するために、従業員主導で世界中に展開されているコミュニティです。

ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン(続き)
女性従業員の比率(2024年)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



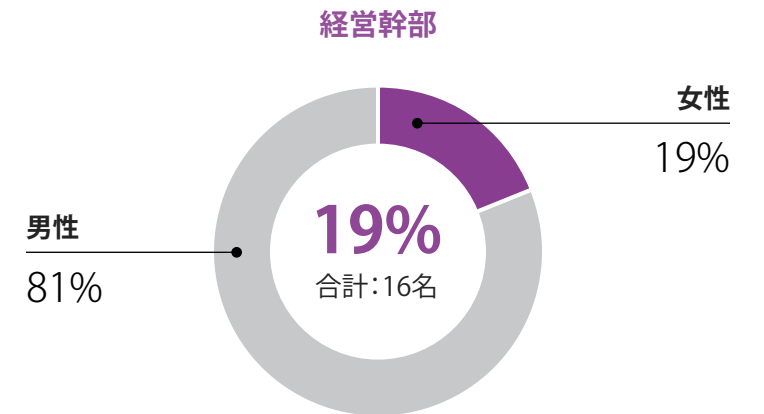
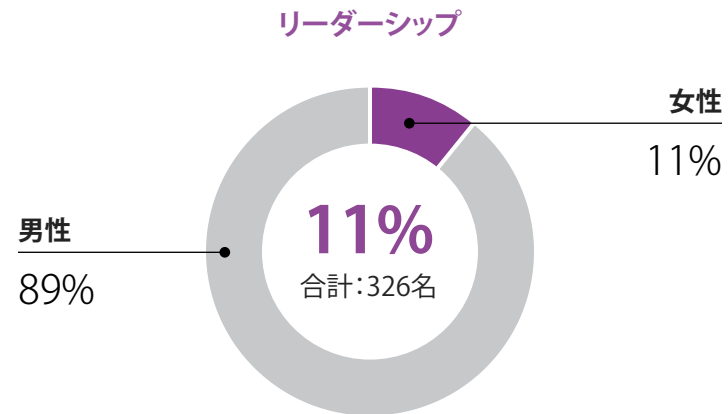
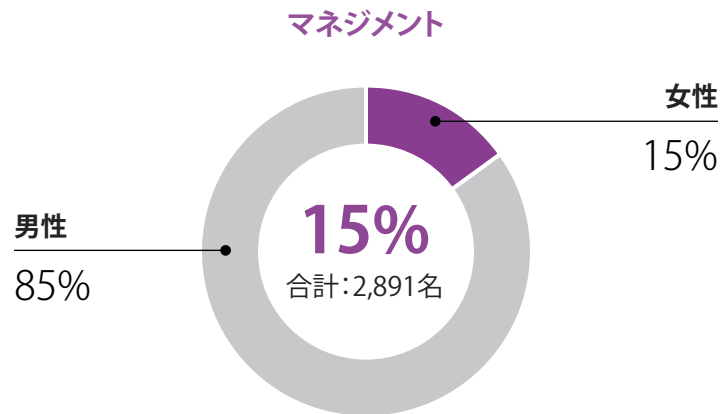
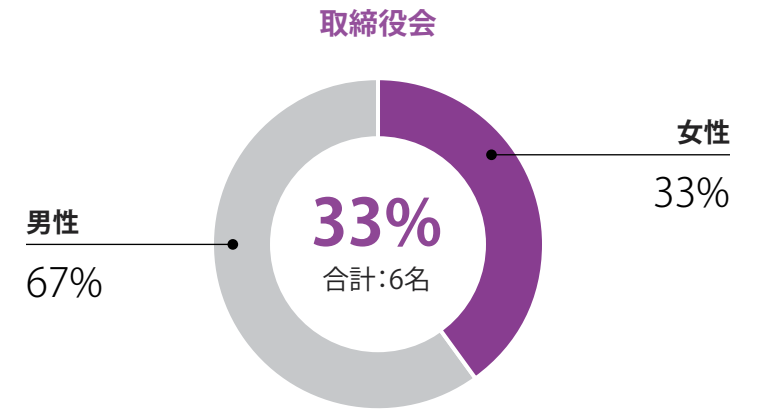
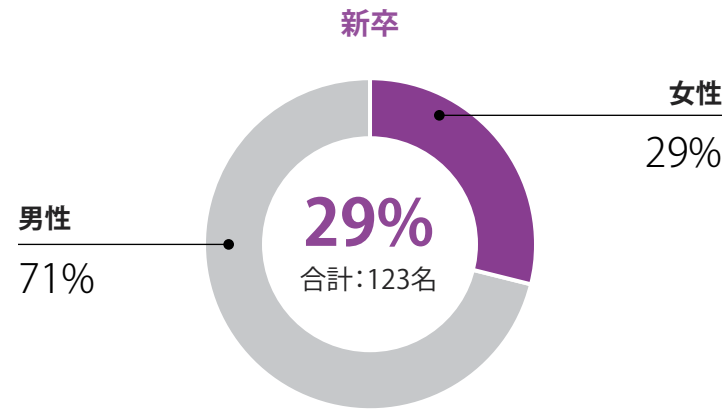
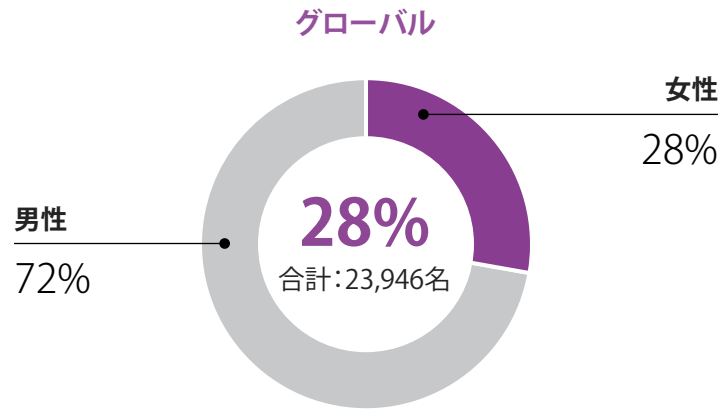
ガバナンス
(Governance)



ビジネスリ spons びリティ
(Business Responsibility)



データ集



2024年度の主な取り組み

従業員主導のコミュニティ

ルネサスの従業員リソースグループ(ERG)および各地のダイバーシティ推進グループ(DPG)は、コミュニティの形成、文化活動やイベントの推進、そして多様性のある公平でインクルーシブな職場環境の実現につながるDE&I活動の推進において、重要な役割を果たしています。

ERGおよびDPGは、教育やネットワーキングの機会となるイベントや、記念日を祝い称えるための社会的なイベントを開催しています。さらに、従業員主導のグループは、有意義な地域活動を支援することで、地域社会における企業の社会的責任(CSR)への取り組みを社内全体で示しています。



国際女性エンジニアデー (INWED)

6月に11回目を迎えた「国際女性エンジニアデー (INWED)」によせてさまざまな社内イベントを開催し、エンジニアリング分野における女性の功績、そして次世代への貢献とインスピレーションを称えました。女性従業員主導のディスカッションフォーラムや、ルネサスのコネクティビティ事業部のVice PresidentであるChandana Pairlaと、Wolfspeed社のCTO、Elif Balkas氏をゲストに迎えたオンライン対談(バーチャル・トークセッション)を通じて、従業員とのエンゲージメントを深めました。



国際女性デー

3月には、ルネサスの女性社員とその支援者をつなぎ、称えるために、グローバルおよび地域レベルでさまざまな活動を実施しました。また、複数のシニアリーダーがパネルディスカッションに参加し、インクルーシブな職場環境をどのように築き、育てていくかについて、自らの経験と見解を共有しました。

High-Tech High Heels

Women in Technology (WIT) ERGは、エレクトロニクス分野について紹介し、学生に関心を持ってもらうため、女性エンジニアも参加して多言語によるチュートリアル動画の制作や実験キットの提供を行うなど、共同プロジェクトを主導しました。2024年には、WIT ERGのメンバーの一人が、High-Tech High Heelsの理事に任命されました。



ダイバーシティ推進月間

10月の1カ月間、世界各地の社員とともに、ダイバーシティ啓発月間を祝うための複数のイベントを開催しました。2024年のテーマ「アライとしての自分の役割を知る」を軸に、職場におけるアライシップに関する中立的なパネルディスカッション、Women in Technology ERGによる全社員向けの討論会、全社員対象のアンコンシャスバイアス研修、マネージャー向けのインクルーシブ・リーダーシップ研修を実施しました。各地域の社員からは、ダイバーシティやアライシップについての考えや提案を述べたビデオメッセージが寄せられました。

2024年度の主な取り組み

Inspiring Girls International

STEM分野の女性ロールモデルと女子生徒との橋渡しをミッションとする国際NPO、Inspiring Girls Internationalと連携し、英国、イタリア、ドイツでワークショップや学校訪問、ワーキンググループを実施。女子生徒にエンジニアリング分野や将来のキャリアパスを紹介しました。

IEEE WINTECHON 2024で 未来のテックリーダー育成を支援

ルネサス インドは、技術分野における女性の活躍推進を目的とした2日間の技術イベント「IEEE WINTECHON」において、将来有望な女性エンジニア25名をスポンサーとして支援しました。このエンジニアたちはPES大学、RVCE、IISc、IIITバンガロール、GSSSマイソールの優秀な学生で、業界の知見を深め、リーダーたちとのつながりを作り、技術についてより深い理解を得るために参加していました。

ルネサスのVice President 兼 UXヘッドであるBuvna Ayyagariは、「More Than Moore時代におけるAI」というテーマで基調講演を行い、半導体産業におけるAI、機械学習、生成AI、デジタルツインの役割について語り、聴衆を魅了しました。講演内容は実践的かつ刺激的で、参加者の学びへの意欲を大いに高めました。

スポンサー支援を受けた学生たちは、実機体験やデモへの参加、洞察に富んだディスカッションに積極的に取り組みました。イベント後には、インドのCountry Head兼アナログ&コネクティビティ エンジニアリング担当シニアダイレクターであるMalini Narayanamoorthiとの交流の機会がありました。Maliniは自身のキャリアの歩みを語り、学生たちに対して、勇気を持つこと、質問を恐れないこと、そして挑戦を受け入れることの大切さを力強く伝えました。



プライド月間

6月のプライド月間にあたり、ルネサスでは「なぜインクルージョンがルネサスで重要なのか」についての理解を深めるため、外部の専門家やコーチを招いてトークセッションを開催しました。また、世界中のLGBTQ+コミュニティとその支援者向けに、オンラインネットワーキングイベントも開催しました。

DE&I研修

2024年、すべての従業員を対象に「アンコンシャスバイアス」についての研修を企画・実施しました。この研修は、意識を高め、ルネサス自身がより一層の包摂性の実践に取り組むことを目的としています。また、People Decoders社と連携し、マネージャー向けに「インクルーシブ・リーダーシップ」研修を企画・実施しました。この研修では、より包摂的な職場環境をつくり、高いパフォーマンスを発揮できるようにチームをマネジメントするための実践的な知見を提供しました。

UK Electronics Skills Foundation (UKESF)

UKESFとのパートナーシップのもと、工学系の学位取得を目指す女性大学生11名を有給インターンとして受け入れました。この人数は過去最多となります。また、エレクトロニクス分野の学士課程を開始する最終学年の女子学生を支援する「Renesas Award for Female Students」制度の一環として、6名の学生に対し、2025年に再びインターンとして戻り、ルネサスでさらなる実務経験を積むことのできる機会を提供できました。

2024年度の主な取り組み

Women's Leadership Initiative (WLI)

2024年のアライ・スポンサーとして、ルネサスはWLIの複数の取り組みに参画し、半導体業界における女性の活躍支援に貢献しました。主な活動例は以下の通りです。

- 米国、日本、インドのルネサスの女性リーダー・社員4名を紹介する、共同ソーシャルメディアキャンペーンを実施。
- WLIの四半期ニュースレターに4本の記事を寄稿。
- 米国のチームメンバー2名が「Women in Hardwareメンタープログラム」を修了。
- 米国、ドイツ、台湾における「Lunch & Learn(ランチ&学び)」セッションへの登壇および参加。
- テキサス大学オースティン校で開催されたイベント「Design the Solution: Navigate Your Way to a Career in Semiconductors」のパネルディスカッションに参加。
- シリコンバレーで年次開催された「Women in Semiconductor Hardwareカンファレンス」に出席。



HerKeyとのパートナーシップ

ルネサス インドは、女性向けの大手採用プラットフォームであるHerKeyと提携し、リターンシップ支援を強化しました。この提携により、さまざまなキャリア段階やライフステージにある女性応募者に向けて、ルネサス インドの各種オープンポジションへの応募を促すことができるようになりました。

男女賃金格差情報の開示(ジェンダー・ペイ・ギャップ)

ルネサスは、すべての従業員がその業務内容に見合った公平な報酬を得られるよう尽力しています。世界各地において、賃金およびボーナスの性別による差に影響している可能性のある要因を検証したところ、観察された賃金差については、事業全体のさまざまなレベルで女性の比率が低いことが要因となっていました。半導体業界のエンジニア職における低い女性比率は、電子工学分野に女性の代表者が少ないというより広いレベルでの構造的課題であり、エンジニア職を抱える他社と同様にルネサスも影響を受けています。

多様な人材の成長を促進し、それぞれが可能性を最大限に発揮できるよう、インクルーシブな採用活動を通じて女性の採用を引き続き拡大していきます。これらの取り組みによって、社内における女性の比率を向上させ、男女間の賃金格差の縮小を図ることを目指します。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

人材育成

ルネサスでは、当社が有する最大の資産である「人材」に対して継続的に投資を行っています。競争の激しいこの業界において、当社は世界中の優秀な人材を見出し、採用後の定着・育成を支える支援プログラムや職場環境の整備に取り組んでいます。社員がどのようなキャリア段階にいても、あるいはどの拠点にいても、専門的な成長機会へのアクセスと働きがいのある環境を確実に得られるようにしています。2024年度に導入された福利厚生と取り組みは、従業員が潜在能力を発揮し、健全なワークライフバランスを保つために必要なサポートを提供するものです。

人材獲得

採用イベントから戦略的パートナーシップまで多様なチャネルを活用し、世界中の大学生や経験豊富なプロ人材と接点を持っています。社員がルネサスでキャリアをスタートし、発展させていく過程において、私たちは一つのグローバルチームとして半導体業界の未来を共に形成しています。2024年の実績は次の通りです。

- 全世界で約400名のインターン、約500名の新卒者、および1,700名以上の経験豊富なプロフェッショナルを採用。
- 新たなグローバル採用管理システム (Smart Recruiters) と新キャリアサイトを展開し、候補者、採用マネージャー、採用担当者のエクスペリエンスを向上。
- 2025年の採用活動に向けて、新しい採用代行 (RPO) パートナーと連携。
- 採用マーケティングの効果 (ROI) を最大化するためのワークストリームを構築し、ターゲット国における初期キャリア層および大学との連携強化に注力。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

人材育成(続き)

スポットライト:インドにおける次世代エンジニアの採用と育成

事業拡大と人材パイプラインの構築において、インドは引き続きルネサスにとって最重要市場です。2024年は、採用マーケティングや戦略的パートナーシップを通じて、新たな人材と女性エンジニアの獲得に向けた取り組みを大幅に強化しました。

現在ルネサスの一員であるAltiumは、次世代のエレクトロニクスエンジニアの育成と、電子設計ツールへの公平なアクセスの提供によって、イノベーターのコミュニティを形成し、育むことを目指しています。インドでは、Altium EducationおよびAltium Trainingによる独自プログラムを通じて、大学生および教員との接点拡大に成功しました。

ルネサスの実績

- インドにおける採用専用ランディングページと従業員の体験談を動画で紹介するSNSキャンペーンを開始し、当社ブランドのインドでの認知度向上と応募者の増加を実現しました。
- 2024年6月、インド工科大学ハイデラバード校と、VLSI (Very Large-Scale Integrated Circuits) および組み込み半導体システム分野における3年間の産学連携に関する基本合意書を締結しました(詳細はこちら)。

この連携の一環として、2024年11月には、エンジニアリングを学ぶ学生がルネサス製ボードを使用して製品を設計する最初の共同講義モジュールを修了しました。

- インド国内で復職を支援する女性向け大手採用プラットフォーム「HerKey」と提携し、さまざまなキャリア・ライフステージにある女性にリーチしてルネサスの様々な募集職種への応募を促しました。
- 技術分野における女性の活躍推進を目的とした2日間の技術イベント「IEEE WINTECHON」において、将来有望なエンジニア女子学生25名をスポンサーとして支援しました。支援を受けた学生たちは、実機体験やデモへの参加、洞察に富んだディスカッションに積極的に取り組みました。ルネサスのVice President 兼 UXヘッドであるBuvna Ayyagariは、「More Than Moore時代におけるAI」というテーマで基調講演を行い、半導体産業におけるAI、機械学習、生成AI、デジタルツインの役割について話しました。
- グローバルな協働を促進するため、現地チームを対象に異文化理解に関するパイロットセッションを実施しました。

Altium EducationおよびAltium Trainingの実績

- これまでにインド全土で100の大学およびカレッジ、1万人の学生を対象として取り組んできました。
- チャンディーガル大学やGSSS Institute of Engineering for Womenを含む5つの学校と連携し、Altium Centers of Excellenceを設立するとともに、教員向けにトレーニングを提供し、Altium Designerや365をカリキュラムに統合しました。
- インドでのリーチと認知促進を最大化するため、主要企業と連携しました。
 - AWS Skills to Tech Alliance, India
 - 共同マーケティング活動を展開し、AWS Cloud Essentialsのコンテンツを取り入れました。
 - Mouser Electronics (詳細はこちら)
 - Mouserの教育リソースとAltiumの設計ソフトウェアを組み合わせ、教育者および学生の支援を強化しました。
 - Chips to Startup
 - 電子情報技術省 (Ministry of Electronics) のプログラムを通じて、教育機関にEDAツールへのアクセスを提供しています。
 - 200の大学およびカレッジと連携しました。

人材育成 (続き)

従業員のエンゲージメントと確保

すべての従業員が成果を上げるために必要な環境を得られるようにするべく、福利厚生や制度の改善を継続し、プロフェッショナルとして成長できる機会の最適化に努めています。

■社内モビリティプログラムを通じ、140名の従業員が新たな役職や勤務地へと異動しました。

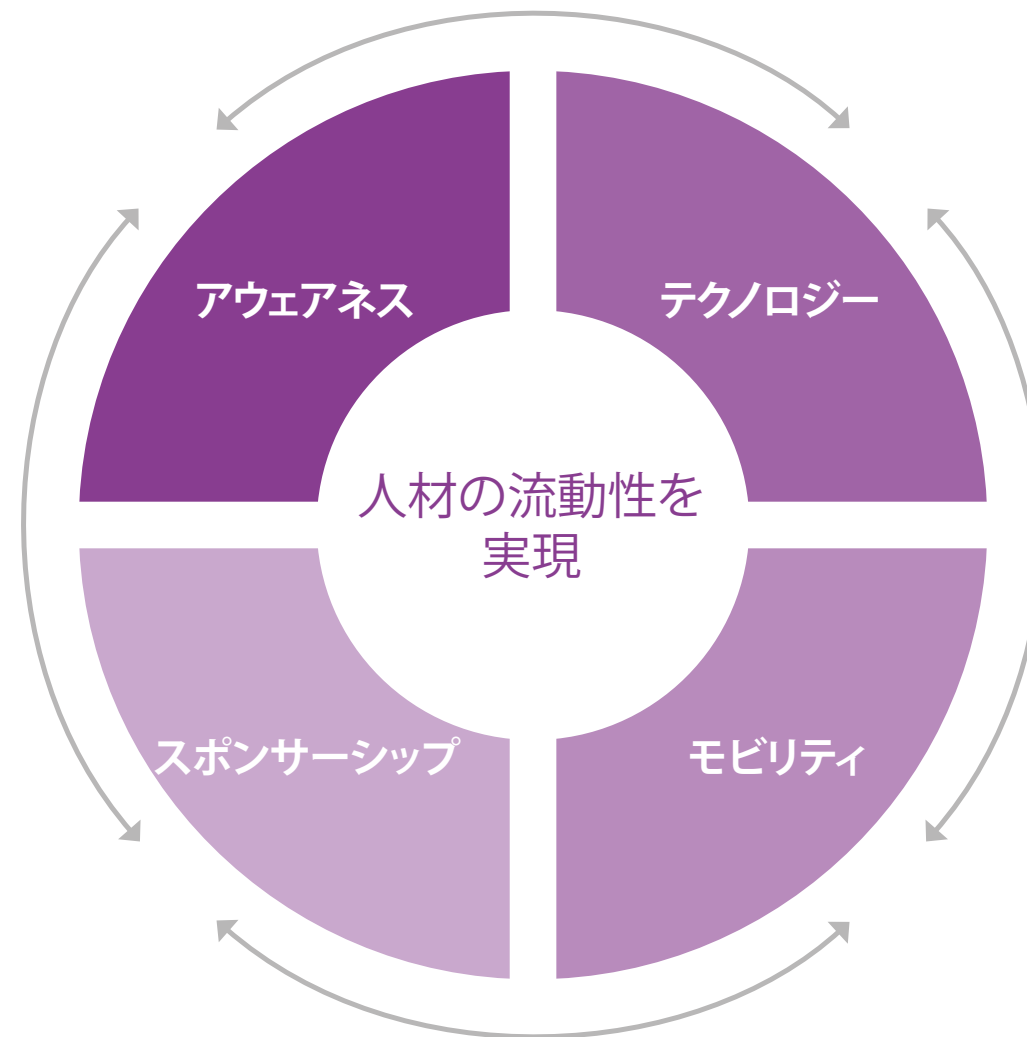
■海外リモートワーク制度の申請プロセスを効率化する新プラットフォームを導入し、2024年には560件以上の申請がありました。この制度により、社員は最長30日間、他国からの勤務が可能です。

ルネサスでは、あらゆるレベルのマネージャーと協力してチームをさまざまな方法でサポートし、従業員に専門的な昇進の機会を提供しています。次のような例があります。

■社内モビリティの機会拡大。

■従業員がルネサスで機会を見出すのに役立つキャリアオプションの提供。

■世界中の拠点間の異動を可能にするグローバルモビリティ。



人材育成(続き)

福利厚生および報酬

世界各地の社員に対し競争力のある報酬と福利厚生を提供し、将来の人材確保に向けて定期的に制度内容を見直しています。

2024年の取り組み事例

- ドイツの年金制度、オーストリアの制度、マレーシアの短期業績報奨金(STI)、TransphormおよびAltiumの買収後計画などを含む報酬・福利制度を調和させる取り組みを継続し、現地社員に公平で一貫したアクセスを提供しました。
- 従業員の評価基準の透明性とマネージャー向けサポートを改善し、年末のパフォーマンス評価および報酬に関する話し合いをより包括的かつ効果的に実施できるようにしました。
- 長期インセンティブに対する年間付与ガイドラインを標準化しました。
- 3年目となる「Renesas Day」を開催し、全社員に特別休暇を付与したほか、8月に「Focus Fridays」として会議のない金曜日を導入。フォト&ビデオコンテストには世界中の社員から650作品の応募がありました。
- 日本では法定の年次ストレスチェックを実施しました。
- 欧州および米国の給与透明性に関する各種要件への対応準備に着手しました。

学習とキャリア成長の機会

全従業員を対象として、キャリアのあらゆる段階で成功できるよう学習機会を提供する取り組みを引き続き進めています。2024年度の取り組みについては、一例を以下にご紹介します。

- 中央集約型の人材開発ウェブサイトを通じて、学習パスおよび推奨コンテンツを提供。
- LinkedIn Learningのライセンスを従業員の93%が使用(当初の目標はプログラム参加率80%)。
- Vice President以上のリーダーを対象に360度評価を実施し、能力開発のニーズを特定。
- MindTools(個人および職務上の能力開発に関する実用的なインサイトを提供するように設計されたオンデマンドプラットフォーム)をアクティブユーザーの98%が使用し、当初目標の80%を大幅に上回る。
- TAGIE Foundation(Transparent、Agile、Global、Innovative、Entrepreneurial)に関するe-Learningコースを日英両言語で提供。
- 新たなラーニングマネジメントシステム(LMS)を選定し、2025年の導入を予定。





目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ルネサスは、全従業員および契約社員が安全で健康に業務に従事できる職場づくりに注力しています。年間グローバル目標である「休業労働災害ゼロ」の達成に向けて、社内のシステムとプロセス、予防措置、従業員教育の強化を継続しています。

労働安全衛生マネジメントシステム

労働安全衛生(OH&S)マネジメントシステムに関する国際規格への準拠は、当社の事業および従業員の安全にとって不可欠です。2024年には、生産拠点2カ所(中国、マレーシア)および非生産拠点3カ所(日本、ベトナム、アメリカ)を含む5拠点で、新たにISO45001認証を取得しました。また、主要な全生産拠点においては、既存のISO45001認証を維持し、昨年のサーベイランス審査にも合格しています。



過去2年半にわたり、ルネサスは日本、中国、ベトナム、米国、マレーシアの生産拠点でISO 45001認証の取得に取り組んできました。この取り組みによって従業員の健康・安全に対する意識が高まり、労働災害の件数が減少するとともに、従業員の健康促進が強化されました。担当チームメンバーは世界中で連携し、事例の詳細や対策の積極的な共有、ルールの標準化、生産拠点への共通のリスク評価システム導入を通じて、労働災害および産業事故の予防に取り組んでいます。”

総務担当 Vice President

Johannes Baubin

ISO45001認証取得済み拠点

地域	認証取得拠点
日本	8
マレーシア	5
中国	2
米国	1
ベトナム	1

その他の認証取得拠点を含むリストは[こちら](#)

那珂工場では、RBA (Responsible Business Alliance) の検証済み評価プログラム (VAP) において、最高位のプラチナ・ステータスを取得しました。VAPは、労働、安全衛生、環境、倫理、マネジメントシステムといった複数の重要分野を対象としています。

安全衛生 (続き)

2024年は、老朽化した設備・機器の更新・修繕にも注力しました。安全対策の強化を目的として、世界各地のルネサス拠点において積極的な取り組みを展開しました。以下はその一例です。



パームベイ (米国)

3棟ある建物の屋上ハッチ開口部に3つのガードレールを設置し、この開口部から下の階の登り口部分まで12フィート(約3.6メートル)以上落下するリスクを低減しました。これにより、屋上に立ち入る必要のあるルネサスの施設管理チームや外部業者、取引先の安全が確保されました。



北京 (中国)

夜間の屋外階段における転落リスクを軽減するため、各段に高視認性の蛍光サインを設置して暗いときでも足元を認識しやすくし、安全に歩行できるようにしました。加えて、これらのサインは常に良好な状態を保てるよう定期的にメンテナンスを行っています。



日本国内の全拠点

(本社を除く)

日本における労働災害の主な原因のひとつは、階段からの転落です。そのリスクを軽減するため、階段に番号付きのステッカー(3>2>1>0)を貼付し、手すりには注意喚起のサインを設置しました。

安全衛生 (続き)

安全衛生教育活動

当社では、世界各地の従業員に向けて、健康と安全に重点を置いたさまざまなイベントやプログラムを実施しています。



高崎・武蔵 (日本)

従業員の健康管理、疲労回復、病気予防を支援するため、マッサージ施設を設置しました。当社が雇用するヘルスキーパーは、国家資格を有するマッサージ師および指圧師です。ヘルスキーパーは、疲労緩和をはじめとして、労働によって従業員に生じるさまざまな症状を軽減するための理学療法やセルフケア指導、健康に関するアドバイスを提供しており、業務効率の向上と従業員の健康促進に貢献しています。



北京 (中国)

現地チームは、従業員の健康管理に対する意識向上を目的として「ウォーク・フォー・ヘルス」チャレンジを実施しました。1か月間のキャンペーン期間中、従業員の55%が30日間連続で1日1万歩以上を達成しました。この取り組みを通じ、従業員は挑戦への意欲と継続力を示すとともに、実践的な行動を通じて自身の健康を向上させました。



ペナン (マレーシア)

ペナンのチームは、メンタルヘルスプログラムや健康診断を含むさまざまな健康イベントを企画しました。一例として、「ストレスマネジメント・キャンペーン」は、従業員が自身のストレスレベルを管理し、健康状態を把握できるよう設計されたものです。そのほか、「音楽とイメージのグループワークショップ」、「メンタルヘルス・ジム (リラクゼーション技法の指導)」、「職場におけるストレス管理」をテーマにした講演会なども実施しました。また、職場での安全意識の向上と労働災害のリスク低減を目的に、「安全なバイク運転講習」「請負業者向け安全教育」「緊急避難訓練」などの安全プログラムも行いました。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

安全衛生 (続き)

緊急事態への備え

平時からの備えとして、緊急時対応手順を整備し、避難訓練や、事業継続計画 (BCP) の定期的な机上訓練を実施しています。

健全なワークライフバランス

労働時間は適切に管理して、各国の法令で定められた制限を遵守するようにしなければなりません。日本のルネサスの場合、2024年度の標準的な所定労働時間は1日7時間45分、年間休日は132日でした。その結果、労働組合員一人当たりの月平均時間外労働時間は20.4時間、年次有給休暇の平均取得日数は18.5日となりました。

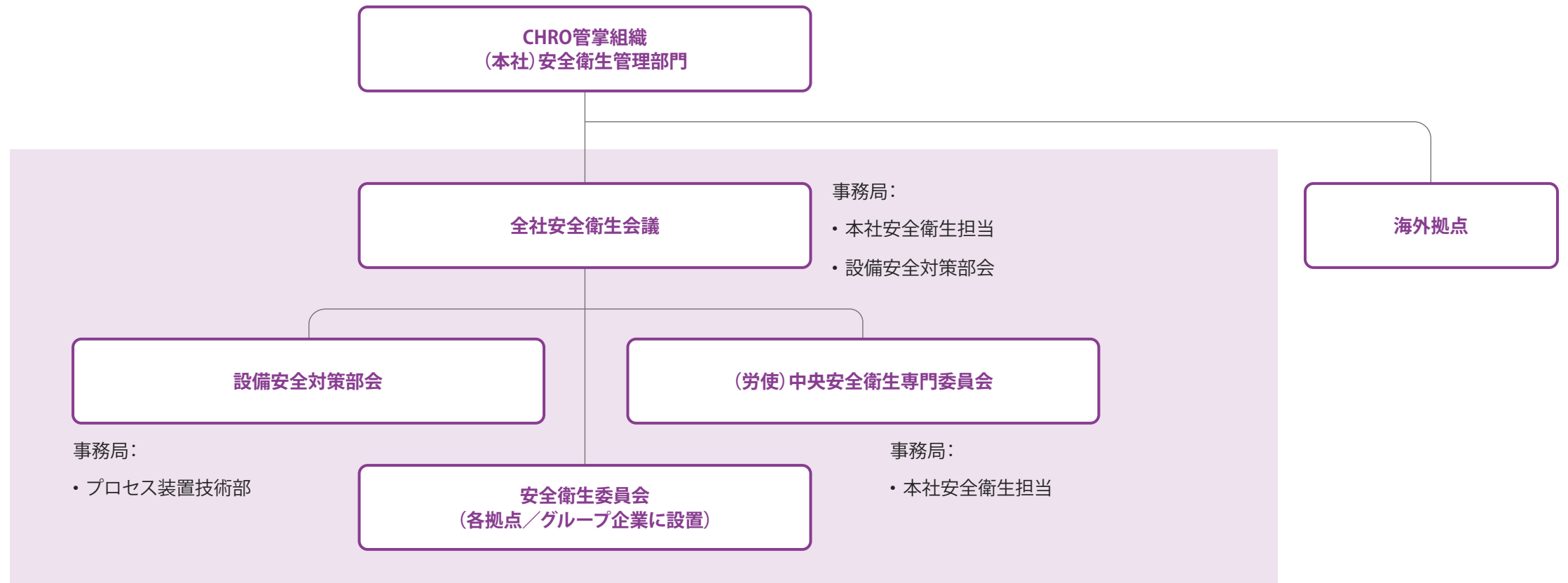


安全衛生 (続き)

安全は引き続き最優先事項

従業員の安全衛生は、私たちの最優先事項です。日本を拠点とする安全衛生管理チームは、グローバルな人事総務部門内で、最高人事責任者 (Chief Human Resources Officer) の直接の監督下で活動しています。その主な責任は、労働安全衛生における取り組みの監督にあります。国内の各拠点・グループ会社においても、安全衛生管理体制を定め、安全衛生責任者を設置しています。

日本における安全衛生管理体制



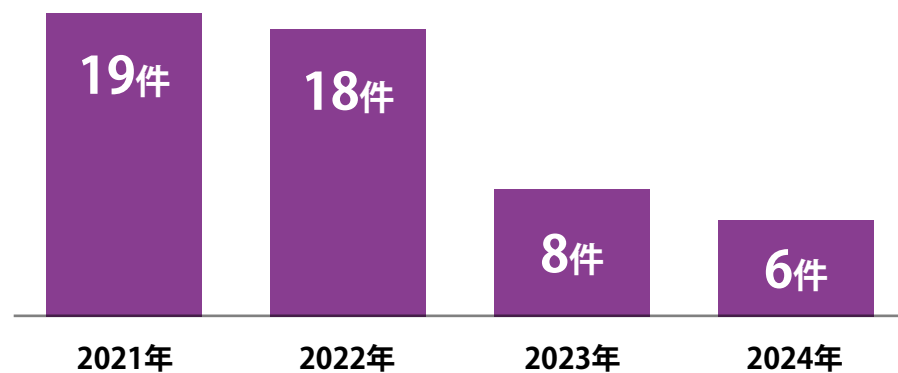
- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスポンシビリティ (Business Responsibility)
- データ集

安全衛生 (続き)

労働災害の発生状況

ルネサスはグローバルで休業労働災害の発生状況を把握し、情報共有等を行うことで災害発生の予防に取り組んでいます。2024年度の同災害の発生件数は6件で、2023年度よりも2件減少しました。ルネサスは、世界各地の生産拠点におけるリスク評価ルールを標準化することで、職場での労働災害事故防止に取り組んでいます。

年間労働災害発生件数



ガバナンス (Governance)

- 92 リーダーの視点:ルネサスにおけるサステナビリティのガバナンス強化
- 94 ガバナンス体制
- 96 各取締役のスキルと多様性
- 98 コンプライアンス・企業倫理
- 101 リスクマネジメント
- 104 情報セキュリティマネジメント
- 106 タックス・ポリシー



リーダーの視点:ルネサスにおけるサステナビリティのガバナンス強化

独立社外取締役へのインタビュー

Q:ガバナンスの観点から、直近の進捗状況や2024年度の成果について教えてください。

山本:2024年は、ルネサスにおけるサステナビリティの取り組みを加速させる上で重要な年となりました。特に顕著な成果の一つは、2025年1月にサステナビリティ部門(SU)の設立を決定し、組織全体のサステナビリティ施策を統括する体制を整えたことです。例えば、従来はオペレーション部門の下で活動していた環境チームを、SUに統合しました。この統合により、全社的なサステナビリティ戦略の一環として、環境施策をより効率的に管理できるようになりました。この組織改編は、効率性、アカウンタビリティ、そして長期的なサステナビリティ目標との整合性を強化するものです。

SUは、2030年のサステナビリティコミットメントおよび2040年の目標達成に向けた進捗をリードし、法令遵守およびステークホルダーとのエンゲージメントを確かなものにします。取締役会レベルの監督と部門横断的な連携により、このガバナンスモデルはルネサスのサステナビリティリーダーシップへの取り組みをさらに強固なものとしています。

水野:2024年、ルネサスのESGガバナンスは大きな変革を遂げました。当社はサステナビリティを、監査・サステナビリティ委員会の枠組みを通じたリスクと機会管理の構造に統合することを決定しました。この強化されたガバナンスの重要な要素は、SUが主導し、組織全体のサステナビリティ施策の調整を担う**サステナビリティ運営チーム(SOT)**です。この体制のもと、各部門はサステナビリティ目標の進捗をSOTに直接報告し、透明性と企業全体の目標との整合性を確保しています。例えば、環境チームはエネルギー削減の取り組みを主導し、調達チームはサプライヤーのESG評価を推進しています。

説明責任の強化には、「インプリメント・オア・エクスプレイン(実施しない場合は説明する)」アプローチを導入しました。各部門がサステナビリティ目標を達成できなかった場合、SOTに対して包括的な説明を行い、具体的なアクションプランを提示しなければなりません。

SUがSOTを主導することで、サステナビリティ施策はその実行責任を担う部門によって確実に推進されるようになります。また、監査・サステナビリティ委員会がガバナンスを監視することで、長期的な事業戦略との整合や法規制への適合が確保されています。

Q:サステナビリティを担当する取締役員として、急速に進化する業界の期待や規制の中で、ルネサスがどのようにサステナビリティのコミットメントを強化していくとお考えですか。

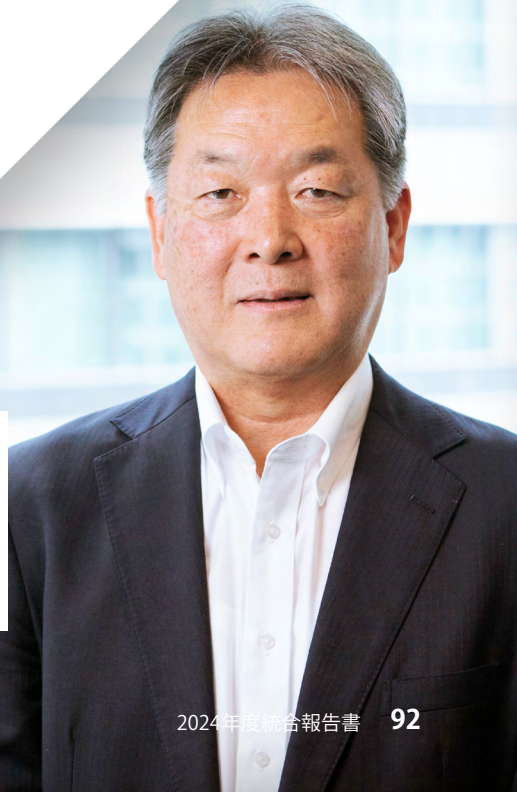
山本:ルネサスでは、急速に変化する規制に対応し、業界の期待に応えるため、サステナビリティ戦略の継続的な改善に取り組んでいます。サステナビリティ部門は、会社全体のビジョンと各部門の目標を一致させる中心的な役割を担っています。この集約型モデルにより、EUの「企業サステナビリティ報告指令(CSRD)」のような新たな規制への迅速な対応が可能となり、長期的な価値創造に貢献しています。

さらに、SU、SOT、取締役会の密接な連携により、当社のサステナビリティ目標は野心的でありながら実現可能なものとなり、全社的な実行力を高めています。

水野:ガバナンスの観点では、サステナビリティをリスク管理の枠組みに組み込むことが重要です。これにより、グローバルなESG規制への遵守が確保されるだけでなく、それらを競争優位の源泉として活用することができます。監査・サステナビリティ委員会は、規制の変化が当社の事業運営に与える影響を評価し、事業の持続可能性を確保するための指針を提供しています。これらの取り組みにより、ルネサスが業界リーダーとしての地位を維持するための強固な基盤が築かれています。

社外取締役、ESGスポンサー、
監査・サステナビリティ委員会メンバー

山本 昇



リーダーの視点：ルネサスにおけるサステナビリティのガバナンス強化（続き）

Q:取締役会として、ルネサスの2030年サステナビリティコミットメントおよび2040年目標の推進にどのような役割を果たしていますか。また、これらの目標を事業全体の目標や株主の利益と必ず整合させるために、どのような対策を行っていますか。

山本:2030年のサステナビリティコミットメントおよび2040年目標を達成するには、サステナビリティ目標を事業戦略の中核に組み込む必要があります。サステナビリティ部門が主導する集約型モデルにより、製品開発からサプライチェーン管理に至るまで、あらゆる分野でESG要素を取り入れた意思決定が可能になっています。これらの目標は、定義されたKPIに基づいて進捗が管理され、透明性が確保されるとともに、株主の利益とも整合しています。

水野:監査・サステナビリティ委員会の役割は、これらの目標を達成可能かつ測定可能なものにする事です。私たちはSOTからの定期報告をモニタリングし、課題が生じた際には助言を行っています。また、これらの目標が短期的な事業目標や株主の利益と整合するよう、リスクと機会の観点から評価を行っています。

Q:今後、ルネサスが直面すると考えられる主なサステナビリティの課題やリスクは何でしょうか。また、取締役会として、それらにどのように備え、長期的な成長とレジリエンスを確保していくお考えでしょうか。

山本:主な課題としては、カーボンニュートラル目標への対応強化、サプライチェーン全体におけるESG遵守の徹底、そして国際規制の急速な変化への適応です。これらの課題に対応するため、SOTを通じて部門横断的な連携を促進し、統一された戦略を策定しています。さらに、2030年および2040年に向けた具体的なアクションプランを策定し、サステナビリティを中心に据えた成長戦略を推進しています。

水野:大きなリスクの一つは、サステナビリティ投資と短期的な利益目標とのバランスを取ることです。この目的に対応するため、監査・サステナビリティ委員会がESG施策による長期的な影響を評価しています。さらに、規制の進展に迅速に対応する仕組みを強化し、単に規制に適合するだけでなく、ルネサスが業界のサステナビリティ基準をリードすることを展望しています。

Q:ルネサスは新たなグローバルなサステナビリティ規制にどのように備え、それらを遵守しながら競争力を確保するためにどのような戦略をとっていますか。

山本:規制遵守を強化するため、定期的にギャップ分析を実施し、ESG戦略をグローバルスタンダードに沿う形で改善しています。2024年には、サステナビリティ規制の順守と将来の統合報告への備えを目的とした短期的な統合アクションプランを策定しました。これらの取り組みは、競争力の強化とステークホルダーからの信頼獲得の基盤となっています。

水野:ガバナンスの観点からは、ESG遵守の取り組みを組織構造に統合することが不可欠です。サステナビリティ部門とSOTの連携を活用することで、コンプライアンスリスクを早期に特定し、低減する仕組みを構築しました。監査・サステナビリティ委員会による定期的なレビューを通じ、規制対応の透明性と効率性を確保しています。このアプローチにより、ルネサスは規制の変化に適応しつつ、イノベーションを促進し、業界のリーダーであり続けています。



ルネサスでは、急速に変化する規制に対応し、業界の期待に応えるため、サステナビリティ戦略の継続的な改善に取り組んでいます。”

社外取締役、
監査・サステナビリティ委員会 委員長

水野 朝子



- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)
- データ集

ガバナンス体制

ルネサスでは、公正・迅速・効果的な意思決定と説明責任を実現する透明性の高いガバナンス体制の維持に取り組んでいます。すべてのステークホルダーの皆さまに対して中長期的な企業価値の向上を図ることを目的に、管理体制の改善や業務効率を高めるための各種施策を継続的に実施していきます。

2024年は、取締役会およびコーポレートガバナンスの強化に重点的に取り組みました。例えば、次のような取り組みを行いました。

- 3委員会設置会社の体制に移行しました。
- 株主総会をバーチャルオンリー株主総会方式で開催し、株主が英語および日本語で、テキスト入力だけでなく音声による質問も行えるようにしました。
- 生成AIツールの利用に関する社内ガイドライン、相談・承認プロセスをアップデートし、AIツールのガバナンスおよびコンプライアンスを強化しました（詳細は [リスクマネジメントのセクション](#)をご参照ください）。

2025年には、サステナビリティに関するガバナンスを大幅に強化しました。監査・サステナビリティ委員会にサステナビリティを統合することで、ESG関連のリスクと機会に対する監督を強化しました。気候変動に関する方針、重要課題、機会、リスクについては、CEO、CEOが任命した執行役員、およびサステナビリティ部門で定期的に議論・検討され、取締役会へ定期的に報告されています。

当社の内部統制システムは日本の会社法の要件を満たしており、役職員の法令および定款の遵守を徹底しています。



目次

ルネサスについて

2024年度の事業トピックス

サステナビリティへの取り組み

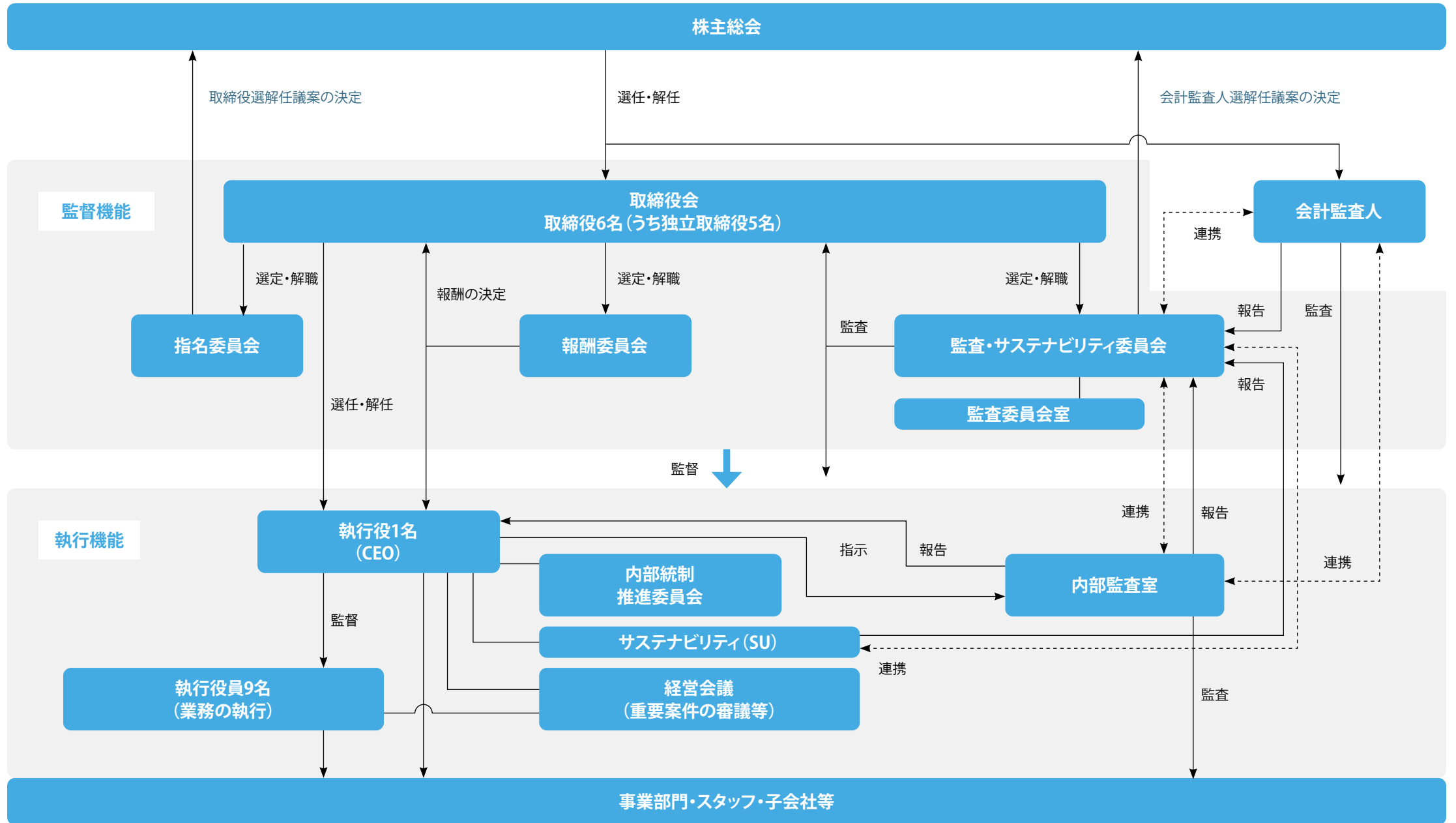
環境
(Environment)

社会
(Social)

ガバナンス
(Governance)

ビジネスリスponsビリティ
(Business Responsibility)

データ集



各取締役のスキルと多様性

当社の取締役会は、日本の会社法に基づき組織されています。2025年4月時点で、取締役会は6名のメンバーで構成されています。取締役6名中5名の社外取締役は、多様な見識と経験を活かしてルネサスの取締役会の実効性を高めています。取締役会の職責は、取締役会が承認したRenesas Board Charterに明記されています。

	 柴田 英利	 岩崎 二郎	 Selena Loh Lacroix	 山本 昇	 平野 拓也	 水野 朝子
経営リーダーシップ	✓	✓		✓	✓	✓
国際ビジネス	✓	✓	✓	✓	✓	✓
半導体／テクノロジー業界	✓		✓			
ソフトウェア／デジタル					✓	
サステナビリティ／ESG			✓	✓		
ファイナンス	✓	✓		✓		
リスク管理／法務		✓	✓	✓		✓
上場企業の取締役経験		✓	✓	✓	✓	

取締役会および各委員会の構成比率

目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)

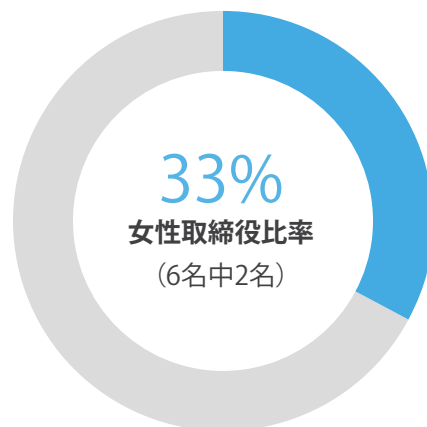
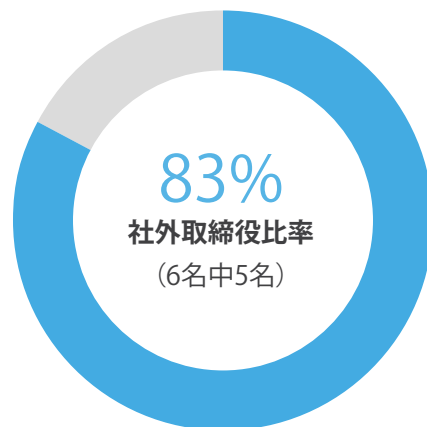


ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)

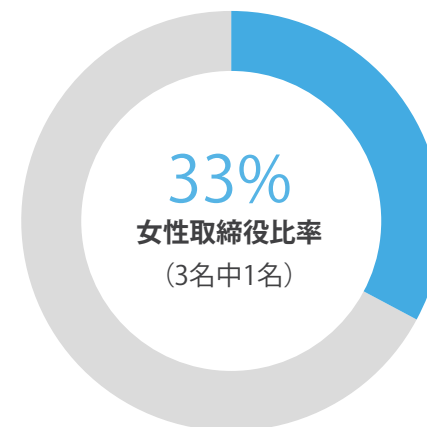


データ集

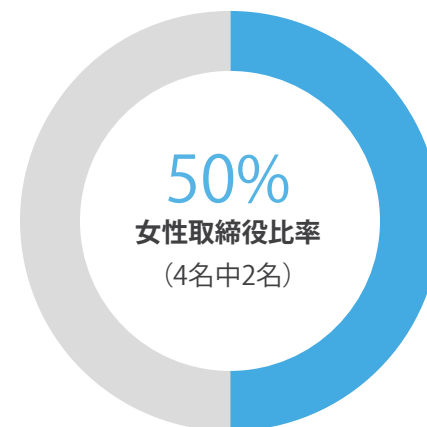
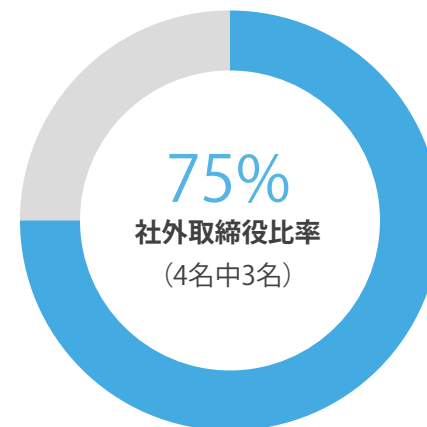
取締役会



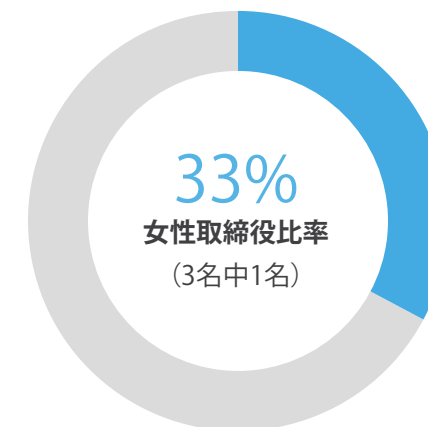
指名委員会



報酬委員会



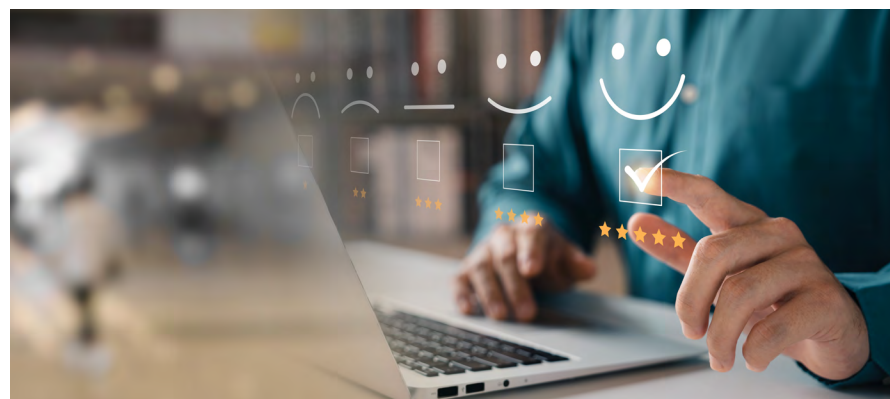
監査・サステナビリティ委員会



コンプライアンス・企業倫理

ルネサスは責任ある企業として、最高水準の倫理と誠実さを自らに課し、投資家、顧客、取引先、地域社会を含む主要なステークホルダーからの信頼を獲得し続けられるよう努めています。ルネサスのグローバル行動規範 (CoC) およびコンプライアンスポリシーは、こうした取り組みに対する当社の全面的なコミットメントを示すものです。2024年の重点項目と成果は以下の通りです。

- グローバル行動規範 (CoC) や倫理・コンプライアンス関連の各種ポリシーを含め、世界的なトレンドや社内ポリシーの変更に合わせたグローバルポリシーの改訂。
- エンティティ管理システムの統合および、買収企業に関連するPMIを含む業務の効率化。
- 社内の問い合わせ対応を自動化するための生成AIツールの開発・導入。



行動規範

行動規範は取締役会によって検討・承認されており、すべての事業活動において、当社の意思決定プロセスに影響を及ぼすべき基準と責任に対する約束を表明しています。従業員がお互いに対する、そして会社に対する倫理的および法的責任を理解できるよう、CoCで取り上げられている問題に関する研修を従業員向けに毎年行っています。

2024年度 行動規範研修 修了率

2024年	93% (2%上昇)
2023年	91%

目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

コンプライアンス・企業倫理 (続き)

コンプライアンスの推進

CEOを委員長とする内部統制推進委員会が当社におけるコンプライアンスに関する事項の審議を行い、重要事項を経営会議および取締役会に報告しています。コンプライアンス違反が発生した場合、速やかに調査・是正を行い、当該分野を担当するコンプライアンス担当部門と法務統括部長に速やかに報告する仕組みとなっています。

2024年は、以下を含む複数の従業員向けグローバル研修を実施しました。

- ダイバーシティおよびハラスメント防止研修
- 独占禁止法研修
- 利益相反 (COI) 研修
- センター・オブ・インフルエンス研修
- 意思決定の透明性と説明責任を高めるための社内事前承認手続「稟議」に関する研修

当社では年間を通じて、Eメールによる行動規範ニュースレターを従業員向けにリリースし、コンプライアンス関連ポリシーの強化に努めています。2024年の主なテーマは以下の通りです。

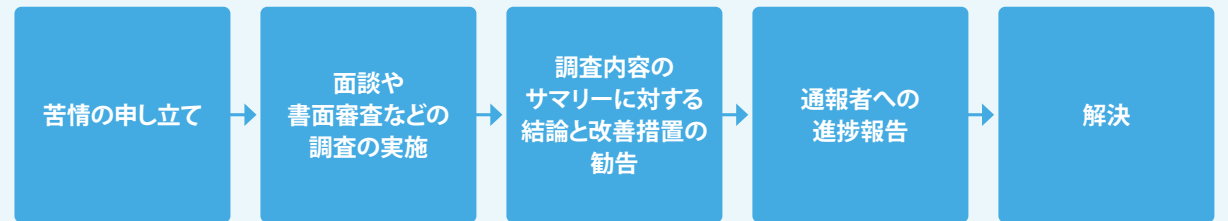
- 「誰もが尊重される職場を育む：ハラスメントの理解と防止」(2024年10月)
- 「独占禁止法の認識：競争の保護」(2024年3月)
- 「職場におけるダイバーシティ、エクイティ、インクルージョンの推進」(2024年2月)
- 「グローバル利益相反ポリシー制定のお知らせ」(2024年12月)

また、日本国内の全従業員を対象に、定期的にニュースレターを発行しています。このニュースレターは、日本の法規制のみならず、各国特有のトピックも取り上げることがあります。

企業倫理と内部通報ホットライン

従業員、顧客、サプライヤー、一般の方々が職場での問題に関する事柄を含むコンプライアンス上の懸念について通報するためのホットラインサービスを設けています。苦情は匿名で通報することができ、オンラインまたは電話で申し立てを行うことができます。善意で懸念を報告した個人に対して報復を行わず、また報復を容認することもありません。2024年度は、ホットラインに34件の通報があり、調査・是正(必要な場合)、および懲戒処分(正当な場合)が行われました。これらの34件の通報のうち、15件がハラスメント、差別、または労働コンプライアンスの申し立てに関連していました。重大なコンプライアンス違反はありませんでした。引き続きホットラインの認知度向上に努めます。

コンプライアンス問題の調査プロセス



コンプライアンス・企業倫理 (続き)

贈収賄防止と腐敗防止

ルネサスが事業を行っている各国の贈収賄防止法、および腐敗防止法を遵守します。ルネサスは、全従業員を対象とした腐敗防止に関する研修を実施しました。2024年に腐敗防止規則を遵守しなかったことによる懲戒処分や解雇はありませんでしたが、ルネサスは今後もこれらの規則を遵守し、世界中の役員を対象とした腐敗防止および贈収賄防止研修をさらに拡大していきます。

2023年に導入された当社のグローバルな贈収賄防止・腐敗防止規則は、当社のグローバル行動規範で強調されている腐敗防止の原則を強化するものです。本規則にて「何が贈収賄や汚職にあたるのか」、「誰が政府関係者に該当するのか」を具体的に定義することで、従業員が規則を理解し、遵守しやすくなることを目指しています。ルネサスの取締役会は、贈収賄防止・腐敗防止規則およびグローバル行動規範に含まれる腐敗防止ポリシーを監督します。

賄賂の申し出、約束、支払いの禁止は、サプライヤー、代理店、請負業者、コンサルタント、販売代理店など、ルネサスに代わってサービスを提供したり行動したりする第三者(新しいビジネスパートナーやサプライヤーを含みますが、これらに限定されません)にも適用されます。この原則は、ルネサスが世界のどこで取引をする場合であっても適用されます。賄賂が「ビジネス慣行」として広く認識されている場合も変わりません。当社の贈収賄防止・腐敗防止規則は、[こちら](#)から閲覧できます。

情報セキュリティポリシー

ルネサスにはプライバシー保護の基盤がありますが、GDPRなどの規制に準拠するため、今後はさらにポリシーや手順を強化する予定です。今後ますます多くの国や地域で導入されると見込まれているため、ルネサスでは、当社およびその子会社の全従業員を対象とした、情報セキュリティ研修を実施しています。詳細については、次のセクション([リスクマネジメント](#))をご参照ください。



リスクマネジメント

リスクマネジメントは、当社の事業継続性の確保と、お客様、サプライヤー、事業を展開する地域社会との信頼構築に不可欠です。ルネサスグループ全体のリスクを定期的に分析することで、あらゆる種類のリスクを特定し、軽減することに努めています。

リスクマネジメント体制

ルネサスグループのリスク・危機管理に関するグローバルルールに基づき、グループ全体で包括的なリスクマネジメント体制を構築しています。各リスクの種類や特性に応じて危機管理担当部門を決め、日常的にリスク管理と危機管理を行うことで、潜在的なリスクに継続的に対応しています。

また、グローバルリスクリストに基づき、リスクを積極的に特定・分類し、それらのリスクを未然に防ぐための対策を策定して対応方針を随時見直しています。さらに、緊急事態においては、CEOを本部長とした緊急対策本部を設置し、迅速に情報を収集して対策を検討し、損失の極小化のための対応に当たります。

リスク管理マネージャー	リスク管理責任者	リスク管理部門	リスク
柴田 英利 (取締役 代表執行役社長 兼 CEO)	CEO	CEO直轄	政治
		コーポレートコミュニケーション	広報
		サステナビリティ	持続可能な開発目標
			自然災害
		法務	従業員の不正行為
			報告制度
			法令違反
			知的財産
			情報漏洩(個人情報を含む機密情報)
		エンジニアリング	システム
調達			



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンスビリティ
(Business Responsibility)



データ集



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

リスク管理マネージャー	リスク管理責任者	リスク管理部門		リスク
柴田 英利 (取締役 代表執行役社長 兼 CEO)	Senior Vice President	オペレーション	生産	法令違反
				環境
				調達
				技術革新
				感染症
				事故
				自然災害
				政治
		サイバーセキュリティ		
		サプライチェーンマネジメント	資産運用管理	
			従業員の不正行為	
	自然災害			
政治				
調達	人権			
	法令違反			
	調達			
	感染症			
品質保証	自然災害			
	政治			
	品質			
CFO	事業開発	ファイナンシャル プランニング & アナリシス	M&A	
			資産運用管理	
			売上高	
			資本支出	



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

リスク管理マネージャー	リスク管理責任者	リスク管理部門	リスク
柴田 英利 (取締役 代表執行役社長 兼 CEO)	CFO	アカウントティング & タックス	税務
			信用
			従業員の不正行為
		法令違反	
		財務、管理およびコスト	資金調達
			資産運用管理
	CHRO	人事・総務	人権
			労務方針
			人事戦略
			感染症
			自然災害
	各製品グループ担当 Senior Vice President	アナログ & コネクティビティ エンベデッドプロセッシング ハイパフォーマンスコンピューティング パワー	法令違反
技術革新			
事業拡大			
情報漏洩			
CSO	販売	従業員の不正行為	
		販売	
		自然災害	
Vice President	インフォメーションシステム	システム	
		自然災害	
		サイバーセキュリティ	

情報セキュリティマネジメント



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

グローバル企業としてサイバーセキュリティを深刻に受け止め、脆弱性を特定し、潜在的な脅威に即座に対応するよう努めています。

事業の継続性を確保するために、潜在的な脅威の監視と報告、従業員向けの研修、最新のサイバーセキュリティ対策基準および認証の維持など、コーポレートガバナンス・ポリシーとプロセスを通じてサイバー攻撃の防止に常に取り組みんでいます。2024年には、以下の主要な取り組みを通じて、情報セキュリティにおけるコアコンピタンスのさらなる強化を図りました。

■ 潜在的な脆弱性への対応力強化と運用の回復力向上を目的とした、**サプライチェーン全体のセキュリティ強化**

■ 同業他社、サプライヤー、政府機関、顧客など**主要ステークホルダーとの連携強化**による、セキュリティ体制の堅牢化とインテリジェンスの高度化

■ 半導体製造業者サイバーセキュリティコンソーシアム (SMCC) への積極的な参画を通じた、**業界課題と解決策に関する最新情報の把握**

当社は、ネットワーク、データ、コンピュータシステムへの不正アクセスの試みに対し、継続的な監視、評価、報告および対応を行うための包括的なセキュリティ管理フレームワークを確立しています。この構造化されたアプローチにより、潜在的なセキュリティ脅威を迅速に特定・対応し、デジタル資産の保護と運用の完全性の維持を実現しています。

ルネサスは、ISO 27001規格に準拠するとともに、情報セキュリティの継続的な改善を目的として、同業他社との定期的な成熟度ベンチマークを実施しています。また、ネットワーク、データ、システムへの不正アクセスの試みに対しては、監視・評価・対応を行うための正式な体制を整備しています。当社の専門ITセキュリティチームは、IT担当Vice Presidentの指導の下、戦術的および戦略的な手段を用いて、24時間体制で潜在的な脅威を監視し、セキュリティ上の問題を事前に検出・解決しています。

インシデントが発生した場合には、ITチームが速やかにセキュリティ評議会 (CEO、CFO、General Counsel、人事およびITの責任者) に報告し、必要に応じて人事、法務、品質保証、調達、経理部門と連携して緊急対応計画を発動します。四半期ごとに作成される報告書は、安全保障理事会、経営幹部、取締役会に提出され、サイバーセキュリティに関するリスクと取り組みについて継続的に情報提供を行っています。

さらに、迅速かつ効果的な対応を確保するために、定期的なインシデント対応演習を実施しており、脅威への対応力と部門間の連携を強化しています。これに加えて、業界標準に準拠した最新のセキュリティポリシーへの更新を通じて、全社的なセキュリティ体制の強化を図っています。また、内部の脆弱性を特定し、リスクを軽減するための実用的な洞察を得ることを目的として、年次の侵入テストも実施しています。

研修

ルネサスでは、サイバーセキュリティに対する意識の向上を重要な優先事項と位置づけ、世界中のすべての従業員および請負業者に対して、フィッシング対策およびセキュリティプロトコルに関する年次必須トレーニングを提供しています。このプログラムには、定期的な模擬フィッシング演習に加え、ITイントラネットページを通じたオンデマンド型の追加トレーニング資料へのアクセスも含まれています。

2024年には、計画された従業員向けサイバーセキュリティトレーニングセッションを実施し、年間トレーニングサイクルを完了しました。その結果、従業員の83%がトレーニングを修了しています。この取り組みは、単にフィッシング対策にとどまらず、サイバーセキュリティに関する最新の脅威や知識を従業員が継続的に習得できるよう設計されています。また、すべての新入社員に対しては、セキュリティおよびコンプライアンスに関する詳細な初期トレーニングを実施しており、加えて毎年のリフレッシュトレーニングも行っています。

当社のサイバーセキュリティチームは、コンプライアンス、法務、人事部門と緊密に連携し、最新のセキュリティ脅威に対応するために必要なツールとプロセスの整備を進めています。ルネサスは、堅牢な情報セキュリティ体制がビジネスの推進力となり、信頼されるサプライヤー、顧客、パートナーとしての地位を確立し、持続的な成長を実現する鍵であると確信しています。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネススポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

認証

ルネサスは、グローバルなセキュリティ基準の遵守に全社を挙げて取り組んでおり、セキュリティ侵害からの保護に向けた体制と能力を継続的に強化しています。2024年には、現在および将来の買収先がMicrosoftのグローバルスタンダードと整合し、すべてのユーザーに一貫したセキュリティ体験を提供できるよう、認証資格の拡充を目指しました。現在取得している主な認証には、以下が含まれます。

- ISO/IEC 27001: グローバルな情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) 規格に基づく認証プロセスの開始と、第1フェーズ (設計管理の有効性検証) の完了
- TISAX (Trusted Information Security Assessment Exchange) : IATF16949およびISO 9001と並行して機能する自動車業界向け情報セキュリティ評価基準の取得 (2023年完了)
- SOC 2 Type 2: Altium 365プラットフォームにおける、指定期間にもわたるセキュリティ統制の有効性と長期的な運用一貫性の評価

AIガバナンス

ジェネレーティブAIは、ルネサスの業務において不可欠な存在となっており、安全かつ責任ある導入と活用を確保するため、AIガバナンスを極めて重要な要素と位置づけています。当社は、AI、セキュリティ、コンプライアンス、法務の各部門から構成される横断的なワーキンググループ「AIツールタスクフォース」を結成し、組織全体でグローバルにジェネレーティブAIツールを活用するための、安全かつコンプライアンスに準拠した環境の整備に取り組んでいます。その一環として、ジェネレーティブAIツールの使用に関するガイドラインを策定・公開しました。さらに2024年には、職場におけるAIチャットボットの使用方法、リスク、制限事項に関する理解を深めることを目的として、従業員向けのオンライントレーニングを実施しました。

データプライバシー

ルネサスは、チーム、クライアント、パートナー、そしてすべてのステークホルダーのプライバシーとセキュリティを保護することに全力で取り組んでいます。当社の情報セキュリティポリシーは、GDPR、APPI、CCPA、BDSGなどの主要なデータプライバシー関連法規制を完全に遵守することを目的としており、それに基づく厳格な管理措置を明確に定めています。これらの取り組みは、業界のベストプラクティスとの整合性を確保しながら、セキュリティ体制の強化を図るために、組織全体で実施されています。さらに、ルネサスはプライバシーコンプライアンスの専門機関であるTrustArcと提携し、毎年、当社のプライバシー慣行に関する包括的な評価を実施しています。この評価では、当社のプライバシーポリシー、手順、運用実態を徹底的に精査し、潜在的なギャップを特定・是正することで、プライバシープログラムの継続的な強化を実現しています。

当社のデータプライバシーフレームワークは、個人データとそのライフサイクル全体にわたって保護するために導入された原則、管理策、およびガバナンスメカニズムを明確に定義しています。2025年も、以下の主要な取り組みを通じて、当社のデータプライバシー機能をさらに進化させました。

- 1) データプライバシーガバナンスの強化
法務部門内にデータプライバシーチームを設立し、社内ステークホルダーとの連携によるリスクの特定と軽減。
- 2) プライバシーフレームワークの強化と規制コンプライアンス
グローバルなデータ保護法の遵守を支援するための、構造化されたフレームワークの実装。プライバシー運用の一貫した基盤の提供と、組織全体における説明責任の明確化、透明性の確保、リスク低減の促進。

3) プライバシー・バイ・デザインとデフォルト

プライバシー・バイ・デザインの原則に基づく、製品開発およびビジネスイニシアティブへの初期段階からのプライバシー配慮の組み込み。必要最小限の個人データのみを収集・保持・処理することを前提とした設計による、データエクスポージャーの削減と責任あるデータ利用の推進。

4) 部門横断的なエンゲージメントとリスク分析

プライバシーリスクを評価するための部門横断的な連携、および社内レビューおよびプライバシー影響評価 (PIA) を通じた、組織全体での認識と整合性の強化。

5) 一元化されたプライバシーリソース

ポリシー、ガイドライン、トレーニング資料、テンプレートへの合理的なアクセスを可能にするイントラネットページの立ち上げ。

6) 継続的な監視と継続的な改善

法令改正に関する最新情報の把握と、ポリシーおよびテンプレートの定期的な更新。

7) 透明性の高いコミュニケーション

透明性の維持への取り組み。個人データの収集・利用・保護に関する明確な説明と、プライバシーポリシーを通じた個人の権利の尊重。

これらの取り組みを通じて、ルネサスは個人データの取り扱いにおける責任を確実に果たし、イノベーション、信頼、グローバルコンプライアンスを支えるプライバシー文化を育んでいます。

タックス・ポリシー

ルネサス エレクトロニクスグループは、行動規範に基づき、税務の透明性確保に努めるとともに、各国の法令および規則を遵守します。当社のタックス・ポリシーは、取締役会において承認され、当社の事業を長期にわたって持続可能なものとするための基本理念としての役割を果たしています。

タックス・ポリシーを通じ、以下を補償します。

透明性

社内の各部門、株主およびその他関係者が、当社の税務ポジション、リスク、戦略を共有できるよう、透明性の確保に努めます。また、常に適切な分析やエビデンスに基づき、適切な意思決定をすることに努めます。

税法遵守

各国の法令の遵守に努めます。常に税制改正を把握し、当社の施策が法令に照らして不明瞭な場合は、利害関係者への確認に努めます。さらに、従業員教育により、従業員の税務知識の向上に努めます。

適正な税負担

株主価値の最大化を実現するため、事業目的および法令の範囲内で税控除および優遇税制を適用することで、適切な税負担実現に努めます。明瞭な事業目的および事業実態は当社にとって重要事項です。したがって、税負担軽減のみを目的とした取引や、タックス・ヘイブンを利用した租税回避および利益移転を目的としたスキームは採用しません。

二重課税の回避

同一の経済的利益に対する二重課税を回避するため、租税条約による軽減税や各国税務当局間の相互協議の積極的な利用に努めます。

移転価格

ルネサスおよび海外子会社間のグループ内取引に関して、OECDの移転価格ガイドラインが規定する独立企業間原則に基づき、適正な利益配分の実現に努めます。さらに、税務当局との事前確認制度を利用し、移転価格税制に係る租税リスクの最小化に努めます。

不確実な税務ポジション

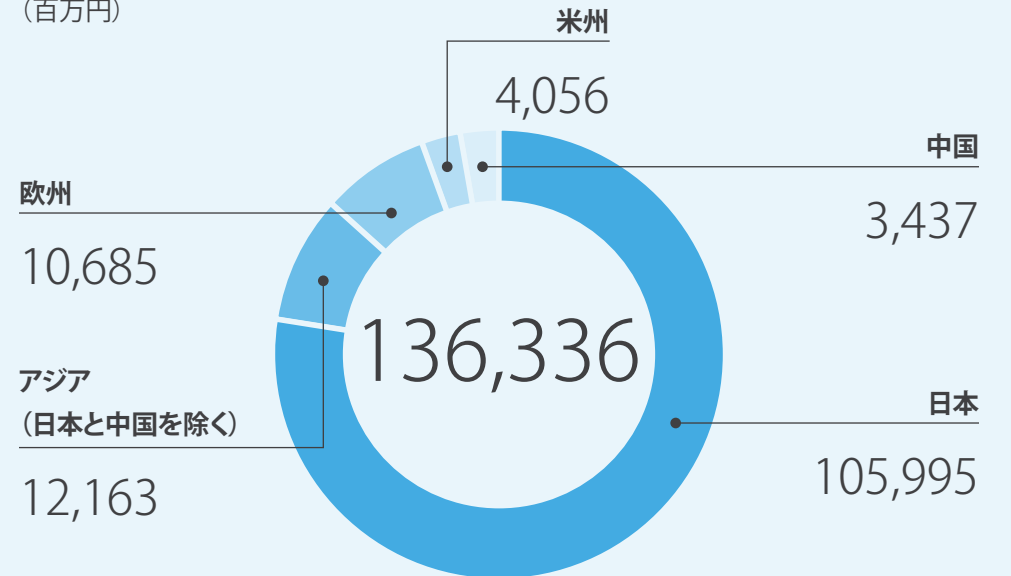
税法の表面的な解釈だけでなく、その趣旨に沿った適用に努めます。これは、税法の公式および非公式の最新情報を常に理解しておくことを意味します。税務ポジションの精査とサポートの準備、また税務ポジションが不確実な場合は情報開示に努めます。

税務当局との関係

税務当局に対して適切な情報提供を行い真摯な対応に努め、税務当局との信頼関係を維持してまいります。税務当局との間に見解の相違が発生した場合には、税務当局と建設的なコミュニケーションを行い、問題解決に努めます。

2023年度 地域別支払法人税額

(百万円)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境 (Environment)



社会 (Social)



ガバナンス (Governance)



ビジネスリスポンシビリティ (Business Responsibility)



データ集



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)

- 108 人権保護に対する取り組み
- 111 サプライヤー・エンゲージメントと責任ある鉱物調達
- 114 地域社会との交流と社会貢献活動
- 118 イニシアティブへの参画



人権保護に対する取り組み



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

ルネサスは、最高水準の人権尊重と倫理的な事業運営の実現に全力で取り組んでいます。当社の取り組みは国際的に認められた枠組みに基づいており、責任と誠実さをもって事業を行っています。具体的には、当社の事業活動は以下の通り準拠しています。

■ 国連「ビジネスと人権に関する指導原則」および「国際人権章典」に基づき、当社のすべての事業活動において基本的人権を尊重・推進する強固な基盤としています。

■ 2021年より署名企業として支持している「国連グローバル・コンパクトの10原則」に基づき、人権、労働、環境、腐敗防止の分野での取り組みを推進しています。

■ 国際労働機関 (ILO) の「労働における基本的原則及び権利に関するILO宣言」に準拠し、結社の自由、強制労働および差別の撤廃を含む公正な労働慣行の実現に尽力しています。

これらのコミットメントは、当社の事業活動およびサプライチェーン全体において、国際的な人権基準の向上に貢献するという当社の姿勢を示すものです。

人権に関するガバナンスと監督

ルネサスは、人権の尊重を徹底するため、効果的な管理メカニズムを導入し、確実な意思決定プロセスを確保しています。

人権に関する懸念事項は明確な順序で報告およびエスカレーションされており、透明性の高いガバナンス体制を維持しています。取締役会および新たに設置された監査・サステナビリティ委員会は、包括的な報告を確認する際に人権リスクを考慮しています (詳細はこちら:[ガバナンス体制](#))。

2022年には人権推進体制を確立し、当社の人権尊重の取り組みに沿ってグローバルな活動を牽引しています。この取り組みは、執行役員 兼 CHRO (Chief Human Resources Officer) が主導しています。



人権保護に対する取り組み(続き)

人権デューディリジェンスとリスクアセスメント

ルネサスは、Business for Social Responsibility (BSR) との連携およびPwCの支援のもとで実施した自己評価アンケートに基づき、社内およびサプライチェーンの主要な事業体において、以下の6つの重要な人権リスクを特定しました。

1. 安全で健康的な労働環境
2. 児童労働および強制労働の禁止
3. 労働時間
4. 責任ある鉱物調達
5. 労使関係(日本)
6. 人権教育

これらの重要課題において、当社の高い倫理基準を維持し、ステークホルダーの期待に応えるために、ルネサスは国連「ビジネスと人権に関する指導原則」に則り、リスクの特定、防止、軽減に向けた追加的な取り組みを進めています。これには、最も重大なリスクを優先的に扱うよう設計された、現在の人権デューディリジェンスプロセスの継続的な強化へのコミットメントも含まれます。このプロセスには、一定の間隔で実施する包括的なレビューに加え、その間の数年間における地域ごとの具体的な対応も含まれます。

人権デューディリジェンスの活動プロセス

評価・分析

- ・ 潜在的な人権リスクの特定
- ・ 特定されたリスクの重要度評価 (深刻度や規模の確認)
- ・ 優先して対応すべきリスクの抽出

計画・実行

- ・ リスクに対する実行計画策定
- ・ 分析・評価の結果に基づくリスク低減に向けた行動
- ・ 人権教育・研修の実施

報告・開示

- ・ 報告書やウェブサイトによるステークホルダーへの情報開示

監視確認

- ・ 人権方針の遵守状況、リスク低減活動の進捗確認
- ・ 取締役会による監査





目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

人権保護に対する取り組み(続き)

人権の推進:ギャップ解消と未来への構築

2024年における人権への主な取り組みは、リスク評価プロセスで特定された未対応事項に対応することでした。得られた知見をもとに、日本における労使関係の管理や強制労働・児童労働の禁止に関する重要なギャップの解消を優先し、コンプライアンスと業務の健全性を強化しました。この取り組みは、当社の組織全体およびサプライチェーンにおいて人権リスクを積極的に特定し、低減する姿勢を示すものです。

当社の最新の成果と進捗は以下の通りです。

- **労働権の推進:** 公正な待遇を保証し、強制労働や債務労働といった搾取から労働者を保護するため、責任ある採用慣行を含む新たなポリシーを策定しました。当社の責任ある採用プロセスは、[Institute for Human Rights and Business](#)のガイドラインに基づいています。
- **従業員のウェルビーイング向上:** 「海外リモートワーク」プログラムやハイブリッド勤務モデルといった柔軟な勤務形態を導入・拡充し、ワークライフバランスの促進と健康的な職場環境の権利の保護に努めています。[\(詳細はこちら\)](#)
- **グローバル基準との整合:** 国際的な人権の枠組みを尊重する姿勢を強化するため、[ルネサス エレクトロニクスグループの人権方針](#)を改訂し、最新のベストプラクティスを反映しました。
- **労働者の代表権の推進:** 団体交渉権を尊重し、建設的な労使関係を育むため、労働組合、労働協議会、従業員団体との連携を強化しました。
- **インクルージョンの促進:** 従業員リソースグループ(ERG)を導入するなど、ダイバーシティ&インクルージョン施策を毎年強化し、全従業員にとって公平で差別のない環境を確保しています。[\(詳細はこちら\)](#)

同時に、この分野での持続的な進展を確保するだけでなく、当社の人権への取り組みをグローバルなベストスタンダードおよび組織目標と整合させるために、包括的な中長期戦略の策定も積極的に進めています。

サプライヤー・エンゲージメントと責任ある鉱物調達

責任ある原材料調達と製品開発を行うには、サプライヤーやパートナーとの緊密な連携が不可欠です。ルネサスは、世界中のサプライヤー・エンゲージメントを強化するために、双方向セミナーの機会を設け、継続的に開催しています。その結果、2024年も2年連続でCDPエンゲージメント・リーダーボードに選定されました。気候変動課題に対するサプライヤーとの協働で評価された企業の上位8%を代表するサプライヤー・エンゲージメント・リーダーの1社として認められたことを光栄に思います。

中期目標

ルネサスでは、持続可能なサプライチェーンの実現に向け、中期目標および毎年のKPIを設定し、活動を進めています。中期目標(2025年 - 2028年)には以下が含まれます。

- 1) 重要取引先の100%が「ルネサスサプライヤー行動規範」に同意
- 2) 重要取引先の100%からResponsible Business Alliance (RBA) セルフアセスメントアンケート(SAQ)への回答を取得

グリーン調達の推進

ルネサスは、環境に配慮した調達活動の推進により、持続可能な社会の実現に貢献しています。当社は、国際的な規制への対応および環境保護の推進を目的として「ルネサス エレクトロニクス グリーン調達基準」を制定し、取引先に遵守を要請しています。ルネサスグループでは、これらの基準に基づき、環境保全に積極的な企業から、環境に配慮した部品や材料を優先的に調達しています。また、当社はこの環境情報のステークホルダーへの開示を強化するとともに、相互理解を深めるためのコミュニケーションも積極的に進めています。

RBAの加盟と新たな行動規範

2021年のRBA加盟に伴い、ルネサスでは「サプライチェーンCSR推進ガイドブック」の内容を見直しました。改訂版は「ルネサス サプライヤー行動規範(SCoC)」と名称を変更しました。2024年には、RBA行動規範の最新の内容を反映させるかたちでサプライヤー行動規範を改訂し、主要取引先からの同意取得に取り組みました。2025年2月時点で、当社の主要取引先の92%が改訂されたサプライヤー行動規範に同意しています。

RBA VAP監査への参加

当社は、RBA行動規範の遵守を示すため、ペナン工場および那珂工場でRBA VAP (Validated Assessment Program) 監査を実施しました。2024年は那珂工場が最高位のプラチナ認証を取得し、続いて2025年4月には、ペナン工場もプラチナ認証を取得しました。

セルフアセスメントアンケート(SAQ)

ルネサスでは、直接材の取引先を対象に、ESG活動の状況を確認・評価するESG調査を定期的実施しています。調査項目には、労働、安全衛生、環境、倫理、マネジメントシステムが含まれます。評価結果はサプライヤーに開示し、自主改善ツールとしても活用しています。2024年には、150社以上のサプライヤーからSAQへの回答を得ました。

加えて、RBAが提供するリスクアセスメントプラットフォームを活用し、すべてのサプライヤーの地政学的リスクおよび業種別リスクを定期的に確認しています。これらの活動の結果、サプライヤーが高リスクである可能性があるとして分類された場合には、主要取引先と同様に、自己診断調査を用いた自主点検および自主改善を速やかに要請しています。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンスビリティ
(Business Responsibility)



データ集

サプライヤー・エンゲージメントと責任ある鉱物調達 (続き)

目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



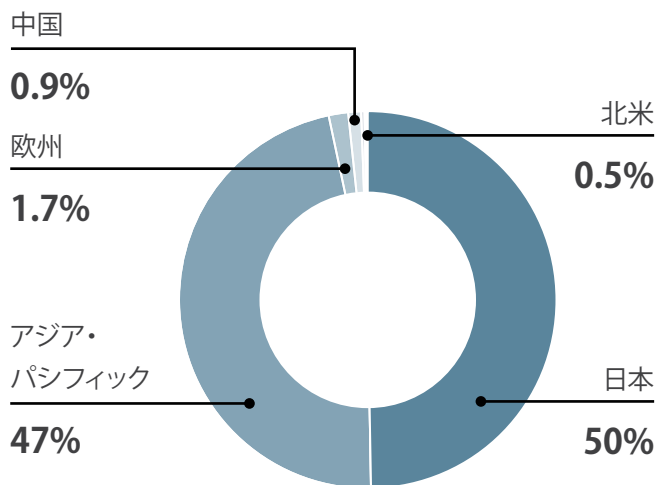
ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



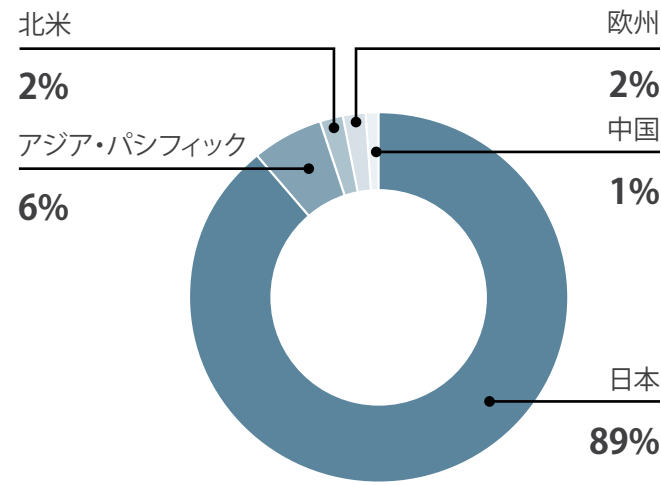
データ集

サプライチェーン概要データ (地域別)

地域毎の購入金額比率 (2024年)



地域毎の取引先数比率 (2024年)



CDPサプライチェーンプログラム

ルネサスは、サプライヤーのESG取り組みの効率的な実施と評価、および回答業務の効率化のため、CDPサプライチェーンプラットフォームを活用しています。2024年6月14日、50社を超えるサプライヤー様にご参加いただき、オンラインによる「CDPサプライチェーンプログラム説明会」を実施しました。ルネサスのESGに対する取り組みを共有するとともに、CDPより、サプライチェーンプログラムの概要を説明いただきました。セッションでは、自己診断アンケートへの回答方法に関するガイダンスや、GHG排出量の削減施策に関する専門的な質疑応答を行いました。2024年のCDP調査では、77社から回答をいただきました。

サプライヤー・エンゲージメントと責任ある鉱物調達 (続き)

責任ある鉱物調達

ルネサスは、サプライチェーンにおける人権侵害や環境破壊等に加担しないために、紛争鉱物を含まない責任ある鉱物調達の実現に取り組んでいます。ここで言う紛争鉱物とは、OECD指針の附属書IIに提示されるリスクにかかわる、コンゴ民主共和国およびその周辺諸国をはじめとする、OECD紛争地域および高リスク地域からの鉱物を指します。

2025年は、当社の製品に含まれる紛争鉱物（3TG）を全て特定すること、第三者機関であるRMI（Responsible Materials Initiative）が認定し、以下に「適合精錬所」と定義されるコンフリクトフリーの精錬所にて精錬されていることの確認に、継続して取り組んでいます。

3TG調査結果

	2022年		2023年			
	合計	合計	スズ	タンタル	タングステン	金
特定精錬所数	230	210	61	32	31	86
認定精錬所数	230	210	61	32	31	86

Celeno製品を除く。

責任ある鉱物調達方針は、[こちら](#)をご覧ください。

JEITA研究会への参加：電子情報技術産業協会（JEITA）の加盟会員として、ルネサスは2022年4月、同協会主催の「責任ある鉱物調達検討会」に加盟しました。当社はこの研究会の一員として、責任ある鉱物調達についてのオンラインセミナーを支援し、この課題への取り組みに関する知見を共有しています。

地域社会との交流と社会貢献活動

ルネサスでは、地域社会への積極的な貢献は道義的な責務であると同時に、健全なビジネス慣習でもありと考えています。

国内においては、ボランティア休暇を含む各種休暇を年次有給休暇の中に取り込み、年次有給休暇の合計日数を増やすことで、従業員が地域社会への貢献(ボランティア活動)に余暇の一部を活用できる仕組みを構築しています。加えて、週休3・4日制度を導入し、定期的に行われる地域活動への参加も容易にしています。

米国では、正規のフルタイム従業員なら誰でも、承認された社会奉仕活動に参加するために、有給労働時間を年間で16時間まで使用できます。

2024年 社会貢献活動の金額実績(万円)

寄付金	975
協賛金	716
現物寄付	108
従業員のボランティア活動参加 (参加時間を金額換算)	507



環境保全への取り組み



植樹および緑化回復活動(中国・蘇州)：2024年6月24日、蘇州工場では2024年の環境活動が開始されました。この活動では、長年にわたる地下鉄工事によって損なわれた工場の緑地を回復することを目的に、植樹と緑化に重点が置かれました。ゼネラルマネージャーと副ゼネラルマネージャーの主導のもと、70名以上の従業員がボランティアとして新たな低木や花を植えました。この取り組みは、環境意識の向上、職場環境の改善、チームワークの強化、そして従業員の帰属意識の醸成を目的としています。猛暑の中でも、参加者全員が蘇州工場の美化に向けて懸命に作業し、自らの手で工場に新たな活力をもたらすことを願って取り組みました。



アースアワー・プログラム(マレーシア・ペナン)：2024年3月23日、午後8時30分から9時30分まで、約35名の従業員が「PZ3アースアワー・プログラム」に参加し、持続可能性への取り組みとして不要な照明を消灯しました。参加者たちは、キャンドルを使って「Renesas Earth Hour」の文字を創作し、カフェテリア、通路、廊下、多目的コート、駐車場、構内の街灯など、さまざまな場所の照明を消しました。このイベントは、環境保全の重要性を強調し、他の人々にも行動を促すきっかけとなりました。小さな努力の積み重ねが、より持続可能な世界の実現につながることを示しています。ルネサスは、この取り組みを一過性のものにせず、今後も地球のために意義ある変化を継続していく決意です。



ビーチクリーン活動(トルコおよび日本)：ルネサスの従業員は、世界各地で海岸やビーチの清掃活動を通じて環境保全に取り組んでいます。トルコでは、ルネサスチームが長年にわたり「Turmepa」財団と連携し、夏季の人口増加による汚染に対抗する清掃活動を行ってきました。今年はキナラダ島の海岸清掃を実施し、その後ブルガザダ島で労をねぎらう昼食会が開かれました。一方、日本では、北陸および松本支社の従業員が2024年5月25日に「クリーンビーチいしかわ」イベントに参加し、徳光海岸の保全活動を15年にわたり継続しています。これらの取り組みは、次世代のために地球を守るというルネサスの社会的責任への継続的なコミットメントを体現しています。献身的に参加して下さったすべてのボランティアの皆さんに、心から感謝申し上げます。

次世代エンジニアの教育



1年生向けガイド付き見学ツアー(ウクライナ・リヴィウ)：5月、リヴィウのルネサスチームは、リヴィウ工科大学電子工学科の1年生を迎え、ガイド付きの見学ツアーを実施しました。見学では、当社の紹介を行い、エンジニアたちがラボでどのように働いているかを実際に見学してもらいました。また、将来このような企業で働くことを目指す学生たちに向けて、どのようなスキルに注力すべきかについても話し合いました。この取り組みは、次世代のエンジニアたちに刺激を与え、進むべき道を示す貴重な機会となりました。



子どもプログラム教室(日本)：若手社員が「EII (EP Initiatives By Innovators)」という活動を主導し、ルネサスが直面する課題に取り組んでいます。その一環として、東京都の「放課後子ども教室」プログラムに参加し、2024年7月から9月にかけて5つの小学校を訪問してプログラミング教室を開催しました。授業では、RL78/G23 FPBマイコンボードを使って「電子オルゴール」を作成しました。子どもたちは非常に熱心に取り組み、参加した84名のうち97%が「楽しかった」と回答しました。この取り組みは、子どもたちにプログラミングや電子工作への興味を持ってもらうことを目的としており、同時にルネサスの認知度向上にもつながっています。



学校訪問(イタリア・ミラノ)：ルネサスのフィールドアプリケーションエンジニアであるフェデリカ・マウラは、「Inspiring Girls Italia」と協力し、ミラノの小学生25名と交流しました。彼女はロールモデルとして、自身の仕事の魅力や、どのようにしてエンジニアとしてのキャリアを切り開いたのかを語りました。また、STEM業界における固定観念を打ち破ることや、エンジニアという職業がもたらす多様な仕事や旅行の機会についても紹介しました。講演の最後には、生徒たちから多くの前向きな質問が寄せられ、活発な意見交換が行われました。

地域社会への支援



研修と社会貢献プログラムに参加(シンガポール)：2024年8月21日、シンガポールのルネサス社員20名が「プロジェクト・ディグニティ」のボランティア活動に参加し、生活に困っている方々向けのケアパック作成をサポートしました。参加者は、飲み物を注文する際に使える簡単な手話を学び、「プロジェクト・ディグニティ」の取り組みについて説明を受けました。その後、90個の弁当を詰めて、支援を必要としている近隣の住民に配布。この活動を通じて、障がいのある方々の経験や視点について理解を深める貴重な機会となりました。この取り組みは、シンガポールのルネサス社員の思いやりと行動力を示すものであり、DEI(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン)チームからも高く評価されました。謙虚さと多くの気づきを得た参加者たちは、日々の暮らしへの感謝の気持ちを新たにしています。



「Don't Stop!」ハーフマラソンに参加(ウクライナ・リヴィウ)：2024年5月12日、リヴィウのルネサス・ランニングチームが「Don't Stop!」ハーフマラソンに参加しました。このイベントは、ウクライナの国民的な連帯と、より良い未来への強い想いを象徴するものです。困難な状況の中でも前進し続けるウクライナの人々の不屈の精神を浮き彫りにする、特別な意味を持つ大会となりました。当日は、ルネサスから12名の社員が熱意を持ってチャレンジに臨み、参加費の100%が、紛争の影響を受けた方々のリハビリ支援を行う「Unbroken」センターに寄付されました。マラソンは、地域社会の結束と回復力の強さを改めて感じさせるものであり、困難に直面する人々を支援できたことを誇りに思います。



中古本リサイクル活動に参加(香港)：ルネサス香港は、環境保護とチャリティを組み合わせた「Book for Love 2024」中古本リサイクル活動に参加しました。この取り組みは、寄付された中古本を回収・販売し、読書文化の継承を促進するとともに、その売上を香港の青少年支援団体「Boys' and Girls' Clubs Association of Hong Kong」と「Agency for Volunteer Service」が運営する「Treasure Trove」プロジェクトに寄付するものです。このプロジェクトは、地域の困難を抱える家庭の支援や、地元のボランティア活動の推進にもつながっています。多くの社員が積極的に参加し、温かいご支援とご協力をいただいたことに心から感謝しています。知識と優しさを分かち合いながら、地域社会への貢献を今後も続けてまいります。

イニシアティブへの参画

ルネサスはグローバルな業界リーダーとして、持続可能性に焦点を当てたさまざまなイニシアティブを積極的に支援し、参画しています。提言活動や共同の取り組みを通じて、地球、人々、そして世界中のコミュニティに影響を及ぼす重要なサステナビリティ課題の解決に向けた当社のコミットメントを示し、前進させることを目指しています。



- 目次
- ルネサスについて
- 2024年度の事業トピックス
- サステナビリティへの取り組み
- 環境 (Environment)
- 社会 (Social)
- ガバナンス (Governance)
- ビジネスリスponsibility (Business Responsibility)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

データ集

- 120 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 対照表
- 122 サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表
- 124 グローバル・レポーティング・イニシアチブ (GRI) 対照表
- 129 2024年度環境データ
- 133 第三者検証:環境データ
- 134 第三者検証:人材データ
- 135 将来の見通しに関する記述

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) 対照表

TCFD推奨開示項目	掲載箇所
ガバナンス	
気候関連のリスクおよび機会についての、取締役会による監視体制	サステナビリティサイト： ガバナンス リスクマネジメント TCFD提言への対応
気候関連のリスクおよび機会を評価・管理する上での経営者の役割	
戦略	
組織が識別した、短期・中期・長期の気候関連のリスクおよび機会	サステナビリティサイト： TCFD提言への対応 気候変動への取り組み イノベーション
気候関連のリスクおよび機会が組織のビジネス・戦略・財務計画に及ぼす影響	
2°C以下シナリオを含む、さまざまな気候関連シナリオに基づく検討を踏まえた、組織の戦略のレジリエンス	
リスクマネジメント	
組織が気候関連リスクを識別・評価するプロセス	サステナビリティサイト： TCFD提言への対応 リスクマネジメント 環境に対する取り組み
組織が気候関連リスクを管理するプロセス	
組織が気候関連リスクを識別・評価・管理するプロセスが組織の総合的リスク管理にどのように統合されているか	



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

TCFD推奨開示項目	掲載箇所
<p>指標と目標</p>	
<p>組織が、自らの戦略とリスク管理プロセスに即して、気候関連のリスクおよび機会を評価する際に用いる指標</p>	<p>サステナビリティサイト： TCFD提言への対応 環境保全の目標</p>
<p>スコープ1、スコープ2および当てはまる場合はスコープ3の温室効果ガス(GHG)排出量と、その関連リスク</p>	<p>サステナビリティサイト： 環境データ・第三者検証 気候変動への取り組み</p>
<p>組織が気候関連リスクおよび機会を管理するために用いる目標、および目標に対する実績</p>	<p>サステナビリティサイト： TCFD提言への対応 環境保全の目標 気候変動への取り組み</p>

サステナビリティ会計基準審議会 (SASB) 対照表

トピック	コード	指標	対応
温室効果ガスの排出	TC-SC110a.1	(1)グローバルでのスコープ1総排出量 (2)ペルフルオロ化合物からの総排出量	(1) 125,385 t-CO ₂ (2) 93,356 t-CO ₂
	TC-SC-110a.2	スコープ1排出を管理するための長期的および短期的な戦略または計画、排出削減の目標並びにそれらの目標に対するパフォーマンスの分析についての説明	カーボンニュートラル実現に向けてご参照ください。
製造におけるエネルギー管理	TC-SC-130a.1	(1)エネルギー総消費量 (2)電力系統からの電力の割合 (3)再生可能エネルギーの割合	(1) 1,621,052 MWh (2) 84% (3) 0%
水管理	TC-SC-140a.1	(1)総取水量 (2)総消費水量、およびそれらのベースライン水ストレスが「高い」または「極めて高い」地域の割合	(1) 15,586 km ³ (2)水総使用量: 22,907 km ³ ルネサスの総消費水量のうち約2%を、水ストレスの高い地域にある中国の2拠点が消費しました。水資源を守るをご参照ください。
廃棄物に対する取り組み	TC-SC-150a.1	(1)製造時に排出される廃棄物の総量、(2) リサイクル率	(1) 2,503 t (2) 75% 廃棄物に対する取り組みをご参照ください。
安全衛生	TC-SC-320a.1	健康リスクに対する従業員の曝露を評価・監視し、削減する取り組みについての説明	安全衛生をご参照ください。
	TC-SC-320a.2	従業員の健康・安全への侵害に関連する法的手続きによって生じた金銭的損失の総額	2024年、ルネサスでは、従業員の健康・安全への侵害に関連する法的手続きによって生じた金銭的損失はありませんでした。
グローバルで多様性に富み、高いスキルを持つ人材の採用・管理	TC-SC-330a.1	就労ビザを必要とする従業員の割合	外国人比率は開示していません。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

製品ライフサイクル管理	TC-SC-410a.1	IEC 62474申告対象物質を含む製品の収益割合	ルネサスはこれに関する情報を開示していません。 製品の有害物質に関する当社の取り組みについては、 <u>化学物質への対応 (ルネサスウェブサイト)</u> をご覧ください。
	TC-SC-410a.2	(1) サーバー、(2) デスクトップパソコン、および (3) ノートパソコンの システムレベルでのプロセッサのエネルギー効率	ルネサスはこれらの情報を捕捉していません。 これはルネサスの事業には適用されません。
マテリアル調達	TC-SC-440a.1	クリティカルマテリアルの使用に関連するリスクの管理に関する説明	<u>サプライチェーンおよびパートナーとのエンゲージメント</u> を ご覧ください。
知的財産の保護および 競争的行為	TC-SC-520a.1	反競争的行為の規制に関連する法的手続きによる金銭的損失の総額	2024年、ルネサスでは、反競争的行為の規制に関連する 法的手続きによる金銭的損失はありませんでした。

グローバル・レポート・イニシアチブ (GRI) 対照表

GRIスタンダード	開示項目	掲載箇所	
GRI 2: 一般開示事項 2021	2-1	組織の詳細	ルネサス エレクトロニクス株式会社 ルネサスについて
	2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	本報告書について
	2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	本報告書について
	2-4	情報の修正・訂正記述	本報告書について
	2-5	外部保証	本報告書について
	2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	ルネサスについて
	2-7	従業員	グローバルネットワーク ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
	2-9	ガバナンス構造と構成	ガバナンス体制 各取締役のスキルと多様性
	2-10	最高ガバナンス機関における指名と選出	ガバナンス体制 各取締役のスキルと多様性
	2-11	最高ガバナンス機関の議長	取締役 代表執行役社長 兼 CEO 柴田 英利
	2-12	インパクトのマネジメントの監督における最高ガバナンス機関の役割	ガバナンス体制 各取締役のスキルと多様性
	2-13	インパクトのマネジメントに関する責任の移譲	CFOメッセージ 環境保全と持続的成長 優れた人材基盤の強化とサステナビリティの推進 サステナビリティサイト: ガバナンス



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

GRIスタンダード		開示項目	掲載箇所
2-14	2-14	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	ガバナンス体制 サステナビリティサイト: ガバナンス
	2-15	利益相反	
	2-16	重大な懸念事項の伝達	
	2-17	最高ガバナンス機関の集合的知見	
	2-18	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	コーポレートガバナンス報告書
	2-19	報酬方針	サステナビリティサイト: 役員報酬
	2-20	報酬の決定プロセス	
	2-22	持続可能な発展に向けた戦略に関する声明	CEOメッセージ
	2-23	方針声明	人権保護に対する取り組み サステナビリティサイト: 人権
	2-24	方針声明の実践	ガバナンス体制 サステナビリティサイト: ガバナンス
2-25	2-25	マイナスのインパクトの是正プロセス	サステナビリティサイト: 企業倫理・コンプライアンス
	2-26	助言を求める制度および懸念を提起する制度	
2-27	法規制遵守	コンプライアンス・企業倫理	
2-28	会員資格を持つ団体	イニシアティブへの参画	
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	ステークホルダーマネジメント	
2-30	労働協約	ルネサスは、事業を行う一部の地域において、従業員が労働組合に加入する、または労働組合を結成する権利、および団体交渉を行う権利を有することを認識しています。ルネサスは、従業員の労働組合への加入や組合活動への参加を理由に差別を行いません。また、従業員のプライバシー権を確保するため、こうした組織への加入状況を監視・追跡することはありません。	

GRIスタンダード		開示項目	掲載箇所
GRI 3: マテリアルな項目 2021	3-1	マテリアルな項目の決定プロセス	サステナビリティサイト: Material Issues and Sustainability
	3-2	マテリアルな項目のリスト	
	3-3	マテリアルな項目のマネジメント	
GRI 201: 経済 パフォーマンス 2016	201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	サステナビリティサイト: TCFD提言への対応
GRI 205: 腐敗防止 2016	205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	コンプライアンス・企業倫理
	205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	コンプライアンス・企業倫理
	205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	2024年に、ルネサスで腐敗事例は確認されませんでした。
GRI 206: 反競争的行為 2016	206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	ルネサスは、反競争的行為、独占禁止法、および独占的慣行を理由とする法的措置の対象になりませんでした。
GRI 207: 税金 2019	207-1	税務へのアプローチ	タックス・ポリシー
GRI 302: エネルギー 2016	302-1	組織内のエネルギー消費量	環境データ
GRI 303: 水と廃水 2018	303-1	共有資源としての水との相互作用	水資源を守る
	303-2	排水に関連するインパクトのマネジメント	
	303-3	取水	環境データ
	303-4	排水	
	303-5	水消費	

GRIスタンダード		開示項目	掲載箇所
GRI 305:大気への排出 2016	305-1	直接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ1)	<u>環境データ</u>
	305-2	間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ2)	
	305-3	その他の間接的な温室効果ガス (GHG) 排出量 (スコープ3)	
	305-5	温室効果ガス (GHG) 排出量の削減	<u>2024年度ESGハイライト</u>
GRI 306:廃棄物 2020	306-1	廃棄物の発生と廃棄物関連の著しいインパクト	<u>廃棄物に対する取り組み</u>
	306-2	廃棄物関連の著しいインパクトの管理	
	306-3	発生した廃棄物	<u>環境データ</u>
	306-5	処分された廃棄物	<u>環境データ</u>
GRI 401:雇用 2016	401-1	従業員の新規雇用と離職	<u>人材データ・第三者検証</u>
GRI 403:労働安全衛生 2018	403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	<u>サステナビリティサイト:安全衛生</u> <u>安全衛生</u>
	403-6	労働者の健康増進	<u>サステナビリティサイト:安全衛生</u> <u>安全衛生</u>
	403-9	労働関連の傷害	<u>サステナビリティサイト:人材データ・第三者検証</u> <u>安全衛生</u>
GRI 404:研修と教育 2016	404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	<u>人材育成</u>
GRI 405:ダイバーシティと機会均等 2016	405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	<u>各取締役のスキルと多様性</u> <u>サステナビリティサイト:人材データ・第三者検証</u>
	405-2	基本給と報酬総額の男女比	<u>ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン</u> <u>サステナビリティサイト:人材データ・第三者検証</u>



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

GRIスタンダード		開示項目	掲載箇所
GRI 406:非差別 2016	406-1	差別事例と実施した救済措置	<u>人権保護に対する取り組み</u> 人権
GRI 407:結社の自由と 団体交渉 2016	407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所 およびサプライヤー	<u>人権保護に対する取り組み</u> 人権
GRI 408:児童労働 2016	408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	<u>人権保護に対する取り組み</u> 人権
GRI 409:強制労働 2016	409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	<u>人権保護に対する取り組み</u> 人権
GRI 413:地域コミュニティ 2016	413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラム を実施した事業所	<u>地域社会との交流と社会貢献活動</u>
	414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	<u>サプライチェーンおよびパートナーとのエンゲージメント</u>
GRI 415:公共政策 2016	415-1	政治献金	ルネサスはいかなる政治献金も行っておりません。

2024年度環境データ

電力関係のCO₂排出量算出時の排出係数は、日本の環境省・経済産業省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく電力事業者別の調整後排出係数、海外については各年度における電力供給会社が提供する最新の係数を使用しています。最新の係数の実績値が不明の場合は、暫定的に前年度の実績値を使用して算出しています。燃料関係は、日本の環境省・経済産業省「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」を使用しています。

地球温暖化ガス (GHG) 排出量			
項目1	項目2	単位	2024年
CO ₂	排出量計 (S1+S2)	t-CO ₂	767,935
排出量	スコープ1 直接排出	t-CO ₂	125,385
	燃料他	t-CO ₂	32,029
	PFC排出量 (IPCC2006 Tier2a)	t-CO ₂	93,356
	スコープ2 間節排出	t-CO ₂	642,550
	購入した電力 (マーケット基準)	t-CO ₂	622,688
	(参考) 購入した電力 (ロケーション基準)	t-CO ₂	638,962
	電力以外	t-CO ₂	19,862
	スコープ3 スコープ1、2を除くサプライチェーン上の排出	t-CO ₂	1,472,548
	C1 購入した製品・サービス	t-CO ₂	1,181,824
	C2 資本財	t-CO ₂	165,936
	C3 スコープ1、2に含まれない燃料、及びエネルギー関連活動	t-CO ₂	102,486
	C4 輸送、配送 (上流)	t-CO ₂	376
	C5 事業から出る廃棄物	t-CO ₂	4,914
	C6 出張	t-CO ₂	13,828
	C7 雇用者の通勤	t-CO ₂	3,184
	C8 リース資産 (上流)	t-CO ₂	0
	C9 輸送、配送 (下流)	t-CO ₂	-
	C10 販売した製品の加工	t-CO ₂	-
	C11 販売した製品の使用	t-CO ₂	-
	C12 販売した製品の廃棄	t-CO ₂	-
	C13 リース資産 (下流)	t-CO ₂	0
	C14 フランチャイズ	t-CO ₂	0
	C15 投資	t-CO ₂	0



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

エネルギー消費			
項目1	項目2	単位	2024年
総消費量		MWh	1,621,052
	電気	MWh	1,365,669
	(内)再生可能エネルギー	MWh	6,328
	蒸気	MWh	87,636
	ガス	MWh	140,334
	燃料	MWh	27,413
生産拠点消費量		MWh	1,620,379
	電気	MWh	1,365,001
	(内)再生可能エネルギー	MWh	5,741
	蒸気	MWh	87,636
	ガス	MWh	140,329
	燃料	MWh	27,413
オフィス消費量		MWh	673
	電気	MWh	668
	(内)再生可能エネルギー	MWh	587
	蒸気	MWh	0
	ガス	MWh	5
	燃料	MWh	0
売上高エネルギー消費原単位	連結売上高	億円	13,485
	売上高原単位	MWh/億円	120

水資源			
項目1	項目2	単位	2024年
総使用量 (総取水量+リサイクル水)		Km ³	22,907
総取水量		Km ³	15,586
	地表水 (河川、湖、池)	Km ³	8,822
	地下水 (井戸、掘削孔)	Km ³	4,858
	水道水 (都市用水)	Km ³	1,814
	海水	Km ³	0
	他 (雨水、採石場、外部排水)	Km ³	92
リサイクル水		Km ³	7,321
リサイクル率		%	32%
総排出量*地表への排水はありません		Km ³	11,993
	公共水域 (海洋)	Km ³	10,595
	下水 (オフサイトでの水処理)	Km ³	1,031
	他 (地下、井戸)	Km ³	367
水総使用売上高原単位	連結売上高	億円	13,485
	売上高原単位	Km ³ /億円	1.7

水データ:ルネサスグループ全生産拠点のデータ (国内外のセールスオフィス除く)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

化学物質

項目1	項目2	単位	2024年
化学物質 (PRTR法対象)	取扱量	t	979
VOC	排出量 (大気)	t	253

廃棄物

項目1	項目2	単位	2024年
総廃棄量		t	16,340
有害廃棄量		t	2,503
	リサイクル	t	1,882
	埋立	t	476
	その他 (中間処理等)	t	145
非有害廃棄量		t	13,837
	リサイクル	t	11,588
	埋立	t	819
	その他 (中間処理等)	t	1,430

コンプライアンス

項目1	項目2	単位	2024
法令・条例違反		-	0
	内排水関連	-	0
苦情		-	1
	内排水関連	-	0

第三者検証：環境データ

2024年度 JQA環境情報検証報告書



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネススポンソリティ
(Business Responsibility)



データ集

発行日: 2025年4月4日
 第 1811004991号

環境情報検証報告書

ルネサス エレクトロニクス株式会社 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、ルネサス エレクトロニクス株式会社が作成した「2024年度 Scope1, 2 排出量算定報告書」、「2024年度エネルギー消費量算定報告書」、「2024年度 Scope3 排出量算定報告書」及び「2024年度水資源算定報告書」(以下、「算定報告書」という。)が、同社により作成された「年次環境データ管理マニュアル(2024年11月28日環推(GM)-0030-10)」、「温室効果ガス Scope1(PFCガス除く)、2 排出量、エネルギー消費量 算定マニュアル(2023年11月15日環推(GM)-0036-09)」、「Scope1 PFC 排出量 算定マニュアル(2023年11月8日環推(GM)-0037-04)」、「サプライチェーン排出量 Scope3 排出量算定マニュアル(2025年2月19日環推(GM)-0035-13)」及び「水資源使用量等調査・集計マニュアル(2024年11月22日環推(GM)0038-04)」(以下、「算定ルール」という。)に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2024年度とは2024年1月1日から2024年12月31日までの期間をいう。検証の目的は、算定報告書を客観的に評価し、同社の2024年度の温室効果ガス(以下、「GHG」という。)排出量、エネルギー消費量及び水総使用量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、GHG 排出量については「ISO14064-3」、エネルギー消費量及び水総使用量については「ISAE3000」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲は、Scope1, 2 排出量(エネルギー起源CO₂排出量及びPFCガス排出量)、Scope3 排出量(カテゴリ1, 2, 3, 4, 5, 6, 7)、エネルギー消費量、水総使用量であり、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準値はそれぞれの総量の5%とした。尚、ここでいうPFCガスとはHFC(CHF₃)、PFC(CF₄、C₂F₆、C₃F₈、C₄F₈)、SF₆、NF₃を総称している。

また、本検証業務の対象組織範囲は、Scope1, 2 排出量、エネルギー消費量及び水総使用量に関してはルネサス エレクトロニクス株式会社本社及びグループ会社20拠点(国内11拠点及び海外9拠点)とし、Scope3 排出量に関しては、別紙に記載する拠点とした。

Scope3 排出量以外の検証手続きにおいては、ルネサス エレクトロニクス株式会社及びグループ会社の川尻工場、錦工場及び西条工場の3拠点を現地検証の対象とし、各拠点における算定対象範囲の確認、エネルギー消費量監視点・PFCガス排出量監視点・水使用量監視点の確認、算定・集計体制の確認、活動量データについて根拠資料との突き合わせを行った。なお、現地検証の対象とした拠点及び拠点数の決定はルネサス エレクトロニクス株式会社が実施した。算定ルールの確認及び Scope3 排出量に関する検証手続きは、ルネサス エレクトロニクス株式会社本社において実施し、算定シナリオ及びアロケーションの確認、算定・集計体制の確認及び排出量データについて根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした、算定報告書の2024年度のGHG排出量、エネルギー消費量及び水総使用量において、算定ルールに準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。

4. 留意事項

算定報告書の作成責任はルネサス エレクトロニクス株式会社にあり、GHG 排出量、エネルギー消費量及び水総使用量の検証の結論に関する責任は当機構にある。ルネサス エレクトロニクス株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目25番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事 浅田純男

本証と別紙を合わせてご覧ください。
1 / 2

別紙

温室効果ガス排出量(Scope3)のカテゴリ別の算定対象範囲

区分	算定対象範囲	
Category 1 購入した製品・サービス	ルネサスグループ全拠点	
Category 2 資本財	ルネサスグループ全拠点	
Category 3 Scope1,2 に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	温室効果ガス排出量(Scope1, 2)と同範囲	
Category 4 輸送、配送(上流)	調達資材物流の範囲 (化学物質のみ)	温室効果ガス排出量(Scope1, 2)と同範囲
	横持物流の範囲	REL/米沢工場、大分工場、錦工場 RSMC/那珂工場、高崎工場、西条工場、川尻工場
Category 5 事業活動から出る廃棄物	温室効果ガス排出量(Scope1, 2)と同範囲	
Category 6 出張	REL, RSMC REA, REE, RESG, REML, REIN, REHK, RECH, RESH, RETW, REKR, RSM, RST, RSK, RSC, RSB, RSKL, DLG	
Category 7 雇用の通勤	ルネサスグループ国内全拠点	

<上記略称の説明>

REL: ルネサス エレクトロニクス株式会社
 REA: Renesas Electronics America Inc.
 REE: Renesas Electronics Europe GmbH
 RESG: Renesas Electronics Singapore Pte. Ltd.
 REML: Renesas Electronics Malaysia Sdn. Bhd.
 REIN: Renesas Electronics India Pvt. Ltd.
 REHK: Renesas Electronics Hong Kong Limited
 RECH: Renesas Electronics (China) Co., Ltd.
 RESH: Renesas Electronics (Shanghai) Co., Ltd.
 RETW: Renesas Electronics Taiwan Co., Ltd.
 REKR: Renesas Electronics Korea Co., Ltd.
 RSMC: ルネサス セミコンダクタ マニュファクチャリング株式会社
 RSM: Renesas Semiconductor (Malaysia) Sdn. Bhd.
 RST: Renesas Semiconductor Technology (M) Sdn. Bhd.
 RSK: Renesas Semiconductor (Kedah) Sdn. Bhd.
 RSC: Renesas Semiconductor (Suzhou) Co., Ltd.
 RSB: Renesas Semiconductor (Beijing) Co., Ltd.
 RSKL: Renesas Semiconductor KL Sdn. Bhd.
 DLG: Renesas Design Bingen GmbH

本証と別紙を合わせてご覧ください。
2 / 2

報告書を読む

第三者検証：人材データ

2023年度 SGS検証意見書 (2024年度の人材データは2025年に検証予定です)



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスponsibility
(Business Responsibility)



データ集

検証意見書

2024年9月30日
意見書番号：SGS24/069



ルネサス エレクトロニクス株式会社
東京都江東区豊洲三丁目2番24号 (豊洲フォレシア)
代表執行役社長兼 CEO
柴田 英利 様

検証目的

SGSジャパン株式会社 (以下、当社) は、ルネサス エレクトロニクス株式会社 (以下、組織) からの依頼に基づき、組織のホームページに掲載された社会性データ (以下、ステートメント) について、検証基準 (当社の検証手順) に基づいて検証を実施した。本検証業務の目的は、組織の対象範囲にかかるステートメントについて、判断基準に照らし適正に算定・報告されているかを独立の立場から確認し、第三者としての意見を表明することである。ステートメントの作成及び公正な報告の責任は組織にある。

検証範囲

検証対象は、組織のホームページに掲載された、組織が特定した社会性データ 11 項目である。対象期間は 2023 年 1 月 1 日～2023 年 12 月 31 日である。詳細な検証対象範囲は別紙参照。

検証手順

本検証業務は、検証基準に則り、限定的保証水準にて次の手続きを実施した。
 ・算定体制の検証：検証対象の集計・算定・報告方法に関する質問、及び関連資料の閲覧
 ・定量的データの検証：本社における証憑突合及び関連資料の閲覧
 判断基準は、組織が定めた手順を用いた。

結論

前述の要領に基づいて実施した検証手続の範囲において、組織のステートメントが判断基準に従って、算定及び報告されていないと認められる重要な事項は発見されなかった。なお、当社は、組織から独立しており、公平性を損なう可能性や利害の抵触はない。

SGS ジャパン株式会社
神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町13-4
横浜ビジネスパーク ノーススクエア1
ビジネスアシスタンス
認証・認定業務責任者

竹内 裕二

1 / 2

本書面は、SGSジャパン株式会社によってwww.sgs.com/terms_and_conditions.htmで参照することができる「認証サービスの一般条件」に従って発行されたものであり、「認証サービスの一般条件」に規定されている責任の制限と補償に関する事項および管轄に関する事項に従います。この書面に記載された内容は検証を行った時点における適正な適用される場合は組織の指示の範囲内における確認内容を示しています。組織およびこの書面に関するSGSジャパン株式会社の責務は取引文書におけるすべての権利および義務の履行から、免除させるものではありません。本書面の内容または体裁について、許可なく偽造、変造または改ざんすることは違法であり違反した場合には法令に基づきあらゆる範囲において罰せられる可能性があります。



別紙

2024年9月30日
意見書番号：SGS24/069

検証対象範囲の詳細

検証対象	検証範囲	ステートメント
1 海外重要ポジションに占める現地化比率及び現地責任者による管理社数	海外グループ 46社 (2023年12月31日時点)	比率 78.3% 現地責任者による管理 36社
2 管理職に占める女性比率	グローバル (2023年12月31日時点)	8.6%
3 課長相当管理職に占める女性比率	グローバル (2023年12月31日時点)	8.9%
4 退職率	グローバル 日本	グローバル 7.6% 日本 3.7%
5 休業労働災害発生率及び発生件数	グローバル	発生率 0.03% 発生件数 6件
6 障がい者雇用率	日本 (2023年6月1日時点)	2.24%
7 育児休暇制度利用者数	日本	55人
8 配偶者出産休暇利用者数	日本	24人
9 育児短時間勤務制度利用者数	日本	74人
10 介護休暇制度利用者数	日本	4人
11 管理職レベルの平均報酬及び男性に対する女性の比率	日本	男性平均 11.8百万円 女性平均 11.7百万円 比率 99.2%

※ 表中の“グローバル”とは組織単体及び国内・海外グループ会社を指し、“日本”とは組織単体及び国内グループ会社を指す

※ 検証項目 No.11 は、算定範囲にグループ外への出向者及びグループ内への出向者の内、海外赴任者は含まず

2 / 2

本書面は、SGSジャパン株式会社によってwww.sgs.com/terms_and_conditions.htmで参照することができる「認証サービスの一般条件」に従って発行されたものであり、「認証サービスの一般条件」に規定されている責任の制限と補償に関する事項および管轄に関する事項に従います。この書面に記載された内容は検証を行った時点における適正な適用される場合は組織の指示の範囲内における確認内容を示しています。組織およびこの書面に関するSGSジャパン株式会社の責務は取引文書におけるすべての権利および義務の履行から、免除させるものではありません。本書面の内容または体裁について、許可なく偽造、変造または改ざんすることは違法であり違反した場合には法令に基づきあらゆる範囲において罰せられる可能性があります。

報告書を読む

将来の見通しに関する記述

本報告書に記載されている内容のうち、ルネサス エレクトロニクス株式会社およびその連結子会社（「当社」と総称します）の計画、戦略、および予測に関するものは、リスクや不確定な要素などを伴う将来の見通しです。このような将来の見通しに関する記述は、経営陣による将来の業績の保証を意味するものではありません。必ずではありませんが、多くの場合、将来の見通しに関する記述には、それを識別する語句として、「目指す」、「予想する」、「信じる」、「続ける」、「努める」、「見積もる」、「期待する」、「イニシアティブ」、「意図する」、「場合がある」、「計画する」、「潜在的な」、「可能性」、「予定」、「リスク」、「追求」、「するはずである」、「励む」、「目標」、「つもりである」、および類似の表現を使用しています。他にも、戦略、計画、意図についての説明の仕方でも識別することも可能です。これらの記述は、将来の見込みについて説明し、戦略を明確にするだけでなく、当社の業績または財務状況の予測を含んでいるほか、当社の事業および業界、将来の事業戦略、将来の事業環境について、現時点における期待、想定、見込み、予測に基づく、それ以外の将来の見通しに関する情報を述べたものになります。

当社の実績、業績、成果は、既知および未知のリスク、不確実性、ならびにその他の要因により、将来の見通しに関する記述に含まれるもの、またはそこで示唆されるものと著しく異なってくる可能性があります。こうした要因には、日本とアジア、北米、欧州を中心とした当社参入市場における一般的な経済状況、市場における当社製品およびサービスに対する需要および価格競争圧力、これら競争の激しい市場において当社製品およびサービスが引き続き受け入れられるようにする手腕、さらに為替レートの変動などが含まれますが、これらに限りません。その他の要因には、世界経済の悪化、世界市場の金融情勢の悪化、国内外の株式市場の悪化もありますが、それにより、実際の業績が予想と異なってくることもあります。

本報告書は、本書の日付時点での経済、規制、市場、その他の状況に基づくものです。今後の進展次第では、本報告書に含まれる情報に影響が出る可能性があります。当社および当社のアドバイザー、代理人は、これらの情報を更新、修正、または確約する義務を負いません。



目次



ルネサスについて



2024年度の事業トピックス



サステナビリティへの取り組み



環境
(Environment)



社会
(Social)



ガバナンス
(Governance)



ビジネスリスポンシビリティ
(Business Responsibility)



データ集

RENESAS

[renesas.com](https://www.renesas.com)

